

平成24年度

日本大学医学部 専門医コースガイドブック

大学病院連携型高度医療人養成推進事業

関東・信州広域循環型 専門医養成プログラム

—専門医育成と医師不足解消を目指して—

平成20年度～平成24年度



GDNSS

群馬大学 信州大学 獨協医科大学 日本大学 埼玉医科大学

はじめに

この度、日本大学、群馬大学、信州大学、獨協医科大学及び埼玉医科大学並びに各大学の関連病院が連携し、それぞれの大学病院及び各地域の関連病院を循環しながら幅広く研修を行い、専門医を取得することができる「医師キャリア形成システム」を構築しました。この新しいプログラムは平成21年度から実施しています。

この新しいプログラムの特長として、①それぞれの大学病院及び各地域の関連病院を循環しながら幅広い臨床経験を積むことができること、②連携する5大学病院は関東・信州で近接している大学であり、「医師の循環」もスムーズに行えること、③それぞれの大学病院の得意分野を相互補完することができること、④専門医取得までのキャリアパスを明示することにより安心して研修に専念できること、などが挙げられます。

5大学病院及び関連病院が連携することにより、多様で魅力あるプログラムを作成しました。多くの若手医師が、この新しいプログラムを活用され、明日の日本の医療を担って活躍されることを願っています。

本冊子は、日本大学において専門医を目指すための「コース」をまとめたもので、専門医になるために必要な期間や研修病院などが詳細に記載されていますので、是非ご覧ください。なお、各大学における「コース」の詳細については、医学生涯教育センターにお問い合わせください。

日 本 大 学 医 学 部

医学生涯教育センター長 丹正 勝久
5大学専門医養成プログラム コーディネーター 相馬 正義

平成20年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に採択

本学は、群馬大学、信州大学、獨協医科大学及び埼玉医科大学と共同で平成20年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に申請し、文部科学省の専門家・有識者による選定委員会の審査を経て、選定取組19件のうちの1件に採択されました。

■「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」とは

国公立大学病院から申請されたプログラムの中から、質の高い専門医及び臨床研究者を養成し得る内容を有するプログラムに対し財政支援を行うことにより、大学病院及び地域医療の活性化を促進し、将来の医療を担う医師養成の推進を図ることが目的です。

また、複数の大学病院が緊密に連携・協力し、それぞれの得意分野による相互補完を図り、各病院（地域における関連医療機関を含む）を循環しながら修練や幅広い経験を積むことができる医師キャリア形成システムを構築するとともに、大学病院の若手医師に多様なキャリアパスを明確に示すことにより、若手医師が将来に希望を持ちながら安心して研修に専念でき、国民の要請に応えられる質の高い専門医や臨床研究者の養成に資するとともに研修中及び研修修了後により多くの医師が地域医療に貢献することを目的としています。

■プログラムの内容

○ プログラム名称

関東・信州広域循環型専門医養成プログラム
－専門医育成と医師不足解消を目指して－

○ 連携・協力病院

日本大学、群馬大学、信州大学、獨協医科大学、埼玉医科大学の附属病院及び各大学の関連病院

○ GDNSS（グッドネス）

プログラム名に「ニックネーム（愛称）」をつけました。本プログラムの名称である「関東・信州広域循環型専門医養成プログラム」について、より親しみやすくする名称にするため、また、公募活動を通じてプログラム活動を紹介するためにニックネームを公募しました。

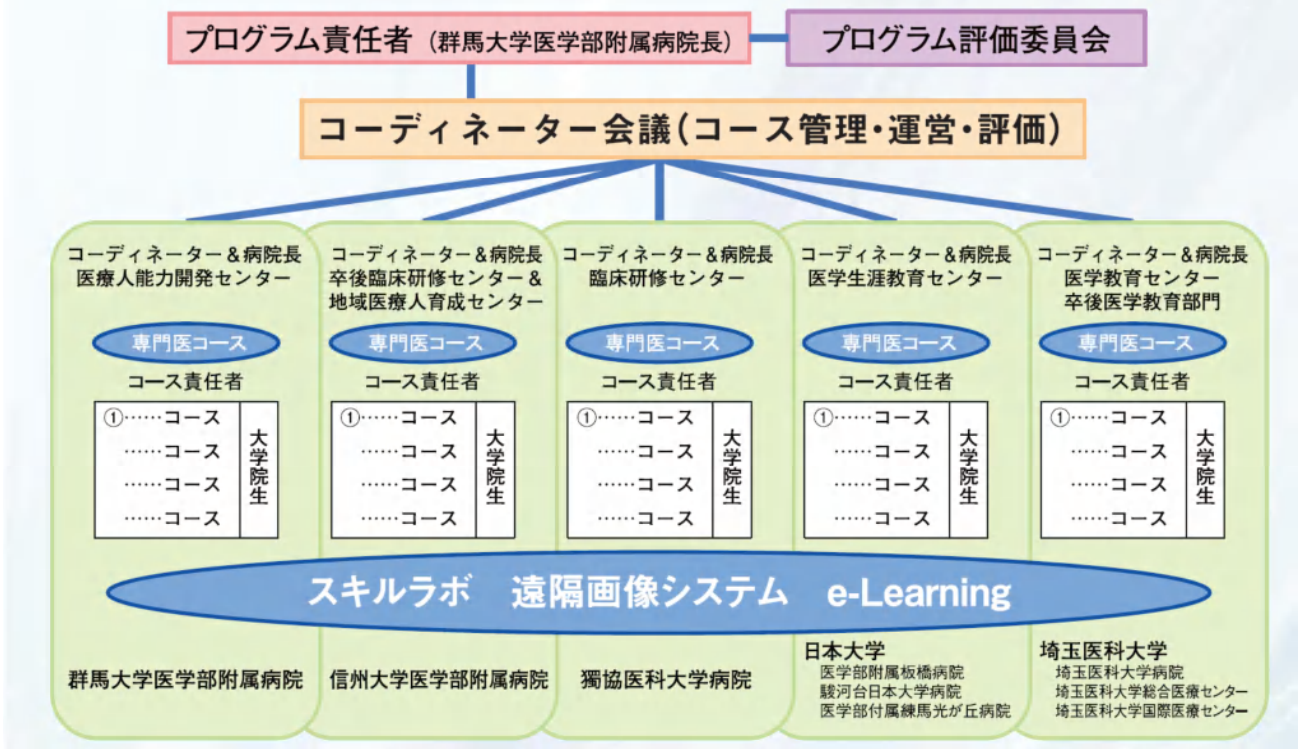
ニックネーム候補を第9回コーディネータ会議（平成22年5月28日）において審議し、全会一致で「GDNSS（グッドネス）」に決定しました。

GDNSSの理由・補足

Goodness（意味：優しさ、親切）という簡潔でポジティブな英単語をモチーフに、専門医養成プログラムに参加している5大学の頭文字（G/Gunma：D/Dokkyo：N/Nihon：S/Shinshu：S/Saitama）を用いることで、大学間の連携をイメージした。

また、GDNSSにはそれぞれ（G/Good：D/Doctor（良医を目指し）：N/Next（次のステップへ）：S/Skill（技術を磨く）：S/Speciality（専門領域を学ぶ））という意味も持たせ、専門性を持った良医を養成するというプログラムの目的も包含できるようにした。

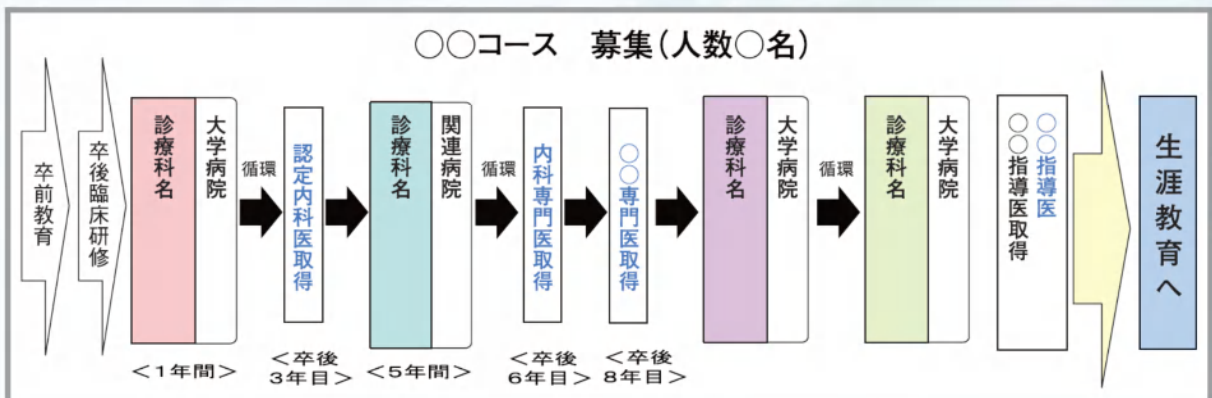
プログラム実施体制及び評価体制



コースのイメージ図

医療の高度化に伴い、専門化されたサブスペシャリティの専門医の制度も整備されつつあり、この資格取得に関わる条件が高度化すると共に経験、症例数においても申請のためのハードルが高いものが存在します。このプログラムでは、次世代の診療・教育・研修を担う医師を育成する循環型キャリアパスの確立をめざし、専門医とサブスペシャリティの専門医を取得するまでについて、それぞれコース内容をあきらかにし、専門医を取得するために必要な年数・関連病院を明記しました。また、随時コースの内容を検証・評価することにより常に高水準のコース内容を提供することができます。

そのため、各大学病院において、“専門医を取得するまでのキャリアパス”を以下のイメージ図のように明示しました。



コースNo.	コース運営学系・分野	コース名	取得可能な資格名	広告可能	学会等名	コース定員	コース責任者	コース担当者	コース担当者連絡先(電話)
1	内科学系総合内科学分野 外科学系総合外科学分野	認定総合医(仮称)コース	認定総合医(仮称)		未定		相馬 正義 塩野 元美	相馬 正義	03-3972-8111 (内線2660)
			認定内科医		(社)日本内科学会	5			
2	内科共通プログラム	総合内科専門医コース	総合内科専門医	*	(社)日本内科学会	5	相馬 正義	矢内 充	03-3972-8111 (PHS.8675)
			外科専門医	*	(社)日本外科学会				
			認定内科医	*	(社)日本内科学会				
			総合内科専門医	*	(社)日本内科学会				
3		感染症専門医コース	感染症専門医	*	(社)日本感染症学会	2		須崎 愛	03-3972-8111 (PHS.8674)
4		漢方専門医コース	漢方専門医	*	(社)日本東洋医学会	4		矢久保 修嗣	03-3972-8111 (内線2392)
5	内科プログラム1	呼吸器内科専門医コース	認定内科医	*	(社)日本内科学会	15	橋本 修	高橋 典明	03-3972-8111 (内線2402)
			総合内科専門医	*	(社)日本内科学会				
			呼吸器専門医	*	(社)日本呼吸器学会				
			感染症専門医	*	(社)日本感染症学会				
			気管支鏡専門医	*	(社)日本呼吸器内視鏡学会				
			アレルギー専門医	*	(社)日本アレルギー学会				
			心療内科専門医	*	特定非営利活動法人 日本心療内科学会				
			がん薬物療法専門医	*	特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学会				
			認定内科医	*	(社)日本内科学会				
			総合内科専門医	*	(社)日本内科学会				
6		血液内科専門医コース	血液専門医	*	(社)日本血液学会	3	竹内 仁	八田 善弘	03-3972-8111 (内線2402)
	がん薬物療法専門医	*	特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学会						
7		膠原病リウマチアレルギー科専門医コース	認定内科医 総合内科専門医 リウマチ専門医	*	(社)日本内科学会 (社)日本内科学会 若狭県若狭中野会 (社)日本リウマチ学会	3	武井 正美	03-3972-8111 (内線2402)	
	アレルギー専門医	*	(社)日本アレルギー学会						
8		循環器内科専門医コース	認定内科医 総合内科専門医 循環器専門医	*	(社)日本内科学会 (社)日本内科学会 (社)日本循環器学会	25	平山 篤志	藤田 宜是	03-3972-8111 (内線2412)
	腎臓高血圧専門医コース	*	(社)日本腎臓学会						
9	内科プログラム2	腎臓高血圧専門医コース	透析専門医	*	(社)日本透析医学会	8	相馬 正義	岡田 一義	03-3972-8111 (内線2414・2415)
			高血圧専門医	*	特定非営利活動法人 日本高血圧学会				
10		内分泌代謝科専門医コース	認定内科医 総合内科専門医 内分泌代謝科専門医(内科) 高血圧専門医 老年病専門医	*	(社)日本内科学会 (社)日本内科学会 (社)日本内分泌学会 特定非営利活動法人 日本高血圧学会 (社)日本老年医学会	6	相馬 正義	上野 高浩	03-3972-8111 (内線2414・2415)
	消化器肝臓内科専門医コース	*	(社)日本消化器内視鏡学会						
11	内科プログラム3	消化器肝臓内科専門医コース	認定内科医	*	(社)日本内科学会	20	森山 光彦	松岡 俊一	03-32972-8111 (内線2424)
			総合内科専門医	*	(社)日本内科学会				
12		糖尿病専門医コース	認定内科医 総合内科専門医 糖尿病専門医	*	(社)日本内科学会 (社)日本内科学会 (社)日本糖尿病学会	8	石原 寿光	中崎 満浩	03-3972-8111 (PHS8072 内線2421-2422)
	がん治療認定医	*	(社)日本がん治療認定医機構						

コースNo.	コース運営学系・分野	コース名	取得可能な資格名	広告可能	学会等名	コース定員	コース責任者	コース担当者	コース担当者連絡先(電話)
13	内科プログラム4	神経内科専門医コース	認定内科医		(社)日本内科学会	5	亀井 聡	塩田 宏嗣	03-3972-8111 (内線2602)
			総合内科専門医	*	(社)日本内科学会			小川 克彦	
			神経内科専門医	*	有期限(有期限) 日本神経学会			亀井 聡	
			脳卒中専門医		有期限(有期限) 日本脳卒中学会			小川 克彦	
		老年病専門医	*	(社)日本老年医学会			鈴木 裕		
		てんかん専門医		日本てんかん学会			大石 貴		
		認知症専門医		日本認知症学会			鈴木 裕		
		日本臨床神経生理学会認定医		(社)日本臨床神経生理学会			大石 貴		
		精神保健指定制		厚生労働省					
14	精神医学系 精神医学分野	精神医学分野専門医コース	精神科専門医		(社)日本精神神経学会	5	内山 真	高橋 榮	03-3972-8111 (内線2431)
			臨床精神薬理専門医		日本臨床精神薬理学会				
			老年精神医学専門医		日本老年精神医学会				
			睡眠障害専門医		有期限(有期限) 日本睡眠学会				
		臨床脳波専門医		(社)日本臨床神経生理学会					
		小児科専門医	*	(社)日本小児科学会					
15	小児科学系 小児科学分野	新生児専門医コース	周産期専門医(新生児)	*	(社)日本周産期・新生児医学会	3	麦島 秀雄	鮎沢 衛	03-3972-8111 (PHS 8745)
			小児科専門医	*	(社)日本小児科学会				
			血液専門医	*	(社)日本血液学会				
16	小児科学系 小児科学分野	小児血液腫瘍性疾患専門医コース	小児科専門医	*	(社)日本小児科学会	2	照井 正	篠島 由一	03-3972-8111 (内線2502)
			小児循環器専門医	*	有期限(有期限) 日本小児循環器学会				
17		小児循環器専門医コース	循環器専門医	*	(社)日本循環器学会				
18	皮膚科学系 皮膚科学分野	皮膚科専門医コース	皮膚科専門医	*	(社)日本皮膚科学会	4	照井 正	篠島 由一	03-3972-8111 (内線2502)

コースNo.	コース運営学系・分野	コース名	取得可能な資格名	広告可能	学会等名	コース定員	コース責任者	コース担当者	コース担当者連絡先(電話)
19	外科学系 小児・乳腺内分沁外科学分野	小児外科専門医コース 乳腺専門医コース	外科専門医 小児外科専門医 乳腺専門医	*	(社)日本外科学会 特定非営利活動法人 日本小児外科学会 (社)日本外科学会 特定非営利活動法人 日本乳癌学会 (社)日本外科学会	2 4	越永 従道	池田 太郎 榎本 克久	03-3972-8111 (内線2452) 03-3972-8111 (内線2451) 03-3972-8111 (内線2462-3) FAX:03-3955-9818
21	外科学系 心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	心臓血管外科専門医コース 呼吸器外科専門医コース	心臓血管外科専門医 外科専門医 呼吸器外科専門医	*	特定非営利活動法人 日本胸部外科学会 特定非営利活動法人 日本心臓血管外科学会 (社)日本外科学会	4 2	塩野 元美	服部 努 村松 高	03-3972-8111 (内線2468) 03-3972-8111 (内線2468)
23	外科学系 消化器外科学分野	外科専門医・指導医コース 消化器外科専門医コース	外科専門医 外科指導医 外科専門医	*	(社)日本外科学会 (社)日本外科学会 (社)日本外科学会	2 2	高山 忠利	古市 基彦 中山 壽之	03-3972-8111 (内線2471) 03-3972-8111 (内線2471)
25	形成外科学系 形成外科学分野	形成外科専門医コース	形成外科専門医 縫紮専門医	*	(社)日本形成外科学会 有期限任中間法人 日本消化器外科学会 (社)日本外科学会	2	仲沢 弘明	下田 勝巳	03-3972-8111 (PHS 8192)
26	脳神経外科学系 神経外科学分野	脳神経外科専門医コース	脳神経外科専門医 脳卒中専門医 脳血管内治療専門医 脊髄外科認定医 頭痛専門医 機能的位置脳手術技術認定医 日本臨床神経生理学会認定医	*	(社)日本脳神経外科学会 有期限任中間法人 日本脳卒中学会 特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会 日本脊髄外科学会 一般社団法人 日本頭痛学会 日本定位・機能神経外科学会 一般社団法人 日本臨床神経生理学会 (社)日本整形外科学会	4 15	片山 容一	福島 崇夫	03-3972-8111 (内線2481~2482) 03-3972-8111 (PHS 8231)
27	整形外科学系 整形外科学分野	整形外科専門医コース	整形外科専門医	*	(社)日本整形外科学会 有期限任中間法人 日本リウマチ学会	6	徳橋 泰明	齋藤 修	03-3972-8111 (内線2522)
28	産婦人科学系 産婦人科学分野	産婦人科専門医コース	産婦人科専門医	*	(社)日本産科婦人科学会	2	山本 樹生	高田 真一	03-3972-8111 (内線2511)
29	泌尿器科学系 泌尿器科学分野	泌尿器科専門医コース	泌尿器科専門医	*	(社)日本泌尿器科学会	10	高橋 悟	岡田 安弘	03-3972-8111 (内線2531) FAX:03-5995-3495
30	視覚科学系 眼科学分野	眼科専門医コース	眼科専門医	*	(財)日本眼科学会	4 4 2	澤 充	嘉村 由美	03-3972-8111 (内線2542) 03-3972-8111 (内線2552)
31	耳鼻咽喉・頭頸部外科学系 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	耳鼻咽喉科専門医コース	耳鼻咽喉科専門医	*	(社)日本耳鼻咽喉科学会	4	池田 稔	関根 大喜	03-3972-8111 (内線2542)
32	放射線医学系	放射線診断専門医コース 放射線治療専門医コース	放射線科専門医 放射線科専門医	*	(社)日本医学放射線学会 (社)日本医学放射線学会	4 2	阿部 修	矢野 希世志	03-3972-8111 (内線2552)
34	麻酔科学系 麻酔科学分野	麻酔科専門医コース	麻酔科専門医	*	(社)日本麻酔科学会	4	小川 節郎	前田 剛	03-3972-8111 (内線3284)
35	救急医学系 救急集中治療学分野	救急科専門医コース 集中治療専門医コース	救急科専門医 集中治療専門医	*	有期限任中間法人 日本救急医学会 (社)日本集中治療医学会	4 4	丹正 勝久	櫻井 淳	03-3972-8111 (内線2800)
37	病理科学系 病理科学分野	病理専門医コース	細胞診専門医 病理専門医	*	特定非営利活動法人 日本臨床細胞学会 (社)日本病理学会	4	根本 則道	根本 則道	03-3972-8111 (内線2256・2257)
38	病態病理学系 臨床検査医学分野	臨床検査専門医コース	臨床検査専門医	*	(社)日本臨床検査医学会 有期限任中間法人 日本人類遺伝学学会	2	中山 智祥	中山 智祥	03-3972-8111 (内線2570)

GDNSS (関東・信州広域循環型専門医養成プログラム) コーディネーター名簿

■コーディネーター

大学病院名	役職	氏名	〒	住所	電話番号
群馬大学医学部附属病院	医療人能力開発センター長	田村 遵一	371-8511	前橋市昭和町3-39-15	027-220-8665
群馬大学医学部附属病院	医療人能力開発センター助教	菊地 麻美	371-8511	前橋市昭和町3-39-15	027-220-7736
信州大学医学部附属病院	卒後臨床研修センター副センター長	森田 洋	390-8621	長野県松本市旭3-1-1	0263-37-2673
獨協医科大学病院	リハビリテーション科学教授	古市 照人	321-0293	栃木県下都賀郡壬生町北小林880	0282-87-2417
日本大学医学部附属板橋病院	医学生涯教育センター副センター長	相馬 正義	173-8610	東京都板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111
駿河台日本大学病院	医学生涯教育センター員	折目 由紀彦	101-8309	東京都千代田区神田駿河台1-8-13	03-3293-1711
日本大学医学部付属練馬光が丘病院	医学生涯教育センター員	細川 芳文	179-0072	東京都練馬区光が丘2-11-1	03-3979-3611
埼玉医科大学病院	研修管理委員長	三村 俊英	350-0495	埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	049-276-1462
埼玉医科大学総合医療センター	研修管理委員長	御手洗 哲也	350-8550	埼玉県川越市鴨田1981番地	049-228-3710
埼玉医科大学国際医療センター	後期研修プログラム責任者	小宮山 伸之	350-1298	埼玉県日高市山根1397-1	042-984-4111

■関係事務職員

大学病院名	役職	氏名	〒	住所	電話番号
群馬大学医学部附属病院	臨床研修センター事務局	榎本 浩行	371-8511	前橋市昭和町3-39-15	027-220-7736
信州大学医学部附属病院	総務課補佐(卒後臨床研修センター担当)	藪原 公德	390-8621	長野県松本市旭3-1-1	0263-37-3050
獨協医科大学病院	臨床研修センター課長	大村 務	321-0293	栃木県下都賀郡壬生町北小林880	0282-87-2417
獨協医科大学病院	臨床研修センター主任	小森 大繁			
日本大学医学部附属板橋病院	医学生涯教育センター事務局	小林 勝幸	173-8610	東京都板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8129
駿河台日本大学病院	研修管理委員会事務局 課長補佐	岡田 一親	350-0495	埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	049-276-1862
埼玉医科大学病院	研修管理委員会事務局 主任	川俣 栄希	350-8550	埼玉県川越市鴨田1981番地	049-228-3403
埼玉医科大学国際医療センター	研修管理室	下田 裕子	350-1298	埼玉県日高市山根1397-1	042-984-0079

目 次

1 認定総合医（仮称）コース	8
2 総合内科専門医コース	12
3 感染症専門医コース	15
4 漢方専門医コース	18
5 呼吸器内科専門医コース	21
6 血液内科専門医コース	25
7 膠原病リウマチアレルギー科専門医コース	28
8 循環器内科専門医コース	32
9 腎臓高血圧専門医コース	36
10 内分泌代謝科専門医コース	40
11 消化器肝臓内科専門医コース	44
12 糖尿病専門医コース	49
13 神経内科専門医コース	52
14 精神医学分野専門医コース	59
15 新生児専門医コース	62
16 小児血液腫瘍性疾患専門医コース	65
17 小児循環器専門医コース	68
18 皮膚科専門医コース	72
19 小児外科専門医コース	75
20 乳腺専門医コース	80
21 心臓血管外科専門医コース	83
22 呼吸器外科専門医コース	87
23 外科専門医・指導医コース	90
24 消化器外科専門医コース	93
25 形成外科専門医コース	98
26 脳神経外科専門医コース	102
27 整形外科専門医コース	107
28 産婦人科専門医コース	112
29 泌尿器科専門医コース	115
30 眼科専門医コース	118
31 耳鼻咽喉科専門医コース	121
32 放射線診断専門医コース	124
33 放射線治療専門医コース	127
34 麻酔科専門医コース	130
35 救急科専門医コース	133
36 集中治療専門医コース	136
37 病理専門医コース	139
38 臨床検査専門医コース	142
39 臨床遺伝専門医コース	145
日本大学医学部関連病院一覧	148

1 総合医コース

(1) コースの全体像

本コースは、認定総合医（仮称）の取得を目標とする。内科診療能力が基本となる為、初期臨床研修終了後、1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後、大学病院で1年間一次・二次救急外来と救急病棟を担当する。毎朝のカンファレンスとそれに続く部長回診および週1回の症例検討会等を通じて、多様な救急患者に対する診療の基本を学ぶ。その後の2年間は、2年のうち1年間は、関連病院に於いて、救急医または一般内科医として地域医療に貢献する。残りの1年間は、自大学病院または連携大学病院において、小児科（必修）、外科・整形外科・形成外科（選択）の救急を中心に研修を行う。また、開業医院にてのプライマリ・ケアも適宜実習する。

(2) コースの概要

コース名：総合医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科	内科・外科	4	1次・2次・3次救急対応能力と総合診療能力の修得	4	2年間
春日部市立病院	内科	内科	3	内科系1次・2次救急疾患対応能力の修得	2	1年間
板橋区医師会病院	内科	内科	3	救急医および一般内科医として基本的能力の修得	2	1年間
群馬大学病院	救命・総合医療センター	総合内科 総合外科	8	総合内科医、総合外科医の養成	2	3ヶ月間
信州大学病院	選択科			総合内科医、総合外科医の養成		3ヶ月間
埼玉医科大学病院						3ヶ月間
獨協医科大学病院						3ヶ月間

(3) コースの実績

救急患者数：3,657名（平成22年度）

当科入院患者数：225名

救急入院の代表的疾患：腸閉塞、心筋梗塞、急性呼吸不全、急性心不全、急性腸炎、脳梗塞、出血性胃潰瘍、虚血性腸炎、嚥下性肺炎、脳出血、熱中症、大動脈解離、大腸憩室炎、くも膜下出血、急性薬物中毒、敗血症、腎盂腎炎、髄膜炎、自然気胸、

肺塞栓など。

(4) コースの指導状況

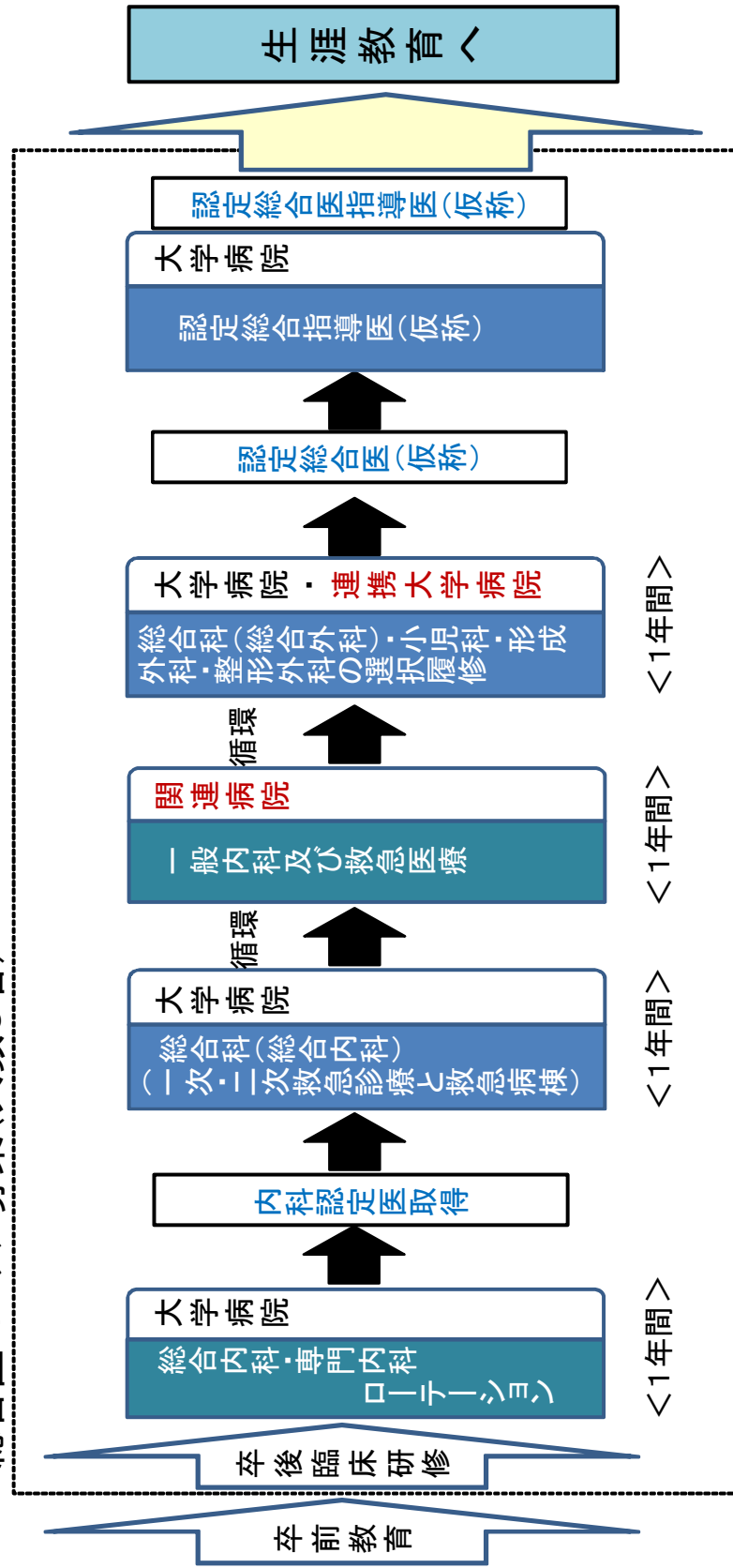
日本大学板橋病院における総合内科は、平成19年7月1日より初期研修医を受け入れ、専門内科7科と総合内科スタッフで指導に当たっている。毎朝、各科専門医と総合内科スタッフが出席してカンファレンスを行い、研修医の教育を行っている。平成20年度より、毎年後期研修医1名ずつの入局があった。また、総合内科と総合外科が協力して、総合科を板橋病院に新設し、総合医の育成を行う。

(5) 専門医の取得等

学会等名	未定（日本医師会、総合診療医学会、家庭医学会、プライマリケア学会）
資格名	認定総合医（仮称）
資格要件	未定
学会の連携等の概要	未定

専門研修による医師キャリア形成システム

総合医コース 募集(人数5名)



2 総合内科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本内科学会総合内科専門医の取得を目標とする。内科診療能力が基本となる為、初期臨床研修終了後、1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後、大学病院で1年間一次・二次救急外来と救急病棟を担当する。毎朝のカンファレンスとそれに続く部長・科長回診および週1回の症例検討会等を通じて、多様な救急患者に対する診療の基本を学ぶ。その後の2年間は、2年のうち1年間は、関連病院に於いて、救急医または一般内科医として地域医療に貢献する。残りの1年間は、大学病院において、内科一般外来および一次・二次救急診療を中心に研修を行う。この3年間の研修期間に内科臨床に関する学会発表を少なくとも5回および筆頭論文発表を少なくとも2編行い、総合内科専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：総合内科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科	内科	4	1次・2次・3次救急対応能力と総合診療能力の修得	4	2年間
春日部市立病院	内科	内科	3	内科系1次・2次救急疾患対応能力の修得	2	1年間
板橋区医師会病院	内科	内科	3	救急医および一般内科医として基本的能力の修得	2	1年間
				受入人数	5	

(3) コースの実績

救急患者数：3,657名（平成22年度）

当科入院患者数：225名

救急入院の代表的疾患：腸閉塞、心筋梗塞、急性呼吸不全、急性心不全、急性腸炎、脳梗塞、出血性胃潰瘍、虚血性腸炎、嚥下性肺炎、脳出血、熱中症、大動脈解離、大腸憩室炎、くも膜下出血、急性薬物中毒、敗血症、腎盂腎炎、髄膜炎、自然気胸、肺塞栓など。

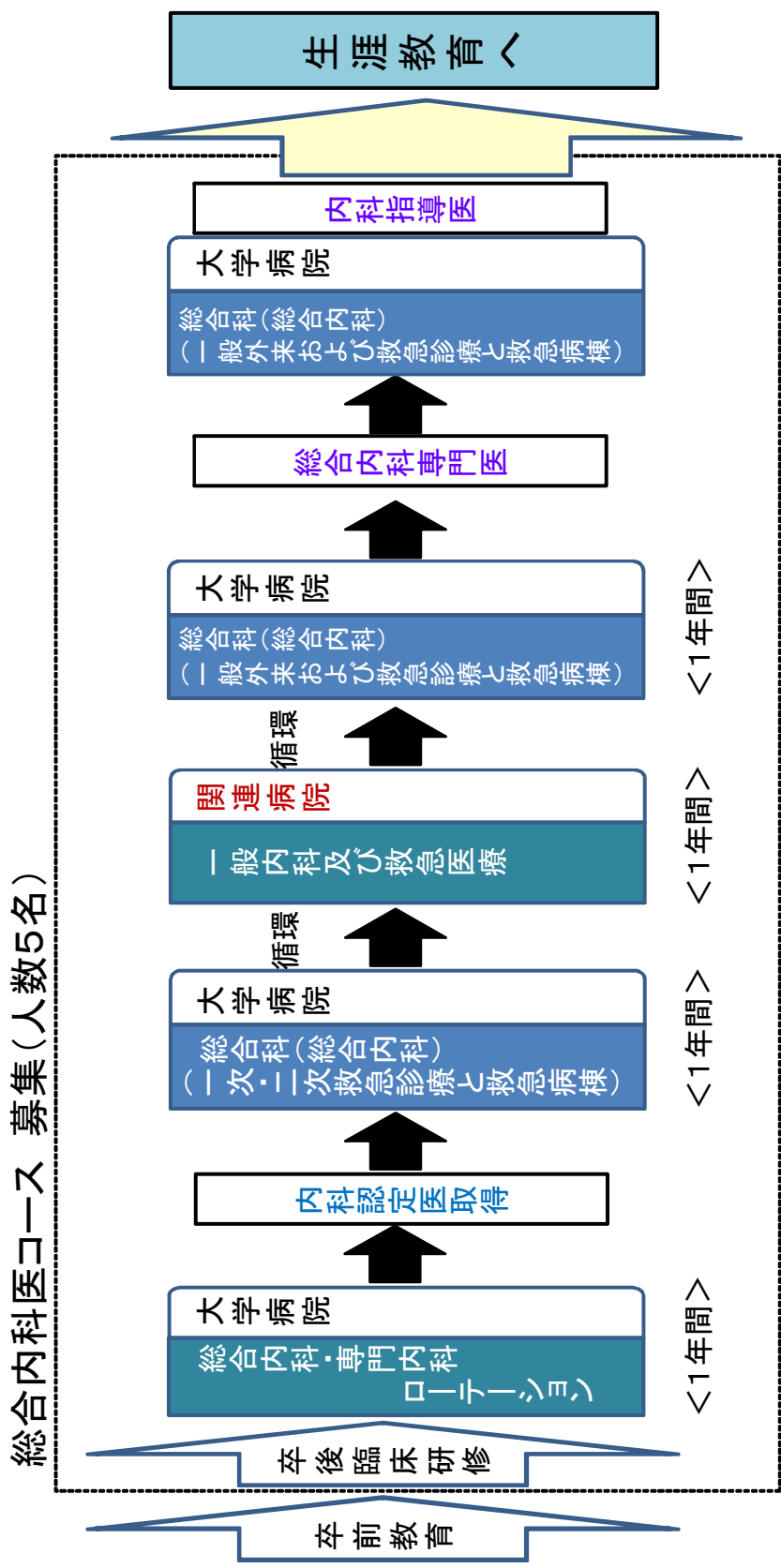
(4) コースの指導状況

日本大学板橋病院における総合内科は、平成19年7月1日より初期研修医を受け入れ、専門内科7科と総合内科スタッフで指導に当たっている。毎朝、各科専門医と総合内科スタッフが出席してカンファレンスを行い、研修医の教育を行っている。平成21・22年度は後期研修医1名、平成23年度は2名の入局があった。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	<p>【受験資格】</p> <p>現在認定内科医と認定されている者で、受験申し込み時連続して3年以上の会員歴を有し、受験する年度までの会費を完納し、次の i ~ iv のいずれかに該当する内科研修歴を有する者。</p> <p>認定内科医資格取得後、下記研修歴を試験日までに終了見込みの者は受験申し込み可とする。</p> <p>i . 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修3年以上</p> <p>ii . 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修2年以上＋教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上</p> <p>iii . 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＋教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上</p> <p>iv . 教育関連病院での内科研修5年以上</p> <p>【提出書類】</p> <p>受持入院患者20症例の一覧表、20症例の病歴要約、退院時サマリーのコピー、学会または論文として発表した臨床研究（基礎的な研究は除く）、またはfirst authorで報告した症例報告のいずれかで計2件の業績</p>
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム



3 感染症専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本感染症学会感染症専門医とICD制度協議会のインフェクションコントロールドクター（ICD）の取得を目標とする。

初期臨床研修終了後、1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後、2年間総合内科にて、病棟医を担当する。この期間に、血液培養陽性患者に対する病棟ラウンドや感染症に関する入院患者の病棟依頼など、指導医による直接の指導に加え、総合内科入院患者の部長・科長回診および症例検討会等を通じて、感染性疾患の入院診療の基本を学ぶ。その後の1年間は、感染性疾患の病棟と専門外来を担当すると同時に、院内感染防止対策委員会もしくは院内感染防止対策チームの一員としての活動もおこなう。この3年間の研修期間に、感染性疾患の臨床に関する学会発表を少なくとも2回および筆頭論文発表を少なくとも1編行い、日本感染症学会認定感染症専門医の受験資格およびICDの認定資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：感染症専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学 板橋病院	総合科 (内科)	総合内科	5	感染性疾患の専門的 診療能力の習得	2	4年間
				受入人数	2	

(3) コースの実績

イ) 総合内科入院病床数：9床

ロ) 総合内科外来担当指導医：4名

感染症専門医：2名

ハ) 救急患者数：3,657名（平成22年度）

内救急入院患者数：225名

救急入院の代表的疾患：敗血症、腎盂腎炎、髄膜炎、急性肺炎、嚥下性肺炎、大腸憩室炎、急性腸炎、腸閉塞、心筋梗塞、急性呼吸不全、急性心不全、脳梗塞、出血性胃潰瘍、虚血性腸炎、脳出血、熱中症、大動脈解離、くも膜下出血、急性薬物中毒、敗自然気胸、肺塞栓など。

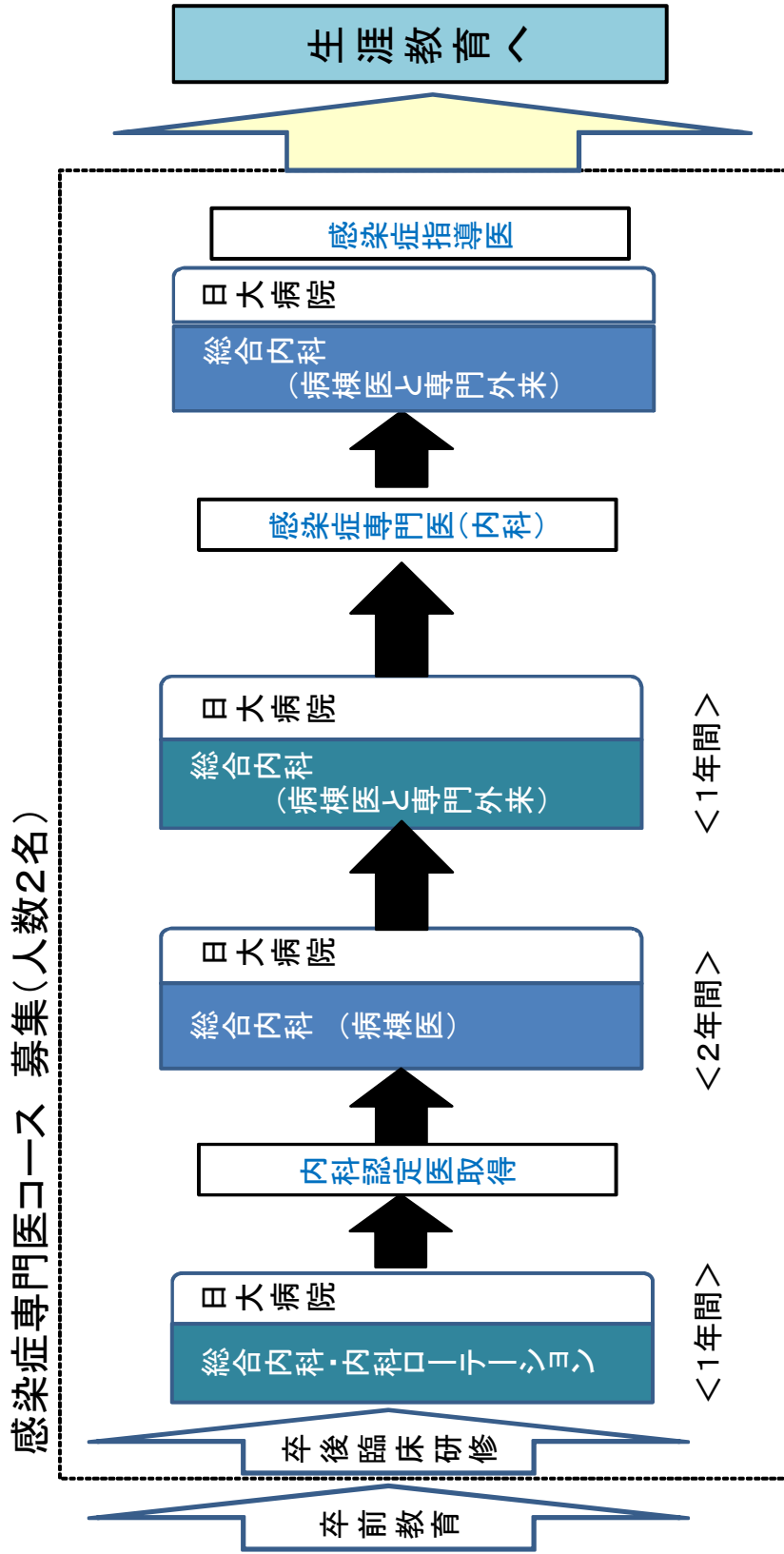
(4) コースの指導状況

感染症専門医2名（うち指導医1名）、総合内科専門医4名で病棟ならびに外来診療の指導を行っている。病棟の受け持ち患者について診療部長および科長による回診での指導と、専門医による毎日の直接指導が通年行われている。また週1回の症例検討会を通して疾患の理解や病態の把握、治療方針の立て方を指導している。外来診療も担当してもらい、感染性疾患の長期管理の必要性と意義を理解し実践できるよう指導している。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本感染症学会
資格名	感染症専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本感染症学会会員歴5年以上で、この間、会費を完納している者。 2. 本学会と専門医制度（二階建制）に関する合意を交わした基本領域学会*² 専門医（認定医）に認定された後、基本領域学会の研修年限を含めて6年以上を経た者。 3. 感染症の臨床に関して、一定以上の経験があること。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研修に関する記録 <ol style="list-style-type: none"> a. 受け持ち感染症患者30症例の一覧表 b. 上記30症例中15症例の病歴要約 (2) 感染症の臨床に関して、筆頭者としての論文発表1篇，学会発表2篇，計3篇あること。 <ol style="list-style-type: none"> a. 感染症に関する筆頭者としての論文掲載は，学会誌またはレフリー制度の整った学術誌に掲載されたものであること。 b. 学会発表は，原則として日本医学会総会または日本医学会加盟の分科会（地方会を含む）で発表したものであること。 4. 日本感染症学会専門医制度審議委員会が施行する専門医のための認定試験に合格すること。
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本医学放射線学会，日本眼科学会，日本救急医学会，日本外科学会，日本産科婦人科学会，日本耳鼻咽喉科学会，日本小児科学会，日本整形外科学会，日本精神神経学会，日本内科学会，日本脳神経外科学会，日本泌尿器科学会，日本皮膚科学会，日本病理学会，日本麻酔科学会，日本臨床検査医学会，日本リハビリテーション医学会</p>	

専門研修による医師キャリア形成システム



4 漢方専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、漢方診療に必要な漢方医学知識、診察技術、診断能力を習得し日本東洋医学会認定漢方専門医の取得を目標とする。

初期臨床研修終了後、1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。

その後、1年間は、漢方医学の基礎理論を学ぶとともに東洋医学外来において漢方診療の実際を陪席として学習する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週一回の科長、外来医長による症例検討会等を通じて、漢方診療の基本を学ぶ。次の1年間は練馬光が丘病院において、生薬を中心とした漢方診療を学ぶ。残りの1年間は、大学病院において東洋医学外来を担当する。ここで、専門医師試験受験に必要な10症例の診療概要作成準備、診療経験50症例の作成を行う。

この3年間の研修期間に、東洋医学会学術総会、地方会などで学会発表を少なくとも3回、および筆頭論文発表を少なくとも2編行い、日本東洋医学会認定漢方専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：漢方専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	東洋医学科	漢方医学	3	漢方診療に必要な知識、診察手技、診断能力の習得	4	2年間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科(総合内科)	内科	3	一般内科医として基本的診療能力と内科系救急疾患対応能力を習得		1年間
日本大学医学部附属練馬光が丘病院	東洋医学科	漢方医学	1	生薬を中止とする漢方診療を習得する	2	1年間
				受入人数	4	

(3) コースの実績

(1) 外来診療は板橋病院東洋医学科において外来診療は2ブースを使用している。外来診療患者500人/月

(2) 日本大学医学部附属板橋病院東洋医学科診療・教育スタッフ

日本東洋医学会専門医・指導医3名、日本東洋医学会専門医6名を擁する。このスタッフは以下の基礎領域の専門医・認定医などの資格を有する。

日本内科学会専門医2名、日本内科学会認定医3名、日本循環器学会専門医1名、

日本泌尿器科学会専門医 1 名、精神疾患指定医 3 名

(3) 日本東洋医学会研修施設としての実績

平成 23 年度まで、日本東洋医学会認定漢方専門医の受験資格を 10 名が取得し、専門医試験を受診し全員が合格している。基礎領域の認定医、専門医の資格がある医師 5 名が現在、当科にて研修を行っている。

(4) コースの指導状況

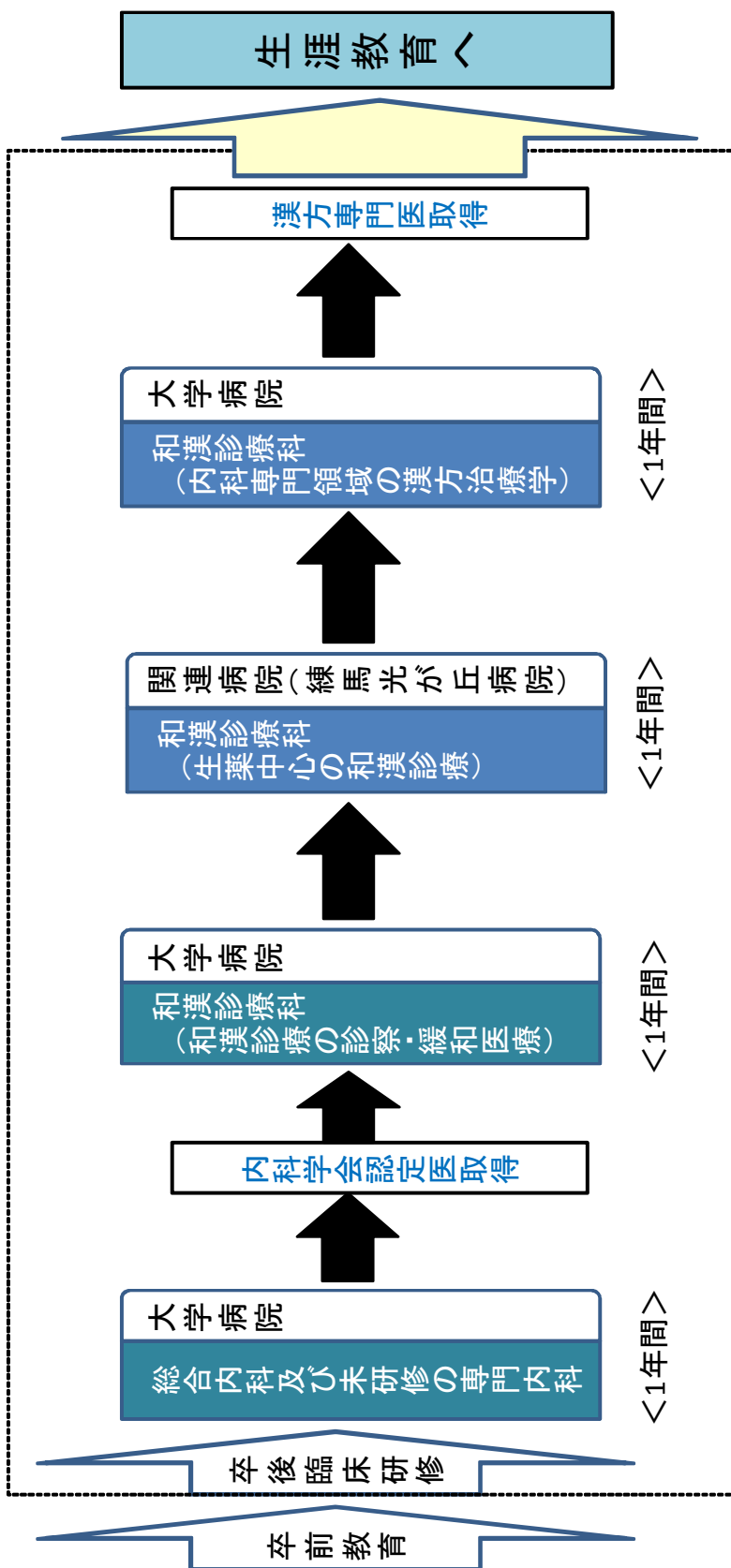
日本大学医学部附属板橋病院においては、日本東洋医学指導医会指導医 3 名および専門医 6 名の計 9 名で外来における専門的診療指導を行っている。診療科長、外来医長による週一回外来新患の症例や、治療困難症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。また、外来診療を担当するようになったときには、随時受け持ち患者に対する診療におけるアドバイスをを行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本東洋医学会
資格名	日本東洋医学会認定漢方専門医
資格要件	(1) 申請時において、継続 3 年以上日本東洋医学会の正会員であること。 (2) 申請時において、日本専門医認定制機構の定める基本領域に属する学会の認定医あるいは専門医として認定された後、日本東洋医学会の定める研修施設において 3 年以上、東洋医学の臨床に修練を積んだものであり、基本領域の研修期間含め通算 6 年以上の研修期間を経たもの。 (3) 下記に定める単位数を 7 単位以上取得したもの。 ① 日本東洋医学会主催学術教育事業参加：1 単位/回 ② 日本東洋医学会学術総会および地方部会における演題発表、筆頭者のみ：1 単位/演題 ③ 「日本東洋医学雑誌」掲載論文、筆頭者のみ：2 単位/篇 ④ 同、共同研究者：1 単位/篇
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

漢方専門医コース 募集 (若干名)



日本大学医学部附属病院

5 呼吸器内科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、呼吸器内科専門医の取得を目標とする。初期臨床研修終了後1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後1年間は呼吸器内科にて呼吸器疾患全般の病棟診療を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて呼吸器疾患の入院診療の基本を学ぶ。その後の2年間は、2年のうち1年間は関連病院に於いて一般内科医として地域医療に貢献すると共に、呼吸器疾患を中心に診療を行う。残りの1年間は、大学病院において呼吸器病棟と専門外来を担当する。この3年間の研修期間に呼吸器疾患臨床に関する学会発表もしくは筆頭論文発表を少なくとも2編行い、呼吸器内科専門医の受験資格を得る。希望により呼吸器領域に関する感染症・腫瘍・アレルギー・内視鏡について Subspeciality としての専門医取得も可能である。また、人間の健康を心と体の両面から全人的にとらえる心身医学・緩和ケアの専門コースも選択可能である。

(2) コースの概要

コース名：呼吸器内科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	呼吸器内科	呼吸器内科学分野	10	呼吸器疾患の専門的診療能力の修得	15	2年間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科(総合内科)	内科	3	内科系1次・2次救急疾患対応能力の修得	2	1年間
春日部市立病院	内科	内科	2	一般内科医として基本的能力の修得と呼吸器疾患の診療	2	1年間
				受入人数	15	

(3) コースの実績

1. 呼吸器内科入院病床数：約60床
2. 呼吸器内科専門外来担当指導医および専門医数：20名
外来患者数：約600名/週
3. 気管支鏡検査実施症例数：約300例/年
4. 血管造影検査：約30例/年
5. 呼吸器内科疾患入院診療実績(2010年の1年間、重複例あり)
 - i) 肺腫瘍：278名
 - ii) 呼吸器感染症(肺結核、肺炎など)：83名
 - iii) COPD：19名
 - iv) 間質性肺炎：32名
 - v) 睡眠時無呼吸症候群：234名
 - vi) 気管支喘息：21名

総入院数：749名／年

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院においては、呼吸器内科指導医5名および専門医10名の計15名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療科長による週一回の回診ならびに週一回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院である春日部市立病院には当科出身の医師が内科全般の指導的立場で勤務しており、入院・外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本呼吸器学会
資格名	日本呼吸器学会専門医
資格要件	専門医の認定を申請する者は、次の各条件をすべて充足することを要する。 <ol style="list-style-type: none">1. 日本内科学会認定内科医資格を取得した年度も含めて3年以上継続して本学会の会員であること。2. この規則により認定された認定施設において、本学会所定の研修カリキュラムに従い日本内科学会認定内科医資格を取得した年度も含めて3年以上、呼吸器病学の臨床研修を行い、これを終了した者。3. 呼吸器関連施設における研修期間は認定施設の研修期間に0.7を乗じたもの。4. 非喫煙者であること。5. 臨床呼吸機能講習会の受講。
学会の連携等の概要	

(社) 日本呼吸器学会：<http://www.jrs.or.jp/home/>

学会等名	日本アレルギー学会
資格名	日本アレルギー学会認定専門医
資格要件	専門医の認定を申請する者は、次の各条件をすべて充足することを要する。 <ol style="list-style-type: none">1. 日本国の医師免許を持つ医師であること2. 認定時に引き続き5年以上この法人の会員であること3. 基盤学会の専門医（認定医）資格の認定をうけていること4. 基本領域の臨床研修を含め通算6年以上の臨床研修歴を要

	<p>する。この研修歴 6 年の内、通算 3 年以上は（社）日本アレルギー学会認定教育施設等において日本アレルギー学会指導医または専門医のもとでの所定のカリキュラムに従ったアレルギー学の臨床研修を要する</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 最近の 5 年間に自ら診療しているアレルギー疾患患者 40 名分の診療実績書の提出 6. 最近の 5 年間に別表 1 に示すアレルギー学の業績が 50 単位以上あること 7. 「専門医」資格認定試験に合格していること
<p>学会の連携等の概要</p>	

（社）日本アレルギー学会：<http://www.jsaweb.jp/>

その他

（社）日本内科学会：<http://www.naika.or.jp/index.html>

（社）日本感染症学会：<http://www.kansensho.or.jp/>

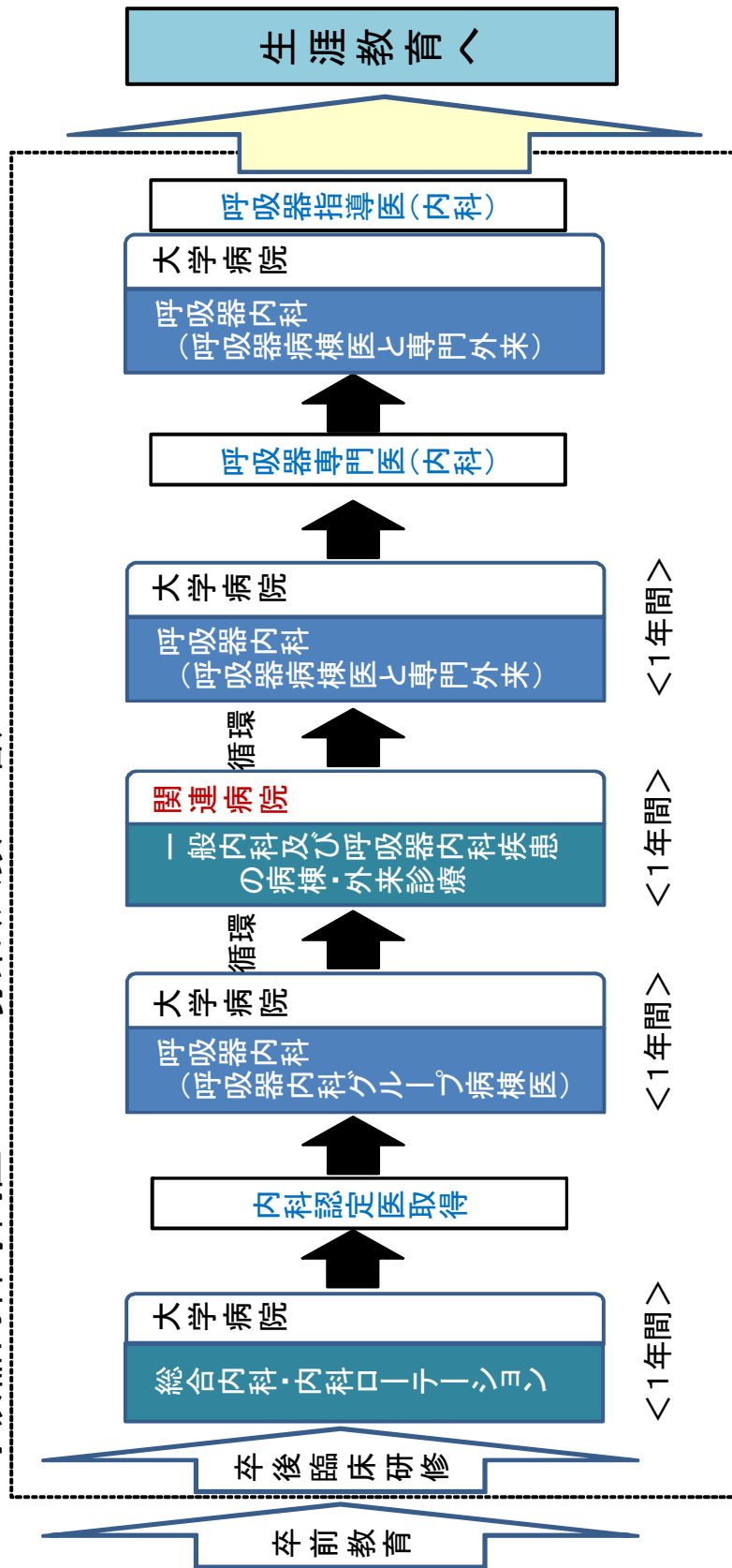
特定非営利活動法人 日本呼吸器内視鏡学会：<http://www.jsre.org/>

特定非営利活動法人 日本心療内科学会：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspim/FrontPage.html>

特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学会：<http://jsmo.umin.jp/>

専門研修による医師キャリア形成システム

呼吸器内科専門医コース 募集(人数15名)



6 血液内科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、血液（内科）専門医の取得を目標とする。

初期臨床研修終了後1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後1年間は血液膠原病内科にて血液グループの病棟医を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて血液疾患の入院診療の基本を学ぶ。その後の2年間は、2年のうち1年間は関連病院に於いて一般内科医として地域医療に貢献すると共に、血液疾患患者を中心に診療を行う。残りの1年間は、大学病院において血液疾患病棟と専門外来を担当する。この3年間の研修期間に血液疾患臨床に関する学会発表もしくは筆頭論文発表を少なくとも2編行い、血液（内科）専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：血液内科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	血液内科	血液学	5	血液疾患の専門的診療能力の修得	4	2年間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科（総合内科）	内科	3	内科系1次・2次救急疾患対応能力の修得	2	1年間
春日部市立病院	内科	内科	3	一般内科医としての基本的能力の修得と血液疾患の診療	2	1年間
				受入人数	3	

(3) コースの実績

1. 血液科入院病床数：約30床
2. 血液科専門外来担当指導医および専門医数：7名
外来患者数：約240名/週
3. 血液疾患入院診療実績（最近5年間、重複例あり）
急性白血病・慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・特発性血小板減少性紫斑病・再生不良性貧血等の血液疾患での入院が約150件あり、その内、造血幹細胞移植患者が50名含まれる。

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院においては、血液科指導医3名および専門医4名の計7名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療科部長による週一回の回

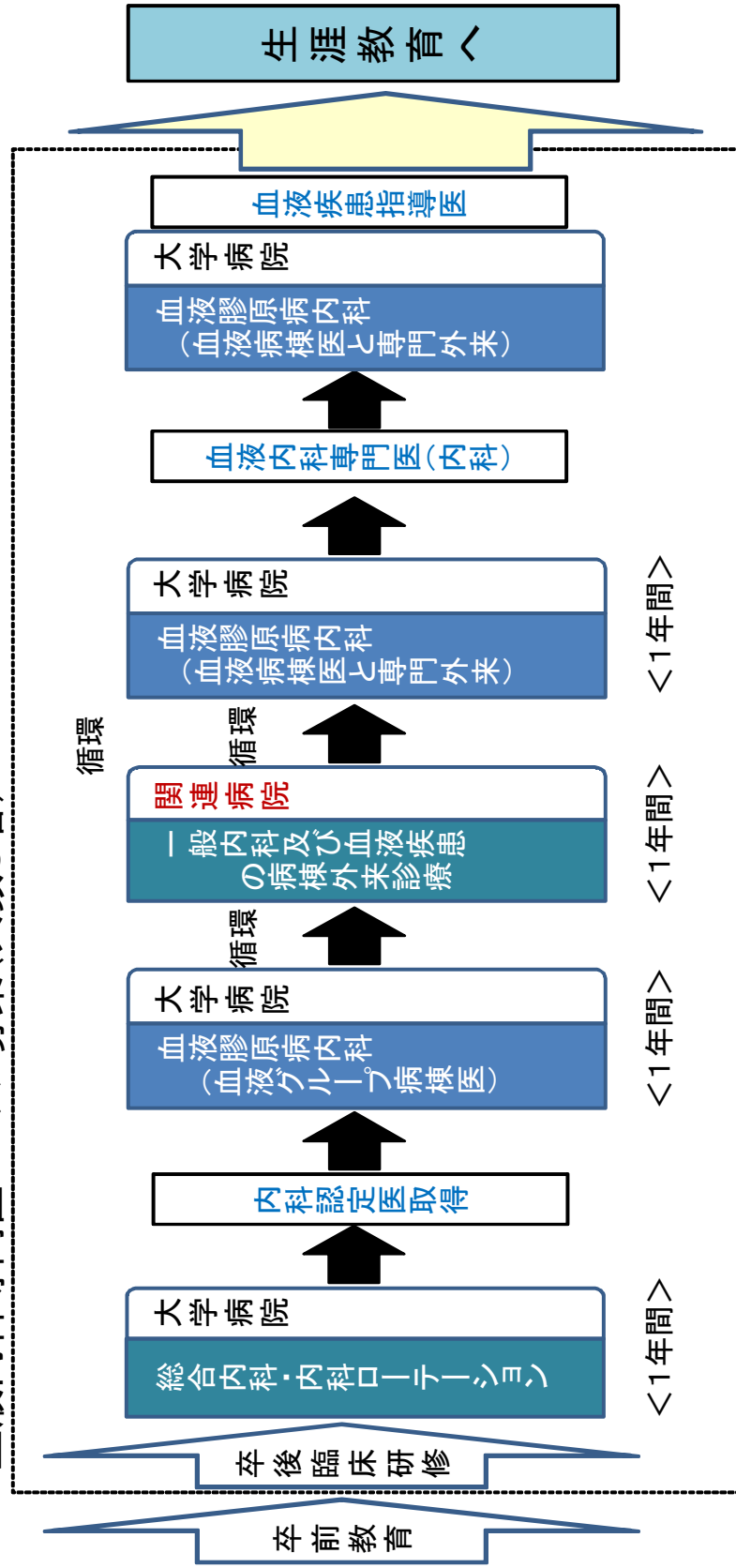
診ならびに週一回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院である春日部市立病院には当科出身の医師が3名常勤として勤務しており、入院・外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本血液学会
資格名	日本血液学会認定専門医
資格要件	<p>(1) 日本内科学会認定医または日本小児科学会専門医(認定医)である者。</p> <p>(2) 卒後6年以上の臨床研修を必要とし、このうち3年以上日本血液学会が認定した研修施設において臨床血液学の研修を行った者。</p> <p>(3) 申請時に継続して3年以上、(新)日本血液学会(旧血液学会、及び旧臨床血液学会)の会員である者。</p> <p>(4) 臨床血液学に関係した内容で、筆頭者として学会発表または論文が2つ以上ある者。</p> <p>(5) 「診療実績記録」を提出すること。(10名)</p> <p>(6) 日本血液学会研修施設における血液学に関する研修記録を提出すること。「社団法人 日本血液学会血液専門医カリキュラム」に自己評価及び指導医による評価を記入の上、提出すること。</p>
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

血液内科専門医コース 募集(人数3名)



7 膠原病リウマチアレルギー科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、リウマチ学会膠原病リウマチ科とアレルギー学会（内科）専門医の取得を目標とする。

初期臨床研修終了後、1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後、1年間血液膠原病内科にて、膠原病グループの病棟医を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて、膠原病リウマチアレルギー疾患の入院診療の基本を学ぶ。その後の2年間は、2年のうち1年間は、関連病院に於いて、一般内科医として地域医療に貢献すると共に、膠原病リウマチアレルギー疾患患者を中心に診療を行う。残りの1年間は、大学病院において、膠原病リウマチアレルギー疾患の病棟と専門外来を担当する。この3年間の研修期間に、膠原病リウマチアレルギー疾患の臨床に関する学会発表を少なくとも3回および筆頭論文発表を少なくとも1編行い、リウマチ学会およびアレルギー学会認定膠原病リウマチ科とアレルギー科（内科）専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：膠原病リウマチアレルギー科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	血液膠原病内科	膠原病リウマチアレルギー学	4	膠原病リウマチアレルギー疾患の専門的診療能力の修得	3	2年間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科（総合内科）	内科	3	内科系1次・2次救急疾患対応能力を修得する	2	1年間
国際医療福祉大学臨床医学研究所財団法人化学療法所附属病院	内科	内科 膠原病リウマチアレルギー学	3	一般内科医としての基本的能力の修得と頻度の多い膠原病リウマチアレルギー疾患の診療	1	1年間
				受入人数	3	

(3) コースの実績

1. 膠原病リウマチ入院病床数：約17床
2. 膠原病リウマチ専門外来担当指導医および専門医数：4名
外来患者数：約300名/週

3. 膠原病リウマチアレルギー疾患入院診療実績（最近5年間、概算 重複例あり）

- i) 関節リウマチ：340名
- ii) 全身性エリテマトーデス：140名
- iii) 強皮症：70名
- iv) 皮膚筋炎：45名
- v) 血管炎症候群：40名
- vi) ベーチェット病など膠原病類縁疾患：120名
- vii) 総入院数の約6割がステロイドなどによる糖尿病、高脂血症、高血圧などメタボリック症候群や骨粗鬆症など一般内科疾患
- viii) 膠原病を除くアレルギー疾患15名
- ix) 総入院数の約50%が感染症
- x) 間質性肺炎などによる人工呼吸管理40名
- xi) 急性腎不全の透析療法40名
- xii) HIV AIDS 25名
- xiii) 血球貪食症候群35名
- xiv) 結節性紅斑、サルコイドーシス、強直性脊椎炎など100名

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院においては、膠原病リウマチ疾患指導医2名（アレルギー学会指導医1名を含む）および専門医2名、の計4名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長、科長による週一回の回診ならびに週一回入院患者全症例を対象にした症例検討会、月1回の3附属病院開業医の担当症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。附属病院の1つである練馬光が丘病院には、膠原病リウマチ疾患指導医が週2回外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

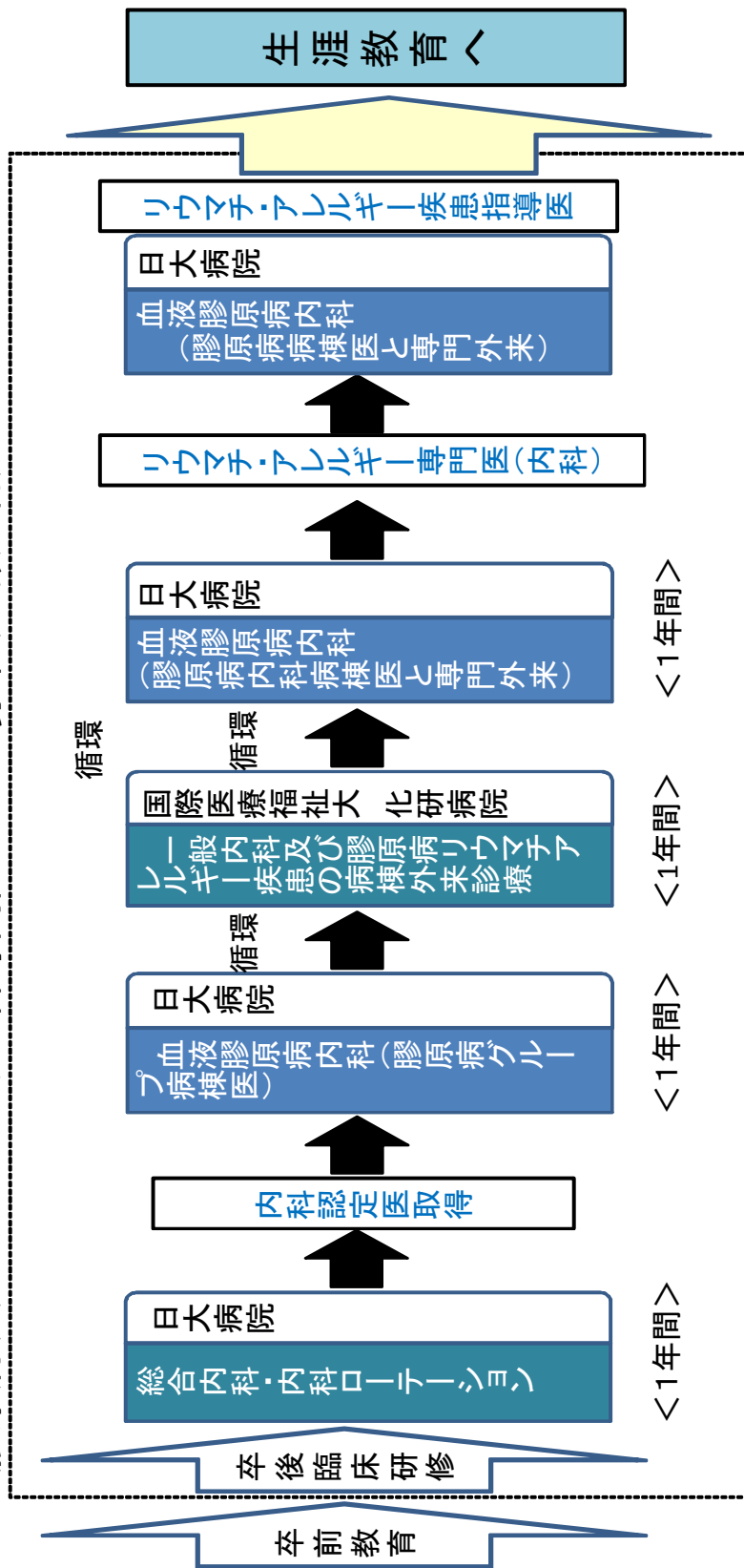
(5) 専門医の取得等

学会等名	日本リウマチ学会 日本アレルギー学会
資格名	リウマチ学会認定 リウマチ科（内科）専門医 アレルギー学会認定 アレルギー科（内科）専門医
資格要件 リウマチ専門医	<p>専門医の資格認定を申請しようとするものは、次の各号の条件を満たすことが必要である。</p> <p>日本国の医師免許証を有し、医師として人格及び見識を備えていること。</p> <p>申請時において引き続き5年以上学会の会員であること。</p> <p>(1) 日本リウマチ学会が認定した教育施設等において、通算5年以上のリウマチ学の臨床研修を行ったこと。</p> <p>(2) 日本リウマチ学会専門医資格維持施行細則による研修単位を30単位以上取得していること。</p> <p>http://www.ryumachi-jp.com/authori/prokosin.html</p> <p>関連基本領域学会の認定医或いは専門医の資格を有すること。</p> <p>基本領域学会 日本内科学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本産科婦人科学会、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本病理学会、日本臨床検査医学会、日本救急医学会など。</p>

<p>アレルギー専門医</p>	<p>日本国の医師免許を持つ医師であること 認定時に引き続き5年以上社団法人日本アレルギー学会の会員であること 内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科など基本領域の学会（以下、「基盤学会」という）の専門医（認定医）資格の認定を受けていること 基本領域の臨床研修を含め通算6年以上の臨床研修歴を要する。この研修歴6年の内、通算3年以上は社団法人日本アレルギー学会認定教育施設において、社団法人日本アレルギー学会指導医または専門医のもとでの、所定のカリキュラムに従ったアレルギー学の臨床研修を必須とする。http://www.jsaweb.jp/ninsen/ntani.html 最近の5年間に自ら診療しているアレルギー疾患患者40名分の診療実績書の提出 最近の5年間に別表1に示すアレルギー学の業績が50単位以上あること ただし、社団法人日本アレルギー学会秋季学術大会および春季臨床大会への出席3回以上を含めるものとする。 「専門医」資格認定試験に合格していること</p>
<p>学会の連携等の概要 日本内科学会、リウマチ学会、アレルギー学会の認定教育施設。</p>	

専門研修による医師キャリア形成システム

膠原病リウマチアレルギー科専門医コース 募集(人数3名)



8 循環器内科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本循環器学会循環器専門医の取得を目標とする。初期臨床研修終了後、1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後、1年間循環器内科にて、循環器内科グループおよびCCUの病棟医を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて、循環器疾患の入院診療の基本を学ぶ。その後の2年間のうち1年間は、関連病院に於いて一般内科および循環器内科医として地域医療に貢献すると共に、循環器内科疾患患者を中心に診療を行う。残りの1年間は、大学病院において、循環器疾患病棟とCCUを担当する。この3年間の研修期間に、循環器疾患臨床に関する学会発表を少なくとも5回および筆頭論文発表を少なくとも2編行い、日本循環器学会循環器専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：循環器内科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	循環器内科	循環器内科学	13	循環器疾患の専門的診療能力の習得	25	3年間
駿河台日本大学病院	循環器科	循環器内科学	14	循環器疾患の専門的診療能力の習得	20	3年間
日本大学医学部附属練馬光が丘病院	循環器内科	循環器内科学	4	循環器疾患の専門的診療能力の習得	10	2年間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科(総合内科)	内科学	3	内科系1次・2次救急疾患対応能力を修得する	2	1年間
春日部市立病院	循環器内科	循環器内科学	1	一般内科・循環器内科医として基本的能力の習得と循環器疾患の診療	2	1年間
川口市立医療センター	循環器内科	循環器内科学	4	一般内科・循環器内科医として基本的能力の習得と循環器疾患の診療	2	1年間
東京臨海病院	循環器内科	循環器内科学	2	一般内科・循環器内科医として基本的能力の習得と循環器疾患の診療	2	1年間

社会保険横浜中央病院	循環器内科	循環器内科学	2	一般内科・循環器内科医として基本的能力の習得と循環器疾患の診療	2	1年間
板橋区医師会病院	循環器内科	循環器内科学	1	一般内科・循環器内科医として基本的能力の習得と循環器疾患の診療	2	1年間
浮間中央病院	循環器内科	循環器内科学	2	一般内科・循環器内科医として基本的能力の習得と循環器疾患の診療	1	1年間

(3) コースの実績

1. 循環器内科入院病床数：約60床
2. 循環器内科専門外来担当指導医および専門医数：13名
外来患者数：約600名/週
3. 循環器疾患入院診療実績（最近1年間、重複例あり）
 - i) 虚血性心疾患：1000名
 - ii) 心不全：240名
 - iii) 不整脈：240名
 - iv) 心膜・心筋疾患：60名
 - v) 弁膜疾患：60名
 - vi) 大血管疾患：100名
 - vii) 高血圧症：60名

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院においては、計13名の循環器内科指導医および専門医のもと、病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長による週一回の回診ならびに週一回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。7つの関連病院においても、常勤専門医の指導の下、外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

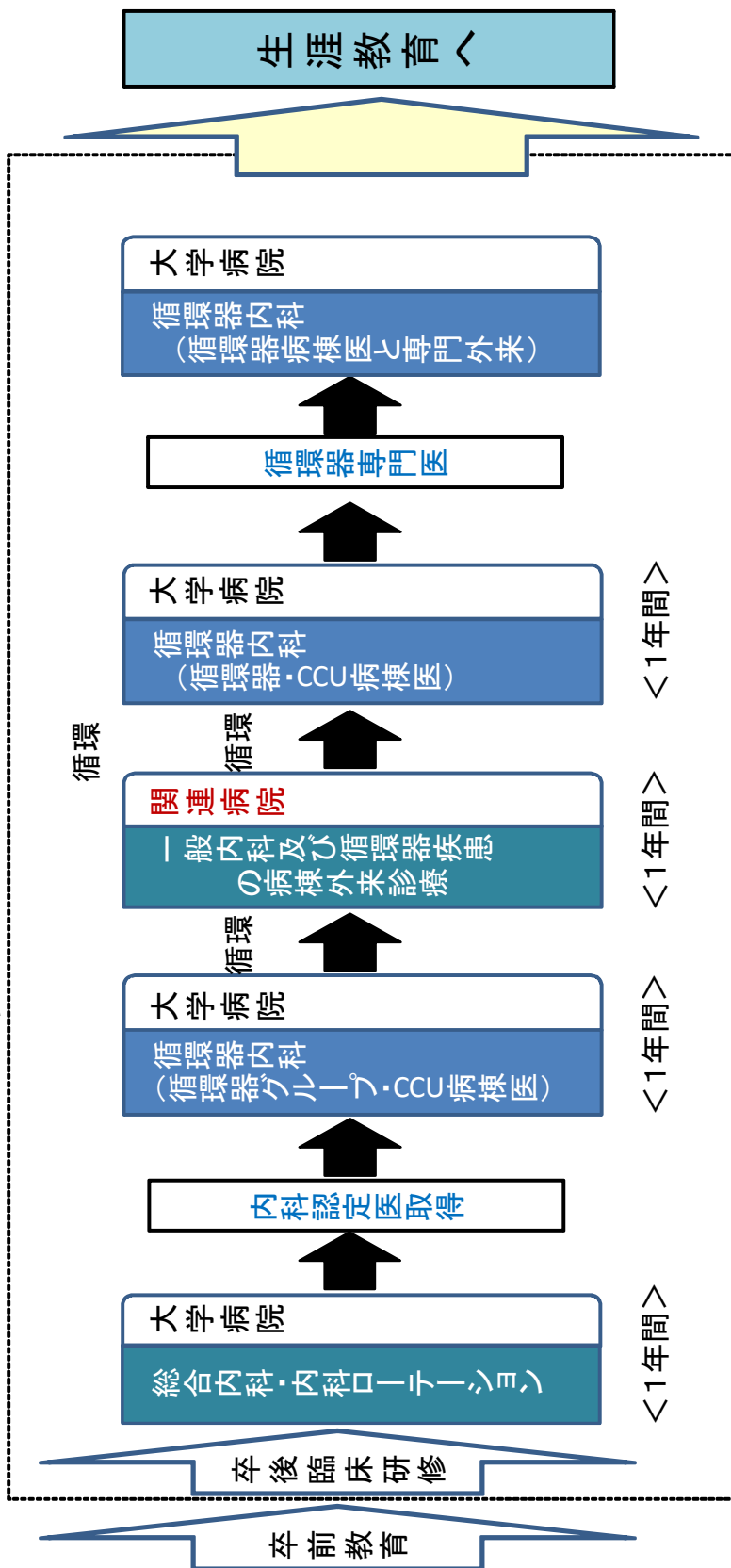
(5) 専門医の取得等

学会等名	日本循環器学会
資格名	循環器専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> (1) 申請時において本学会会員であり、かつ通算して6年以上の会員歴を有すること (2) 日本内科学会認定内科医、もしくはこれと同等と認められる学会認定医の資格を有すること (3) 6年以上の臨床研修歴を有すること。 6年の内、3年以上は日本循環器学会（以下、本学会）指定の研修施設で研修していること。

	平成16年以降に医師免許を取得したものは各認定医取得後、3年以上本学会指定の研修施設で研修していること。
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

循環器内科専門医コース 募集(人数25名)



9 腎臓高血圧専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医、高血圧学会専門医の取得を目標とする。初期臨床研修終了後1年間は総合内科および専門内科で研修を行い、日本内科学会認定医を取得する。その後は腎臓高血圧内分泌内科の病棟で腎疾患患者を受け持ち、指導医による直接指導と週1回の回診および週2回の症例検討会を通して検査計画や治療方針など腎疾患の診療の基本を学ぶ。腎生検に参加し、腎穿刺術や蛍光抗体法を習得する。また、腎不全患者や透析療法中の症例を受け持ち、末期腎不全の病態を理解するとともに血液浄化法の選択や透析療法の実際を理解する。さらにブラッドアクセスの作成や穿刺に参加し、透析療法中の管理法を習得する。また研修期間中の4年間に4回の症例報告を行い、筆頭論文を投稿する。病態の理解を深めるために研究活動に参加し、成果を関連学会で発表する。コース終了後腎臓専門医、透析専門医、高血圧専門医の取得条件が満たされる。

(2) コースの概要

コース名：腎臓高血圧専門医取得コース						
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者 数	目的	養成(受 入)人数	期 間
日本大学医 学部附属板 橋病院	腎臓高血圧 内分泌内科	腎臓内科学 血液浄化	8	腎臓疾患の専門的診 療能力の習得	8	2
日本大学医 学部附属板 橋病院	総合科(総 合内科)	内科	3	内科系1次・2次救急 疾患対応能力を習得	2	1
相模原協同 病院	血液浄化セ ンター	血液浄化	1	血液浄化療法の基本 的能力の習得と診療	2	1
社会保険横 浜中央病院	腎臓・血液 浄化療法科	腎臓内科学 血液浄化	3	腎臓疾患の診療	2	1
				受入人数	8	

(3) コースの実績

1. 腎臓高血圧内分泌内科入院病床数

日本大学医学部附属板橋病院：約30床

相模原協同病院：24床

2. 腎臓内科専門外来、透析外来担当指導医および専門医数

日本大学医学部附属板橋病院：10名

外来透析新患者数：約25名／月

3. 腎臓疾患入院診療実績（平成20年1月～12月）

原発性腎疾患およびネフローゼ症候群：46名、続発性腎疾患：33名

透析導入患者数：年間約120名

維持透析患者数：年間約240名

(4) コースの指導状況

腎臓・透析・高血圧の各指導医および専門医5名で病棟ならびに外来診療の指導を行っている。病棟の患者について診療科長による週1回の回診での指導と、専門医による毎日の直接指導が通年行われている。また週2回の症例検討会を通して疾患の理解や病態の把握、治療方針の立て方を指導。さらに週1回の抄読会を通して最新の腎疾患の考え方や治療の進歩を指導。外来診療も担当させ、慢性腎疾患の長期管理の必要性和意義を理解し実践できるよう指導している。

(5) 専門医の取得等

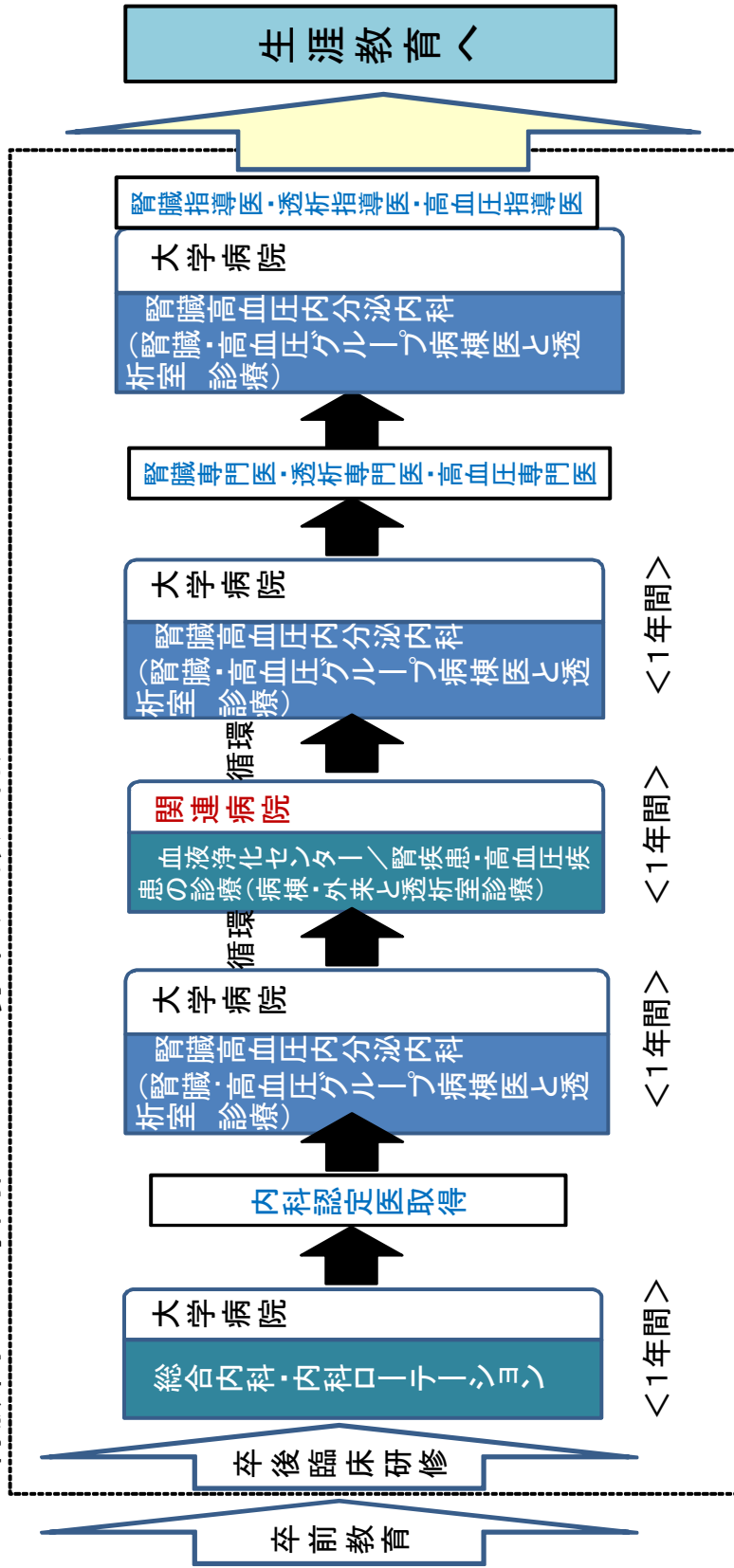
学会等名	社団法人日本腎臓学会
資格名	日本腎臓学会認定 腎臓専門医
資格要件	(1) 本邦の医師免許を有し、医師としての人格及び見識を備えていること。 (2) 本会の会員歴が継続して5年以上であること。 (3) (社)日本内科学会認定医取得後3年以上であること。 (4) 本会が指定する研修施設において、別に定める研修カリキュラムに基づく研修を3年以上行っていること。 ※週4日以上勤務していることを基準とし、週3日の勤務は3/4の期間として、週2日の勤務は1/2の期間として計算し、合計3年以上の臨床経験があることを証明する施設長、又は教育責任者による研修終了証明書が必要である。 ※平成16年3月以降卒業医師の初期研修2年は含まない。 ※海外施設で研修を行った場合は、委員会の議を経て専門医試験受験申請に必要な研修と認めることができる。
学会の連携等の概要	日本腎臓学会が関連学会とする以下の学会の年次学術集会に参加すると専門医更新のための単位を取得できる。 関連学会：日本移植学会、日本Endourology ESWL学会、日本高血圧学会、日本小児腎臓病学会、(社)日本循環器学会、日本人工臓器学会、(社)日本透析学会、(社)日本糖尿病学会、(社)日本内分泌学会、日本脈管学会、日本老年医学会、日本リウマチ学会、国際腎臓学会(ISN)、アメリカ腎臓学会(ASN)、アジア太平洋腎臓学会(APSN)、アジア腎臓コロキウム(ACN)、国際小児腎臓病学会(IPNA)、アジア小児腎臓病学会(APNA)、欧州透析移植学会(EDTA)、国際泌尿器科学会(SIU)、アメリカ泌尿器科学会(AUA)

学会等名	日本透析医学会
資格名	専門医
資格要件	<p>(1) 日本内科学会認定医の資格を有し、臨床経験5年以上を有すること。ただし、これに該当しない場合においても、本会の専門医制度委員会の規定によって認定された認定施設において5年以上の臨床経験を有する者については、同等の資格を有する者とみなすことが出来る。</p> <p>(2) 認定施設または教育関連施設において本会の専門医制度委員会の規定によって編成された研修カリキュラムに従い通算5年以上、もしくは本会の専門医制度委員会が認める外部団体主催の研修期間も含めて計5年以上、主として透析療法に関する臨床研修を行いかつ業績のあること。</p> <p>(3) 申請時において、本会の会員歴5年以上、もしくは本会会員歴3年以上でかつ日本内科学会会員歴を含めて5年以上であること。</p> <p>(4) 学会出席ならびに業績について30単位を満たしていること。 (ア) 本会年次学術集会参加1回以上 (イ) 学会筆頭者発表1件以上 (ウ) 原著（基礎的・臨床的研究、症例報告、著書）1編以上 ：必ずしも筆頭でなくてもよい)</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>現在、日本透析医学会の評議員、国際学術交流委員会委員、編集委員会委員、施設認定委員会委員、国際学術交流委員会委員として連携している。</p>	

学会等名	日本高血圧学会
資格名	日本高血圧学会認定指導医
資格要件	<p>(1) 申請時において、継続3年以上または通算5年以上日本高血圧学会の会員であること。（休会期間は会員歴には含まれません。）</p> <p>(2) 申請時において、基幹学会の認定医（または専門医）として認められている者。</p> <p>(3) 内科系にあっては、内科認定研修の課程を修了後、申請時まで3年以上、日本高血圧学会認定教育施設において高血圧指導医（特例指導医）の指導のもとで高血圧症の診療に従事している者。高血圧症の臨床に関する学会発表、又は論文発表が5編以上あり、少なくとも2編は筆頭者であること。</p> <p>(4) 高血圧疾患相当例以上の入院および外来の診療経験を有する者。</p>
<p>学会の連携等の概要</p>	

専門研修による医師キャリア形成システム

腎臓高血圧専門医コース 募集(人数8名)



日本大学医学部附属病院

10 内分泌代謝科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医と高血圧専門医の取得を目標とする。初期臨床研修終了後、1年間は総合内科及び専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後、1年間腎臓高血圧内分泌内科にて、内分泌・高血圧グループの病棟医を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて、内分泌・高血圧疾患の入院診療の基本を学ぶ。その後の2年間は、2年のうち1年間は、関連病院に於いて、一般内科医として地域医療に貢献すると共に、内分泌内科疾患患者を中心に診療を行う。残りの1年間は、大学病院にて病棟と専門外来を担当する。この3年間の研修期間に、内分泌代謝疾患臨床または高血圧に関する学会発表を少なくとも5回および筆頭論文発表を少なくとも2編行い、内分泌学会認定内分泌代謝科（内科）専門医と高血圧専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：内分泌代謝科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	腎臓高血圧 内分泌内科	内分泌学	3	内分泌代謝疾患の専門的診療能力の修得	6	2年間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科（総合内科）	内科	3	内科系1次・2次救急疾患対応能力を修得する	2	1年間
春日部市立病院	内科	内科	1	一般内科医として基本的能力の修得と頻度の多い内分泌疾患の診療	2	1年間
				受入人数	6	

(3) コースの実績

1. 内分泌代謝科入院病床数：約10床

高血圧入院病床数：約10床

2. 内分泌代謝科専門外来・高血圧専門外来担当指導医および専門医数：6名

外来患者数：約300名/週

3. 内分泌代謝疾患入院診療実績（最近5年間、重複例あり）

間脳・下垂体疾患：290名、甲状腺疾患：1,280名、副甲状腺疾患・カルシウム代謝異常：112名、糖尿病：6,894名、副腎疾患：156名、性腺疾患：21名、肥満症：60名、高脂血症：1,794名、本態性高血圧症：200名、内分泌性高血圧症：100名、腎血管性高血圧症：50名、重症臓器障害高血圧症：20名、メタボリックシンドロームによる高血圧症：30名

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院においては、内分泌代謝科指導医3名および専門医3名の計6名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療科長による週一回の回診ならびに週一回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院である春日部市立病院には、専門医が週2回出張診療を行い、外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

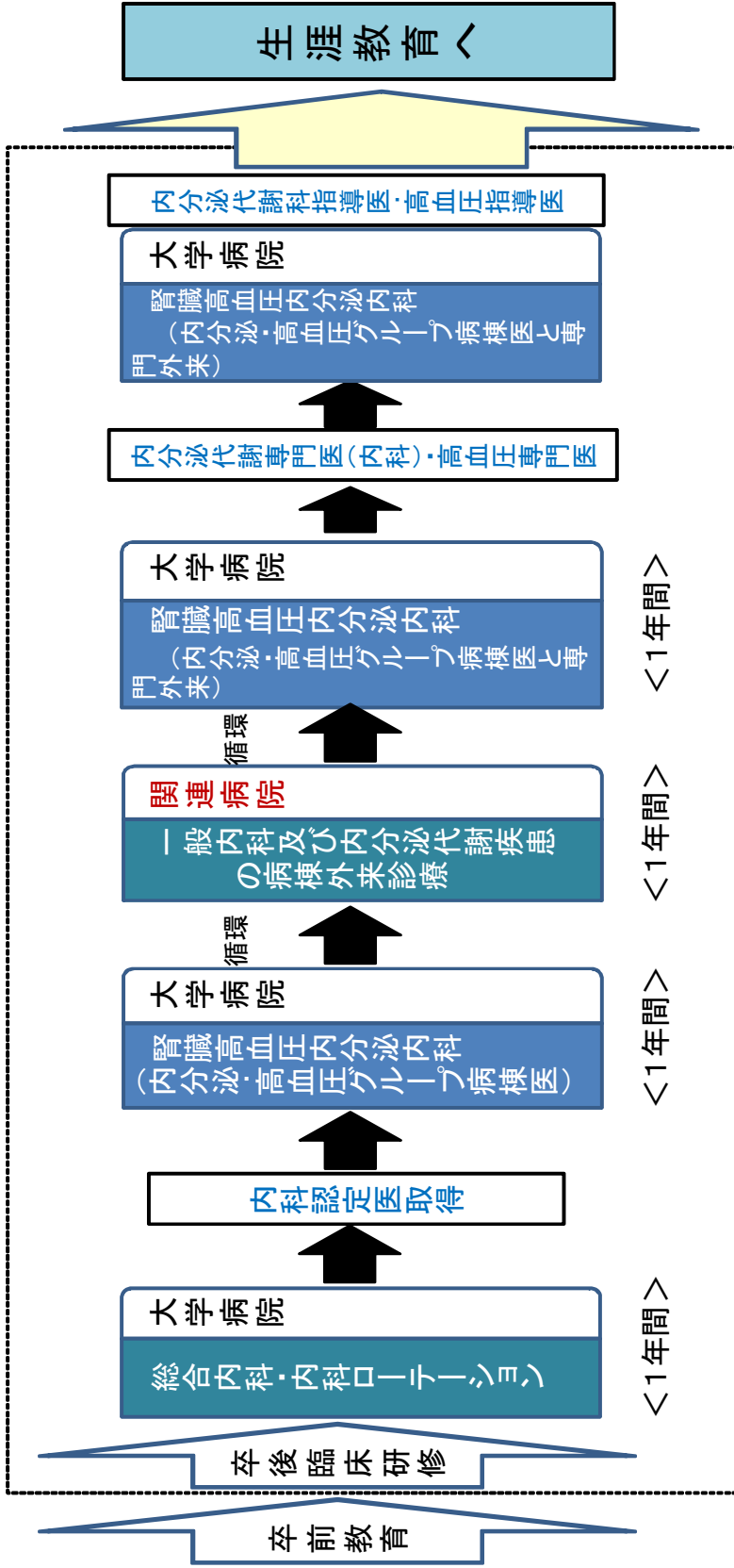
学会等名	日本内分泌学会
資格名	内分泌学会認定 内分泌代謝科（内科）専門医
資格要件	<p>(1) 申請時において、継続3年以上または通算5年以上日本内分泌学会の会員であること。（休会期間は会員歴には含まれません。）</p> <p>(2) 申請時において、基幹学会の認定医（または専門医）として認められている者。内科系にあつては日本内科学会認定医、小児科系にあつては日本小児科学会の専門医として認められている者。</p> <p>(3) 内科系にあつては、内科認定研修の課程を修了後、申請時まで3年以上、日本内分泌学会認定教育施設において内分泌代謝科指導医（特例指導医）の指導のもとで内分泌代謝疾患の診療に従事している者。 小児科系にあつても内科系の内分泌学会専門医資格の研修期間に準ずるが、小児科専門医資格の研修期間を含めた研修期間を6年以上とする。</p> <p>(4) 内分泌代謝疾患臨床に関する学会発表、又は論文発表が5編以上あり、少なくとも2編は筆頭者であること。</p> <p>(5) 内分泌代謝疾患相当例以上の入院および外来の診療経験を有する者。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本高血圧学会
資格名	日本高血圧学会認定指導医
資格要件	<p>(1) 申請時において、継続3年以上または通算5年以上日本高血圧学会の会員であること。（休会期間は会員歴には含まれません。）</p> <p>(2) 申請時において、基幹学会の認定医（または専門医）として認められている者。</p> <p>(3) 内科系にあつては、内科認定研修の課程を修了後、申請時ま</p>

	<p>で3年以上、日本高血圧学会認定教育施設において高血圧指導医（特例指導医）の指導のもとで高血圧症の診療に従事している者。高血圧症の臨床に関する学会発表、又は論文発表が5編以上あり、少なくとも2編は筆頭者であること。</p> <p>(4) 高血圧疾患相当例以上の入院および外来の診療経験を有する者。</p>
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

内分泌代謝科専門医コース 募集(人数6名)



1 1 消化器肝臓内科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、消化器病学会専門医の取得を目標とする。

初期臨床研修終了後、1年間は初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後、2年間消化器肝臓内科・糖尿病代謝内科にて、消化器・糖尿病グループの病棟医を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週二回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて、消化器疾患の入院診療の基本を学ぶ。その後の3年間は、2年のうち1年間は、関連病院に於いて、一般内科医として地域医療に貢献すると共に、消化器疾患患者を中心に診療を行う。残りの2年間は、大学病院において、消化器疾患病棟と検査、糖尿病疾患、消化器疾患専門外来を担当する。この5年間の研修期間に、消化器疾患臨床に関する学会発表を少なくとも2回および筆頭論文や発表を少なくとも2編行い、消化器病学会認定専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：消化器肝臓内科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	消化器肝臓内科	消化器病学 肝臓病学	23	消化器病・肝臓病疾患の専門的診療能力の習得	20	2年間
駿河台日本大学病院	内科、消化器科	消化器病学 肝臓病学	19	消化器病・肝臓病疾患の専門的診療能力の習得	20	2年間
日本大学医学部付属練馬光が丘病院	内科	消化器病学 肝臓病学	6	消化器病・肝臓病疾患の専門的診療能力の習得	5	2年間
公立阿伎留医療センター	内科	消化器病学 肝臓病学	2	一般内科医として基本的能力の修得と頻度の多い消化器疾患の診療	3	1年間
社会保険横浜中央病院	内科	消化器病学 肝臓病学	2	一般内科医として基本的能力の修得と頻度の多い消化器疾患の診療	3	1年間
川口市立医療センター	内科	消化器病学 肝臓病学	2	一般内科医として基本的能力の修得と頻度の多い消化器疾患の診療	2	1年間

みつわ台総合病院	内科	消化器病学 肝臓病学	2	消化器病・肝臓病疾患の専門的診療能力の習得	3	1年間
				受入人数	20	

(3) コースの実績

1. 消化器肝臓内科病床数：約200床
2. 消化器肝臓科専門外来担当指導医および専門医数：45名
外来患者数：約1500名/週
3. 消化器肝臓疾患入院診療実績（最近5年間、重複例あり）
 - i) 胃・十二指腸疾患：2,910名
 - ii) 大腸疾患：1,280名
 - iii) 膵臓疾患：112名
 - iv) 肝臓疾患：2,894名
 - v) 糖尿病：156名
 - vi) 食道疾患：81名
 - vii) 胆道疾患：90名
 - viii) その他：1,794名

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属3病院においては、内科・消化器・消化器内視鏡・肝臓病・超音波医学の指導医・専門医により病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長と科長による週2回の回診と症例検討、ならびに週3回テーマごとにしたカンファレンスを開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院では、専門医2名以上が、外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本消化器病学会
資格名	日本消化器病学会専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格及び見識を備えていること。 2) 申請時において継続4年以上本学会の会員であること。 3) 会員として本学会が主催するポストグラデュエイトコース、支部教育講演会、JDDWが主催するJDDW教育講演のいずれかに1回以上の出席があること。（半日単位の教育講演会は2回以上の出席があること。） 4) 申請時において認定内科医，外科専門医，放射線科専門医，小児科専門医のいずれかの資格を有すること。 5) 認定内科医資格取得に必要な所定の内科臨床研修修了の後3年以上，外科専門医予備試験受験資格に必要な所定の外科臨床研修修了の後2年以上，放射線科専門医資格取得に必要な所定の放射線科臨床研修修了の後2年以上，あるいは小児科専門医資格取得に

	必要な所定の小児科臨床研修修了の後2年以上、本規則により認定される認定施設もしくは関連施設において臨床研修を修了していること。
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院、駿河台日本大学病院、日本大学医学部附属練馬光が丘病院、公立阿伎留医療センターは、日本消化器病学会認定施設であり、横浜中央病院、川口医療センター、みつわ台総合病院は関連施設となっている。</p>	

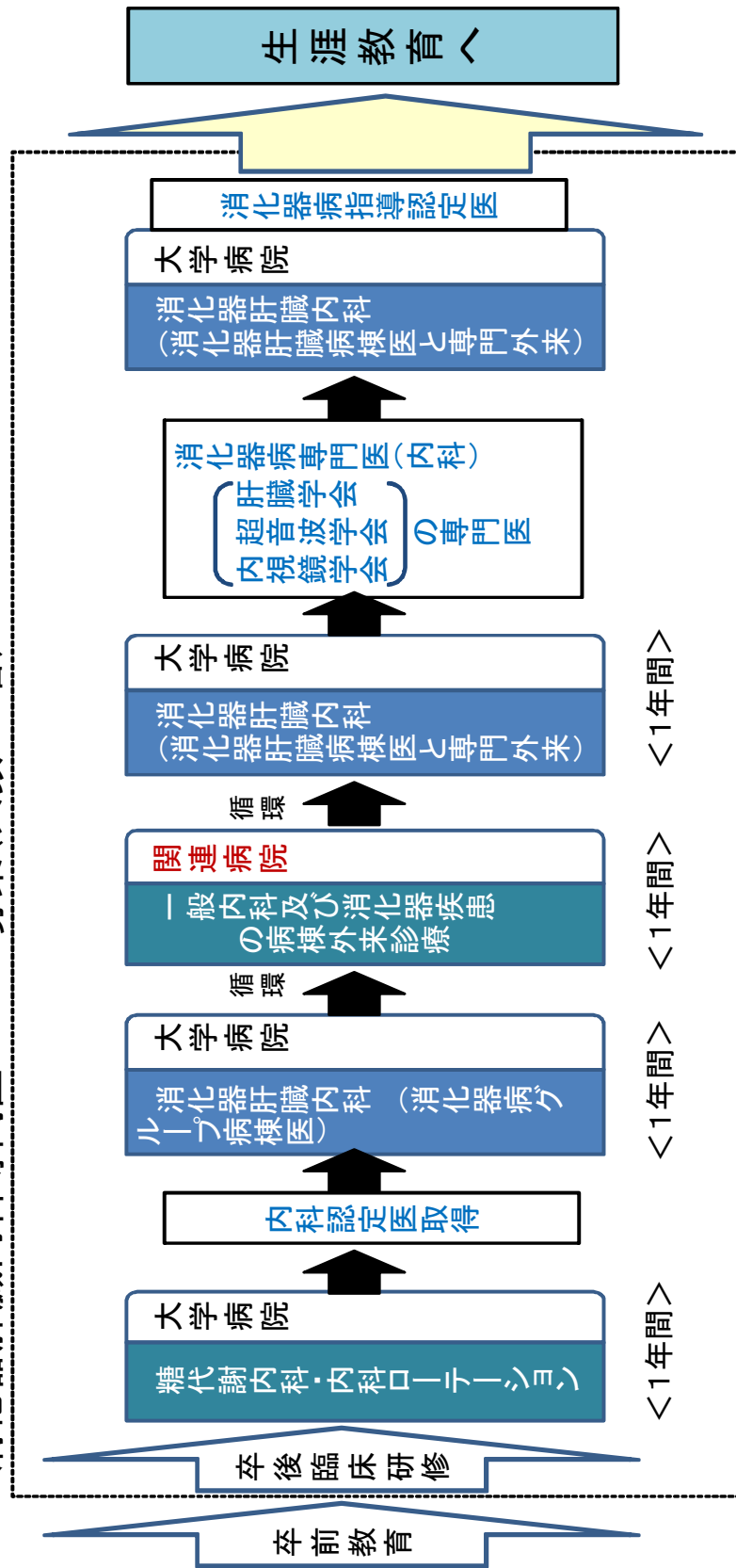
学会等名	日本消化器内視鏡学会						
資格名	日本消化器内視鏡学会						
資格要件	<p>1) 日本国の医師免許証を有すること。</p> <p>2) 申請時において、5年以上継続本学会会員であること。</p> <p>3) 指導施設において5年以上研修し、所定の技能ならびに経験をもっていること。研修期間（5年以上）内に、次の検査件数を満たす必要がある。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>上部消化管</td> <td>1000 例以上</td> </tr> <tr> <td>下部消化管</td> <td>100 例以上</td> </tr> <tr> <td>治療内視鏡</td> <td>20 例以上</td> </tr> </table> <p>4) 申請時において日本内科学会認定医または日本外科学会認定医もしくは専門医のいずれかの資格を有すること。</p>	上部消化管	1000 例以上	下部消化管	100 例以上	治療内視鏡	20 例以上
上部消化管	1000 例以上						
下部消化管	100 例以上						
治療内視鏡	20 例以上						
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院、駿河台日本大学病院、日本大学医学部附属練馬光が丘病院は、日本消化器内視鏡学会認定施設であり、横浜中央病院、川口医療センターは関連施設となっている。</p>							

学会等名	日本超音波学会
資格名	認定超音波専門医
資格要件	<p>1) 日本医師免許を取得し、超音波学会の入会5年以上。</p> <p>2) 超音波専門医研修指定施設において500症例以上の超音波診断に携わる。</p> <p>3) 5編以上の超音波医学に関する学会発表または学術論文を指定学会で筆頭者として有している。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院、駿河台日本大学病院は、認定施設となっている。</p>	

学会等名	日本肝臓学会
資格名	日本肝臓学会肝臓専門医
資格要件	<p>専門医の認定を申請するものは、次の各号の条件を全て満たすものであることを要する。</p> <p>(1) 日本国の医師免許を有し、医師としての人格及び見識を備えている者。</p> <p>(2) 申請時において継続5年以上本学会の会員である者。</p> <p>(3) 日本内科学会認定医、日本外科学会専門医若しくは認定医又は、日本小児科学会専門医若しくは認定医のいずれかの資格を有する者。</p> <p>(4) 2年間の一般研修を終了後、本規則に定める認定施設又は日本消化器病学会専門医制度による認定施設において、別に定める本学会専門医研修カリキュラムに従って、5年以上の肝臓病学の臨床研修を終了した者。ただし、このうち少なくとも1年は本規則に定める認定施設において研修を行うことを要する。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院、駿河台日本大学病院は、認定施設となっている。</p>	

専門研修による医師キャリア形成システム

消化器肝臓内科専門医コース 募集(人数20名)



12 糖尿病専門医コース

(1) コースの全体像

本コースでは、糖尿病専門医の取得を目標とする。初期臨床研修終了後、1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定医を取得する。その後1年間、糖尿病代謝内科・消化器肝臓内科病棟において、病棟医を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週1回の部長および症例検討会等を通じて、糖尿病患者の入院診療の基本を学ぶ。その後1年間は、関連病院に於いて、一般内科医として地域医療に貢献すると共に、糖尿病患者の診療を行う。次の1年間は、大学病院において、糖尿病代謝内科・消化器肝臓内科病棟と専門外来を担当する。この3年間の研修期間に、糖尿病代謝疾患臨床に関する学会発表あるいは筆頭論文発表を少なくとも2回行い、糖尿病学会認定糖尿病専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：糖尿病専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	糖尿病代謝内科	糖尿病代謝学	6	糖尿病代謝疾患の専門的診療能力の修得	8/年	2年間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科(総合内科)	内科	3	内科系1次・2次救急疾患対応能力を修得する	8/年	3か月
春日部市立病院	内科	内科	1	一般内科医としての基本的能力の修得と糖尿病の診療	2/年	1年間
				受入人数	8名	

(3) コースの実績

1. 糖尿病代謝内科入院病床数：約15床
2. 糖尿病代謝内科専門外来担当指導医および専門医数：6名
外来患者数：約350名/週
3. 糖尿病代謝疾患入院診療実績(最近5年間、重複例あり)
 - i) 1型糖尿病 60-100名/年
 - ii) 2型糖尿病 約300名/年
 - iii) 糖尿病ケト(アシド)ーシス 30-40名/年
 - iv) 糖尿病足壊疽 10-20名/年

(4) コースの指導状況

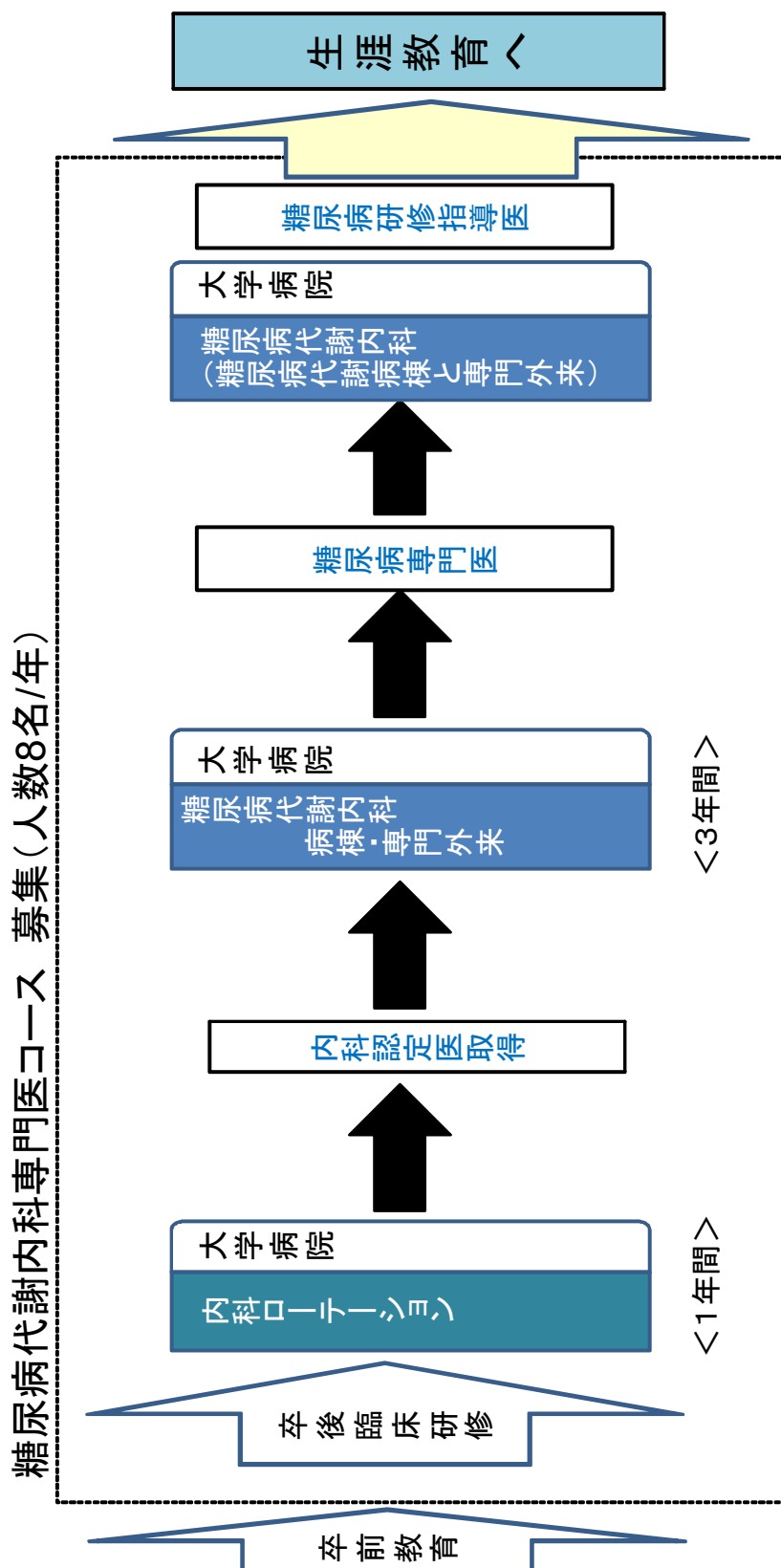
日本大学医学部附属板橋病院においては、糖尿病指導医・専門医6名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長による週1回の回診ならびに週1回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院である春日部市立病院には、常勤専門医が1名おり、外来・入院担当医に専門的指導を行

っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本糖尿病学会
資格名	糖尿病学会認定 糖尿病専門医
資格要件	(1) 申請時において、連続3年以上日本糖尿病学会の会員であること。 (2) 申請時において、内科系にあつては日本内科学会認定医、小児科系にあつては日本小児科学会の専門医として認められている者。 (3) 認定内科医研修の課程を修了後、あるいは小児科認定医研修の課程を3年以上修了後、日本糖尿病学会認定教育施設において3年以上の期間にわたって常勤者として糖尿病臨床研修を行っていること。 (4) 糖尿病臨床に関する筆頭者としての学会発表、又は論文発表が2編以上あること。 (5) 入院糖尿病患者40症例以上（但し、小児では10症例以上）の治療経験を有すること。

専門研修による医師キャリア形成システム



13 神経内科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、神経学会認定専門医の取得を目標とする専修医コースである。初期臨床研修終了後、1年間は総合内科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門内科で研修を積み、内科学会認定内科医を取得する。その後、3年間、日本大学板橋病院と光が丘病院で神経内科の病棟医を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて、神経疾患の診療の基本を学ぶ。なお、学内の扱いは病院の規定する「後期専修医」である。また、大学院進学を希望する場合は卒後4年目以上の者は直接大学院に、また卒後3年目の者も「横断型大学院」に進学可能であるが、大学院を希望する場合のコースは別に定める。専門医・認定医では、内科学会認定内科医・神経学会専門医に加え、総合内科専門医・老年病専門医・脳卒中専門医・頭痛専門医・てんかん専門医・認知症専門医・臨床神経生理学会認定医の取得が可能である。

(2) コースの概要

コース名：神経内科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	神経内科	神経内科	6	神経疾患の専門的診療能力の修得	4	2年間
日本大学医学部附属板橋病院	総合科(総合内科)	内科	3 (内科)	内科系1次・2次救急疾患対応能力を修得する	2	1年間
日本大学医学部附属練馬光が丘病院	神経内科	内科	2	神経疾患の専門的診療能力の修得	1	1年間
				受入人数	5	

(3) コースの実績

1. 神経内科入院病床数：約 30-45 床
2. 神経内科専門外来担当指導医および専門医数：7 名
外来新患者数：3023 名/年（2007 年）
3. 神経内科疾患入院診療実績（2003 年度）
 - i) 脳血管障害：241 名（44%）
 - ii) 神経感染症：9%
 - iii) 変性疾患：8%
 - iv) 発作性疾患：7%
 - v) 脱髄性疾患：4%
 - vi) 末梢神経・筋疾患：2% など

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院においては、非常勤講師も含めて神経内科専門医 11 名が病棟ならびに外来における専門的診療・指導を行っている。診療部・科長による週一回の回診ならびに週一回入院患者を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。光が丘病院では病棟ならびに外来における専門的診療・指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本神経学会
資格名	認定神経内科専門医
資格要件	<p>取得の要件：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 認定内科医の認定を受けていること。 2) 受験申込時、卒後初期研修 2 年も含め卒後 6 年以上で、うち神経専門研修 3 年以上であること（教育施設 **で 3 年以上、教育関連施設で 4 年以上）。[日本神経学会認定教育施設 **：日本大学医学部附属板橋病院、日本大学医学部附属練馬光が丘病院] 3) 日本神経学会会員歴が 3 年以上あること。 4) 神経学会認定専門医資格認定試験に合格した者を認定神経内科専門医と認定する。 <p>専門医取得に必要な症例数： 入院受け持ち患者（神経内科症例）10 症例 最短取得年数：6 年</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本脳卒中学会
資格名	日本脳卒中学会専門医
資格要件	<p>取得の要件：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本脳卒中学会に在籍3年以上 2) 神経内科専門医、内科専門医、リハビリ科専門医、老年病専門医などのいずれかをみたしていること。 3) 日本脳卒中学会認定研修教育病院* で通算 3 年以上の研修歴があり、現在脳卒中診療に従事していること。 4) 日本脳卒中学会もしくは日本脳卒中の外科学会で、1 回以上筆頭演者として発表ないし講演していること。 5) 機関誌「脳卒中」あるいは Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases に 1 編以上（共著でも可）、またはそれ以外の学術雑誌

	<p>に脳卒中に関する原著論文もしくは症例報告などが2編以上（共著でも可）掲載されていること。</p> <p>[日本脳卒中学会認定研修教育病院：日本大学医学部附属板橋病院、日本大学医学部附属練馬光が丘病院]</p> <p>専門医取得に必要な症例数：脳卒中の症例要約 10 症例</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本内科学会
資格名	日本内科学会認定内科医
資格要件	<p>取得の要件：</p> <p>(1) 次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了していること（平成16年以降の医師国試合格者の場合）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研修2年＋本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＝計3年以上 2. 臨床研修2年＋本会が認定した教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上（必修化された臨床研修の2年間は教育病院での研修扱いとする） <p>(2) 受験申込時本会会員で会費を完納している者</p> <p>(3) 認定内科医資格認定試験に合格すること。</p> <p>取得に必要な症例数、その他：</p> <p>受持入院患者18症例の一覧表、18症例の病歴要約、プレゼンテーション資料、ACLS受講修了証のコピー、臨床研修修了証のコピー（2004年以後の医師国家試験合格者のみ提出）。</p> <p>最短取得年数：3年</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本内科学会
資格名	日本内科学会総合内科専門医
資格要件	取得の要件：

	<p>(1) 現在認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上（休会期間を含めない）の会員歴を有し、受験申込年度までの会費を完納し、次のa、bのいずれかに該当する内科研修歴を有する者</p> <p>a. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＋本会が認定した教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上 （計3年以上のうち、最低でも1年以上は本会が認定した教育病院での内科研修が必要である）</p> <p>b. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育関連病院での内科研修5年以上</p> <p>(2) 認定内科専門医資格認定試験に合格すること。 専門医取得に必要な症例数： 受持入院患者20症例の一覧表、20症例の病歴要約、学会・医学雑誌に発表した臨床研究（基礎的な研究は除く）、または症例報告。最短取得年数：6年</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本てんかん学会
資格名	日本てんかん学会専門医
資格要件	<p>取得の要件： 次の各項をすべて満たすこと。</p> <p>(1) 5年以上引き続き本学会の正会員であること。</p> <p>(2) 現在、てんかん診療に従事していること。</p> <p>(3) 50例の具体的なリスト（脳神経外科では手術例10例を含む25例とする）および症例詳細記述5例を提出すること。</p> <p>(4) てんかんに関する論文があり、最近10年間のもの5編、うち3編は筆頭著者としての臨床論文であること。</p> <p>(5) 1年以上の研修歴を有すること。</p> <p>(6) 日本てんかん学会認定医（臨床専門医）試験に合格すること。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本老年医学会
資格名	日本老年医学会認定老年病専門医
資格要件	(1) 3年以上本学会の会員であること。 (2) 3年以上の期間にわたって、研修カリキュラムに従って、老年病学臨床研修を終了したものであること。 (3) 本学会が施行する専門医のための試験に合格すること。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本臨床神経生理学会
資格名	日本臨床神経生理学会認定医
資格要件	2009年から下記の要件を満たす対象者に試験が行われる。 取得の要件： (1) 臨床経験が5年以上（初期臨床研修期間中の2年間を含む）あること。 (2) 継続的に会員歴が3年間以上あること。 (3) 脳波あるいは筋電図・神経伝導の臨床的検査・所見診断に3年間以上従事した経験があること。 (4) 学会主催の学術集会、技術講習会および関連講習会、または関連学会への参加が2回以上あること。 (5) 定研修施設あるいは認定委員会が認める研究施設における1年以上の研修歴を有すること。
学会の連携等の概要	

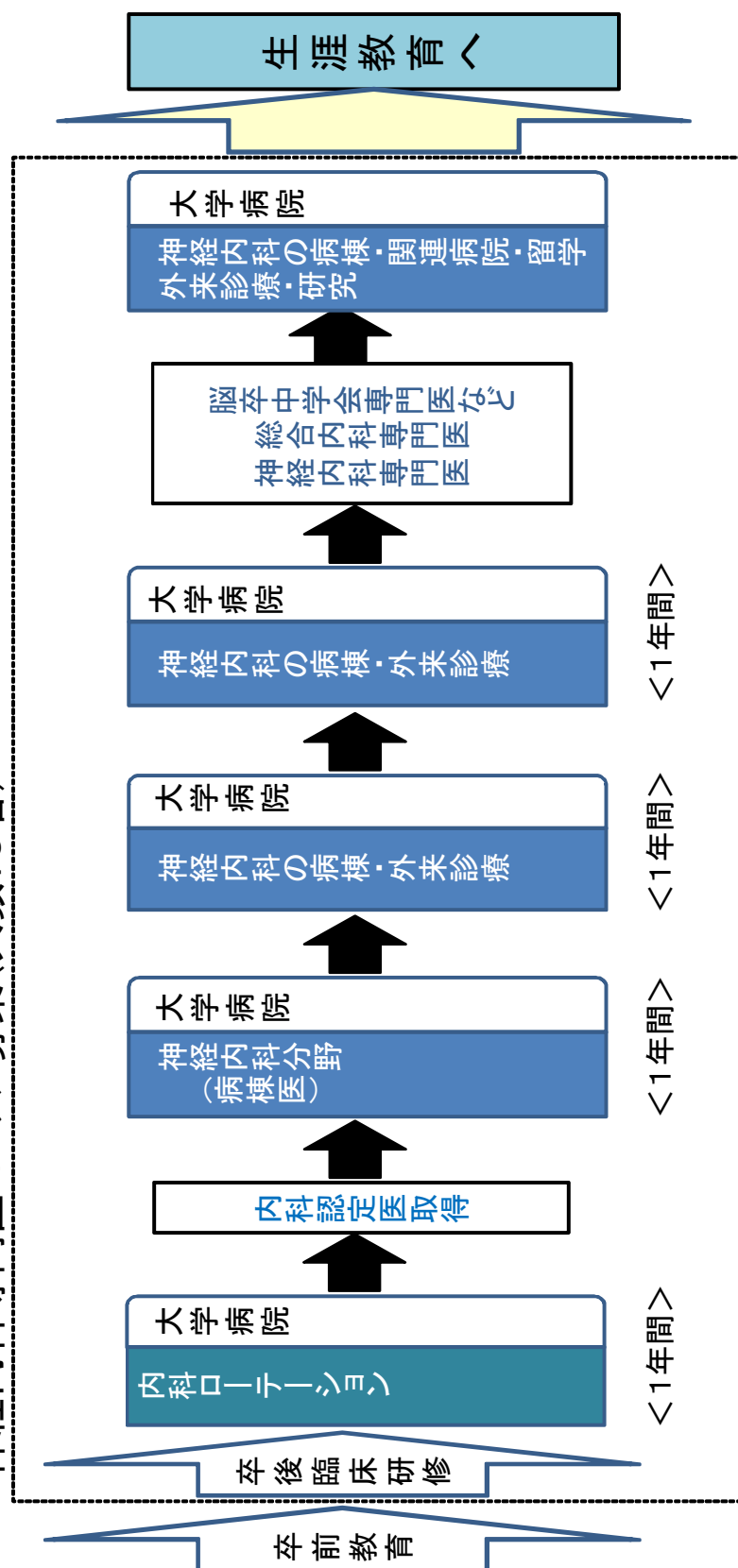
学会等名	日本頭痛学会
資格名	日本頭痛学会認定頭痛専門医
資格要件	原則として下記4項目の条件すべてを満たすもの。 (1) 日本頭痛学会正会員であること（但し会員歴が3年以上であること）。 (2) 下記のいずれかの頭痛関連学会認定医・専門医・指導医の資格を有するもの（日本神経学会、日本内科学会、日本てんかん学会など）。 (3) 十分な頭痛診療の経験を有し、この分野で指導者的立場にあるもの。 (4) 頭痛に関する論文、学会発表（共著者、共同演者も可）、国際的な頭

	痛関連学会への参加、あるいは頭痛に関する治験への参加経験のあるもの。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本認知症学会
資格名	日本認知症学会専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症関連他学会の専門医であること 2. 現在、認知症の診療に従事していること 3. 本学会会員歴が3年以上あること 4. 認知症臨床の経験を十分積んでいること 5. 認知症医療に関する専門的な知識・技術を有すること
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

神経内科専門医コース 募集(人数:5名)



1.4 精神医学分野専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、精神保健指定医および精神神経学会専門医の取得を目標とする。後期研修において、病棟の症例を上級医の指導の下、丹念に診ることで、実際の診療について学ぶ。勉強会を通じて精神医学についての広い素養を身につける。2年目からは外来診療にもあたりながら、豊富な症例、および半年間の関連病院の出張で措置症例を経験し、3年目で指定医および専門医を申請する。4年目で資格取得後には、臨床だけでなく、教育や研究にも参加し、興味ある分野について知識・経験を深める。この間に精神医学に関連したその他の専門医取得に向けた修練を行い、上級医の指導のもとこれを取得する。

(2) コースの概要

コース名：精神医学分野専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	精神科	精神医学全般、リエゾン・コンサルテーション精神医学	10	精神医学全般、若年者および症状・器質性精神障害を経験し、その対応能力の習得	5	約5年間
				受入人数	5	

(3) コースの実績

1. 精神科入院病床数（閉鎖のみ）：43床
2. 精神保健指定医数：9名
精神神経学会専門医・指導医数：10名
外来患者数：約650名/週
3. 入院患者数：（平成18年度）
総入院患者数：175名、平均在院日数61.4日

(4) コースの指導状況

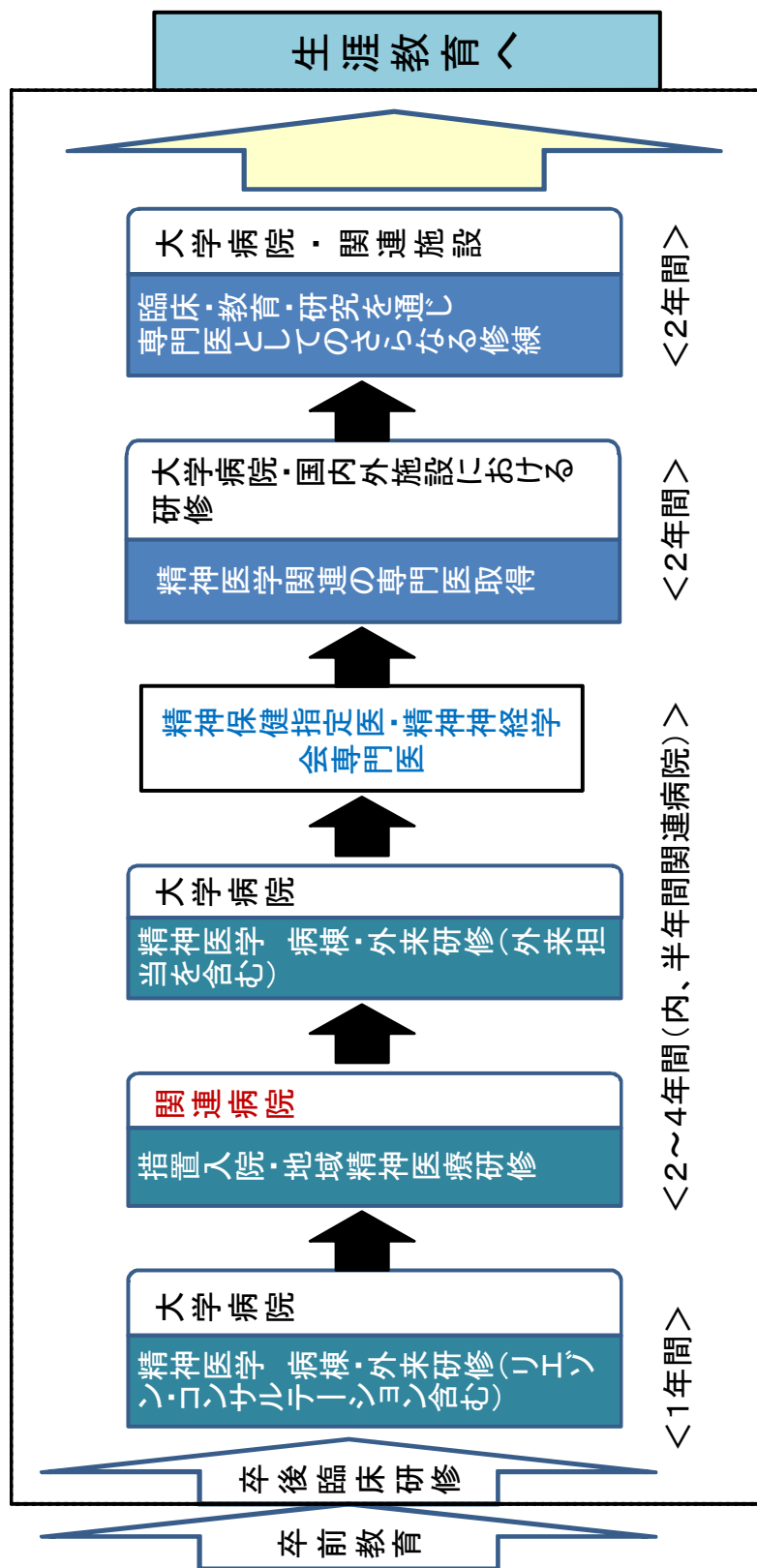
日本大学医学部附属板橋病院においては、精神医学全般、そして総合病院で閉鎖病棟という特色を生かし、身体合併症関連のケースやリエゾン・コンサルテーションについて、精神保健指定医9名を中心に病棟・外来において指導を行っている。また診療部長による週一回の回診、そして全症例を対象にした症例検討会を行っている。また週一回シミュレーションも取り入れた一症例を対象にしたより専門的な検討会も診療部長と共に行うことで、教育指導の充実をはかっている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本精神神経学会
資格名	同学会認定 精神科専門医・指導医、精神保健指定医（厚労省）
資格要件	<p>精神保健指定医：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 申請時において、5年以上の臨床経験があり、内精神科を3年間以上経験していること。 2. 指定された講習会に参加すること。 3. 指定されている8症例について法規の適用を中心としたレポートを提出すること。 <p>*最短年限で必要な症例を経験できるよう、関連病院とのネットワークを生かしたプログラムを立てています。精神医療に関する法規の適用については、これらの中で指導医からすべて学ぶことができます。</p> <p>日本精神神経学会専門医：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 申請時において、5年以上の臨床経験があり、内精神科を3年間以上経験していること。 2. 指定されている10症例の症例報告を行うこと。 3. 学会が行う筆記試験および面接試験に合格すること。 <p>*専門医試験では、精神医学に関する臨床的素養と専門的知識が問われます。教室で行っている臨床精神病理学読書会や臨床脳波・画像研究会に参加することで、試験には難なくクリアーできます。児童や思春期、老年期など専門性の高い臨床に関しても、カンファレンスが役立ちます。症例報告作成には、上級医が丁寧に指導します。</p>
学会の連携等の概要	<p>日本大学医学部附属板橋病院は、多くの専門医および指導医を擁し、日本精神神経学会の認定研修施設として認められている。</p>

専門研修による医師キャリア形成システム

精神医学分野専門医コース 募集(人数5名)



15 新生児専門医コース

(1) コースの全体像

周産期医療をより多角的に習得するため、日本大学板橋病院新生児病科、都立大塚病院のNICUでキャリア形成を図る。

同じ新生児医療でもそれぞれの病院に特色があり、連続して経験することにより、非常に高度な知識と経験を持った新生児科医が形成されていくと考えられる。

いずれも周産期医療センターとして、地域的に重要な施設であると同時に、日本大学では産科、小児外科、小児循環器科との連携による胎児期からの管理とフォローアップに加えて、研究活動に関する情報が取得できる。都立大塚病院では、超低出生体重児の管理への対応を習得することができる。

(2) コースの概要

コース名：周産期センターで修得する新生児専門医療						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	新生児病科	新生児病学	4	胎児期からの管理とフォローアップ	3-4人	4年間
都立大塚病院	小児科・新生児科	新生児学	3	超低出生体重児の管理	2-3人	1年間
				受入人数	3	

(3) コースの実績

入院病床数：各病院とも NICU 12床 + GCU 約 30床

入院数：日本大学；250～300／年 大塚病院 400／年

超低出生体重児 上記の各々 20／年、40／年

人工換気例数 上記の各々 70／年、100／年

(4) コースの指導状況

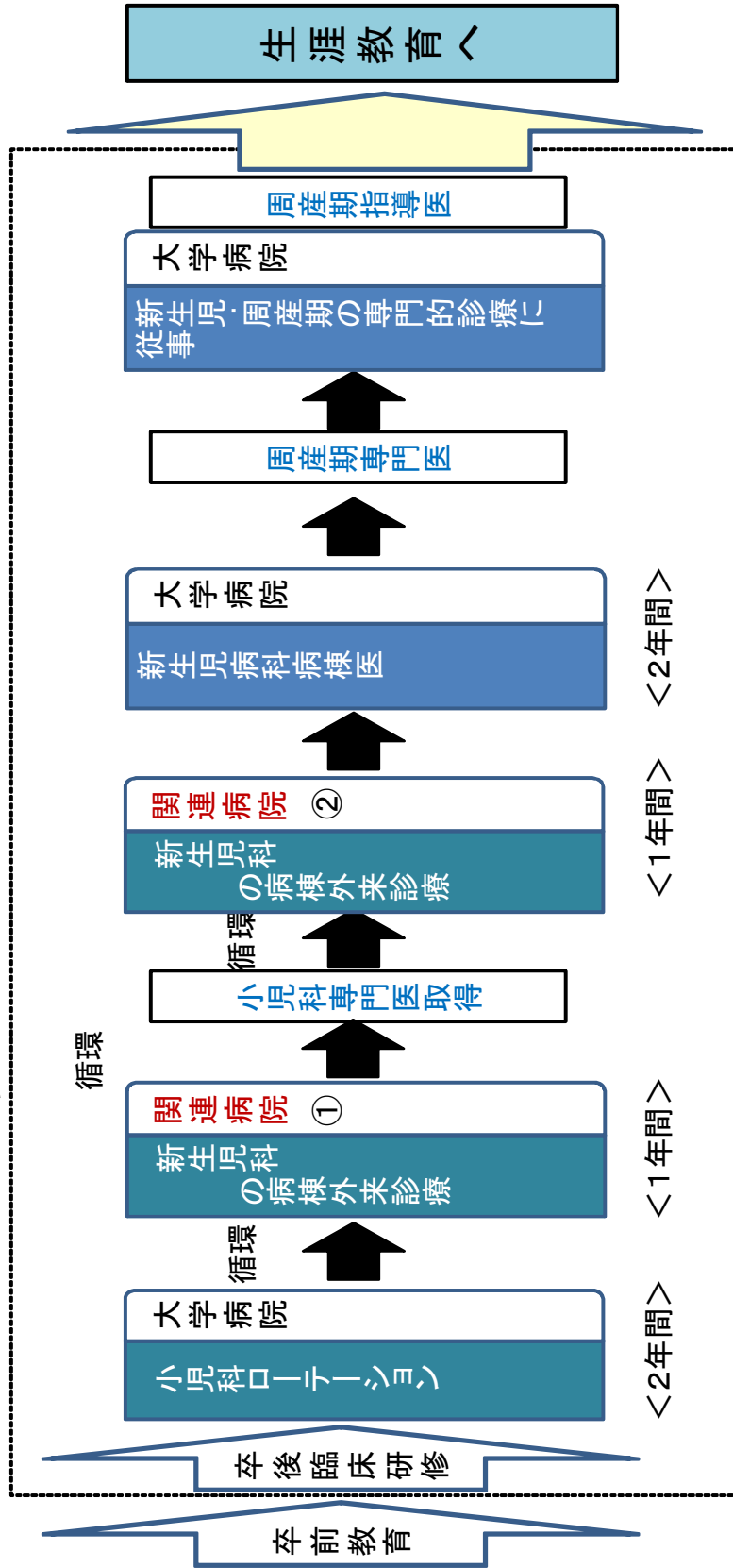
いずれの病院も、外科治療も可能であり、指導者は10～20年以上に亘って新生児医療を専門とする経験豊富な医師であり、多くの若手医師が新生児に志向している。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本周産期学会
資格名	周産期専門医
資格要件	日本小児科学会認定小児科専門医 (1) 日本国の医師免許を所有していること (2) 基本学会である日本産婦人科学会、日本小児科学会、日本小児外科学会のいずれかの専門医であること (3) 資格認定試験を受験する時点で3年以上継続して日本周産期・新生児医学会会員であり、会費を完納していること (4) 第2項の学会専門医資格を取得後、認定研修施設における3年間の研修を終了し、付則に定める臨床経験を持っていること (5) 本学会が認める周産期医学、周産期医療に関連する学術論文1編以上を筆頭著者として査読制度のある雑誌に発表していること (6) 本学会が定める周産期医学関連学会に所定の回数参加し、かつ筆頭演者として発表を行っていること (7) 研修の届出を行い、所定の研修報告書を毎年、提出していること (8) 本学会の行う資格認定試験に合格していること
学会の連携等の概要	単位認定が可能な学会・研究会は全国に多数（約100）あり、新生児の診療を通じて得られた知見を発表し、学会での討論に参加すれば、知識が十分に更新され、専門医取得が可能である。

専門研修による医師キャリア形成システム (小児科①)

新生児専門医コース 募集(人数3名)



16 小児血液腫瘍性疾患専門医コース

(1) コースの全体像

小児の血液腫瘍性疾患の診療可能な施設として、日本大学板橋病院と静岡県立こども病院を循環して、日本血液学会認定専門医の取得を含めたキャリア形成を図る。両施設とも、小児外科との連携によって固形腫瘍の症例も経験できる。

(2) コースの概要

コース名：小児血液腫瘍性疾患専門医コース						
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受 入)人数	期 間
日本大学医学 部附属板橋病 院	小児科	血液腫瘍班	4	固形腫瘍を含む血 液腫瘍性疾患の診 療	3-4人	4年間
静岡県立こど も病院	血液腫瘍科	血液腫瘍学	3	固形腫瘍を含む血 液腫瘍性疾患の診 療	2-3人	2年間
				受入人数	3	

(3) コースの実績

日本大学：造血幹細胞移植 300 例

静岡こども病院：造血幹細胞移植 200 例

(4) コースの指導状況

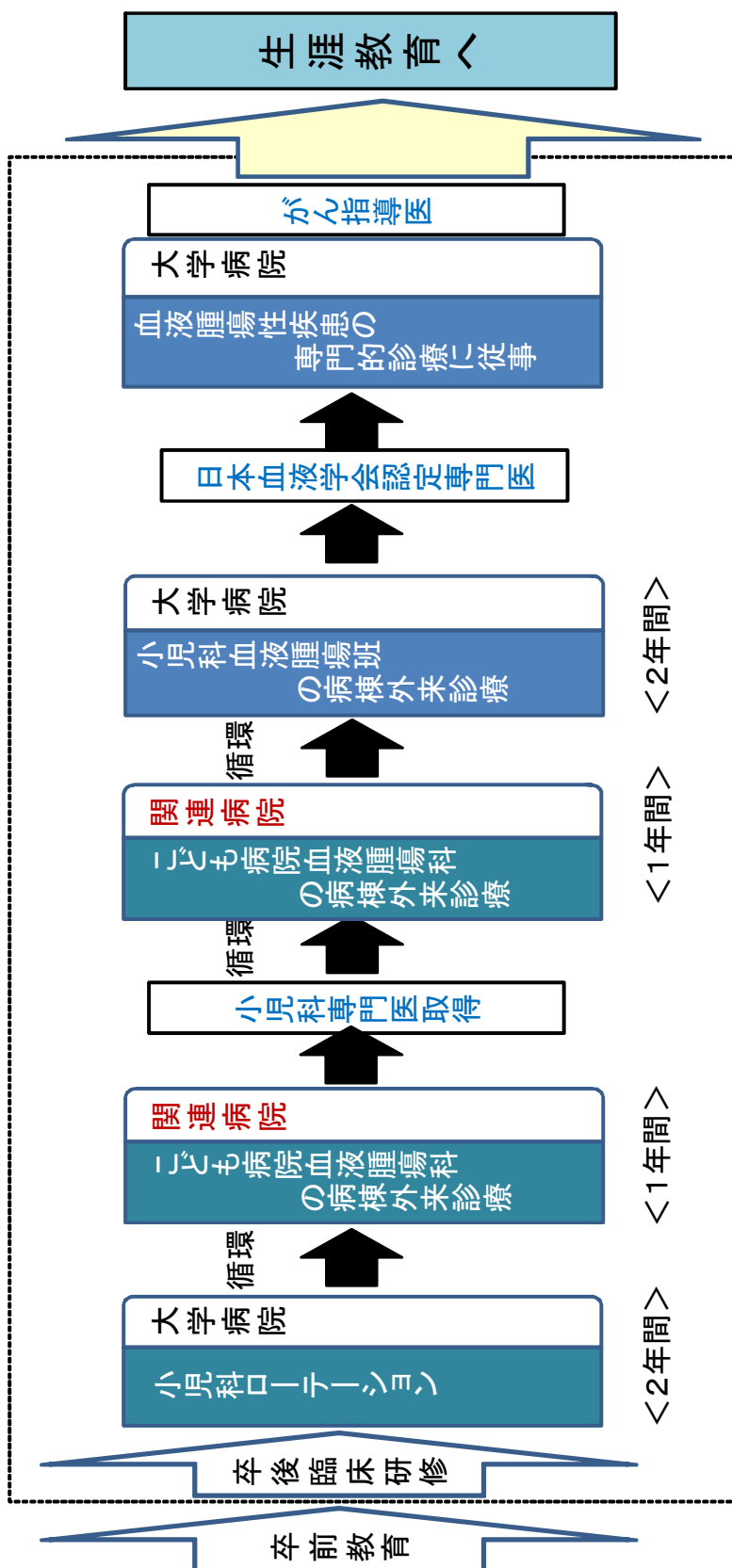
いずれの病院も、指導者は10～20年以上に亘って血液腫瘍医療を専門とする経験豊富な医師であり、若手医師の指導に積極的である。また、リサーチ面でも指導者を置き、臨床と研究の関連を強く維持している。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本血液学会
資格名	日本血液学会専門医
資格要件	<p>以下の(1)～(6)のいずれも該当すること。</p> <p>(1) 日本内科学会認定医または日本小児科学会専門医(認定医)である者</p> <p>(2) 卒後6年以上の臨床研修を必要とし、このうち3年以上日本血液学会が認定した研修施設において臨床血液学の研修を行った者</p> <p>(3) 申請時に継続して3年以上、(新)日本血液学会(旧血液学会、及び旧臨床血液学会)の会員である者</p> <p>(4) 臨床血液学に関係した内容で、筆頭者として学会発表または論文が2つ以上ある者</p> <p>(5) 「診療実績記録」を提出すること。</p> <p>1) 受け持ち入院患者のうち10名について作成すること。</p> <p>2) 症例は3領域(赤血球系疾患、白血球系疾患、出血血栓性疾患)のそれぞれにおいて少なくとも2例を含むこと。</p> <p>3) 記載内容に関し、診療科長(所属は問わない)の署名及び承認印を受けること。</p> <p>(6) 日本血液学会研修施設における血液学に関する研修記録を提出すること。「社団法人 日本血液学会血液専門医カリキュラム」に自己評価及び指導医による評価を記入の上、提出すること。</p>
学会の連携等の概要	<p>単位認定が可能な学会・研究会は全国に多数(約110)あり、血液腫瘍疾患の診療を通じて得られた知見を発表し、学会での討論に参加することで知識が更新され、専門医取得が可能である。</p>

専門研修による医師キャリア形成システム (小児科②)

小児血液腫瘍性疾患専門医コース 募集(人数3名)



17 小児循環器専門医コース

(1) コースの全体像

小児循環器疾患をより多角的に修得するため、日本大学板橋病院小児科、都立墨東病院、福岡県立こども病院のNICUでキャリア形成を図る。

これらに加えて、清瀬小児病院スペシャルティレジデント、榊原記念病院循環器小児科の修練医にも応募可能である。いずれも、日本小児循環器学会認定専門医修練施設として、さまざまな循環器疾患を診療している。

日本大学板橋病院と墨東病院では主に内科的管理を主体とする小児心疾患を扱い、福岡県立こども病院では、最大手術件数を誇る小児心臓外科、麻酔科との連携により、より複雑な心疾患への対応を修得することができる。

(2) コースの概要

コース名：小児循環器専門医コース						
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受 入)人数	期 間
日本大学医学 部附属板橋病 院	小児科(循環 器班)	小児循環器 病学	4	小児心疾患全般と くに術後心疾患の フォロー、不整脈(カ テーテルアブレーション)、川 崎病後遺症、心筋 疾患	2人	2~3年 間
都立墨東病院	小児科	小児循環器 病学	2	小児心疾患全般	2人	1年間
福岡市立こど も病院	循環器科、 新生児循環 器科	小児循環器 病学	3	先天性心疾患の 診断、治療およ び周術期管理、カ テーテル治療不整脈 (アブレーション)	2人	2年間
				受入人数	2	

(3) コースの実績

日大板橋病院小児科

入院病床数： 56 床

心疾患入院数：約 100 人／年 カテーテル検査・治療：70 人／年

心エコー 約 2,500 人／年

東京都学校心臓検診対象者数 約 12,000 人

都立墨東病院小児科

心疾患入院数：のべ 50 人／年 心エコー 約 1,000 人／年

東京都学校心臓検診対象者数 約 12,000 人

福岡市立こども病院

心疾患入院数：約 1000 人／年 カテーテル検査・治療：約 650 人／年

心エコー 約 8,000 人／年

学校心臓検診対象者数 約 12,000 人／年

先天性心疾患手術数 約 400 例／年

(4) コースの指導状況

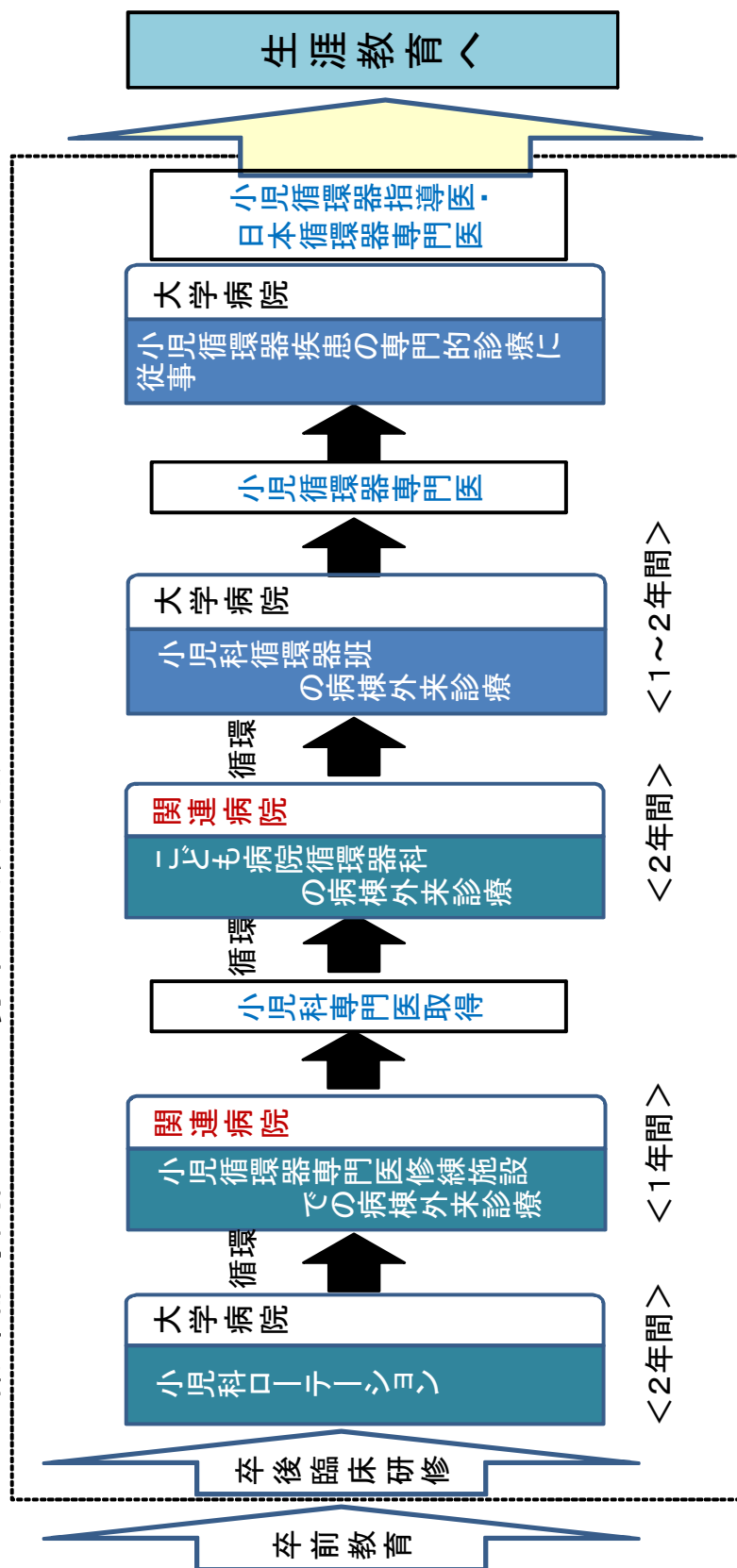
いずれの病院も、指導者は 10～20 年以上に亘って小児循環器医療を専門とする経験豊富な医師であり、多くの若手医師に小児循環器病学を志望する動機を与えている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本小児循環器学会
資格名	小児循環器専門医
資格要件	<p>専門医の認定を希望する者は、以下の基準をすべて満たしていることが必要である。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 日本国医師免許を有すること。(2) 小児循環器専門医は小児科専門医であること。他の基本領域の専門医については、専門医・修練施設等認定委員会で審査する。(3) 受験申込時、5年以上継続して本学会会員であり、会費を完納していること。(4) 小児循環器専門医は、卒後8年以上の研修および修練期間を有し、本学会が認定する修練施設で5年間の小児循環器修練を修了していること。ただし、本学会が認定する修練施設における小児科専門医研修については、2年間に限り小児循環器修練期間に算入できる。(5) 付則に定める臨床経験を持っていること。(6) 所定の学術研究業績を有すること。(7) 本学会が認める小児循環器関連学会に所定の回数参加し、かつ筆頭演者として発表を行っていること。(8) 本学会の行う資格認定試験に合格していること。
学会の連携等の概要	<p>単位認定が可能な学会・研究会は全国に多数（約100）あり、小児循環器学の診療を通じて得られた知見を発表し、学会での討論に参加することで知識の更新が得られ専門医取得が可能である。</p>

専門研修による医師キャリア形成システム (小児科③)

小児循環器専門医コース 募集(人数2名)



18 皮膚科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医の取得を目標とする。初期臨床研修終了後、将来の専門分野にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する疾患に適切に対応できるよう、皮膚科領域の基本的な診療能力を身につけ、日本皮膚科学会認定専門医を早い時期から目指して学習する。それと合わせて診断と治療に直結する臨床研究を中心に研究を行なう。週1回行なわれる症例検討会と抄読会では個人で知り得た知識を共有し、かつ、繰り返し学習する。また各種学会や講習会、講演会に積極的に参加し、また自ら発表して自己研修に努め、学会発表した症例の論文を執筆することに関して、指導医が指導する。この研修期間に、学会発表を8回、筆頭論文発表を3編（もしくは学会発表6回、論文作成4編）行い、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医の受験資格を得る。また1年間関連病院での研修も行なう。

(2) コースの概要

コース名：皮膚科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	皮膚科	皮膚科	6	皮膚疾患の基本的・専門的診療能力の修得および研究	5	4年間
川口市立医療センター	皮膚科	皮膚科	1	皮膚疾患の基本的診断能力修得と頻度の多い皮膚疾患の診療	1	1年間
社会保険横浜中央病院	皮膚科	皮膚科	2	皮膚疾患の基本的診断能力修得と頻度の多い皮膚疾患の診療	1	1年間
				受入人数	4	

(3) コースの実績

1. 皮膚科入院病床数：約20床
2. 皮膚科専門医数：6名 在籍専門研修医数：12名
外来患者数：約名600名/週
3. 皮膚科疾患入院診療実績（最近5年間、重複例あり）
 - i) 皮膚悪性腫瘍：239名、
 - ii) 感染症：282名、
 - iii) 重症中毒疹：145名、
 - iv) 皮膚良性腫瘍：42名、
 - v) 乾癬：40名、
 - vi) アトピー性皮膚炎、湿疹群：40名、
 - vii) 自己免疫性水疱症：31名、
 - viii) 膠原病：23名、
 - ix) 皮膚潰瘍、血管性病変：20名

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院においては、皮膚科専門医計6名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療科長による週一回の回診ならびに症例検討会、病

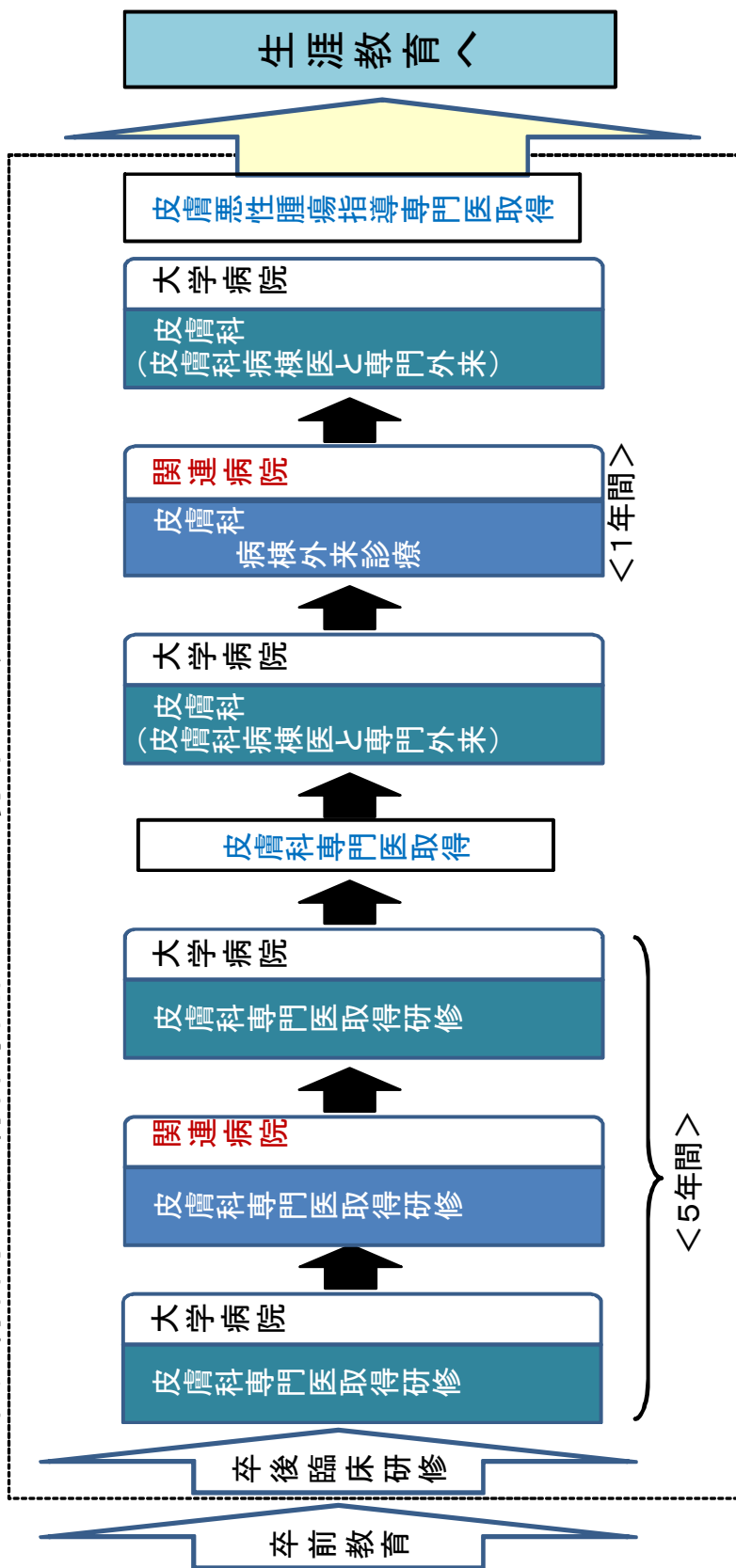
理組織検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院である川口市立医療センター、社会保険横浜中央病院では、皮膚科専門医が外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本皮膚科学会
資格名	日本皮膚科学会認定 皮膚科専門医
資格要件	<p>(1) 申請期限の日を含めて、5年以上継続して本会正会員である者。</p> <p>(2) 初期研修病院を含む本会の指定する日本皮膚科学会認定専門医研修施設において、5年以上皮膚科の臨床研修を行った者、ならびにこれと同等以上の研修（初期研修を含む）を行ったと認められる者。</p> <p>(3) 認定前研修実績において、所定の単位（日本皮膚科学会が定める講習会、学会発表、原著発表）を取得した者。</p> <p>(4) 現在、皮膚科の診療に携わっている者。</p>
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

日本皮膚科学会皮膚科専門医コース 募集（人数4名）



19 小児外科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、小児外科専門医の取得を目標とする。小児外科専門医取得のためには外科専門医の取得が条件となっているため、初期臨床研修終了後にはまず外科専門医の取得を目指した研修を行い、その後スムーズに小児外科専門医の研修を行えるように配慮している。

外科専門医は、修練開始から4年以上経過した時点で予備（筆記）試験を受験して、5年以上経過した時点で予備試験に合格し、かつ規定の経験すべき最低手術症例数を充足したものが面接試験を受験して合格すると外科専門医の資格が取得できる。本コースでは最初の1年間は小児外科に所属し、病棟医を担当して外科医としての基本的な知識や技能を身につける。その後2～3年間は外科専門医取得に必要な専門外科（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科）の研修を、日本大学医学部附属板橋病院を中心に関連病院（都立大塚病院、春日部市立病院、公立阿伎留医療センター、沼津市立病院など）で行う。

小児外科専門医は卒後初期臨床研修期間を含めて3年以上の小児外科認定および関連施設での研修が必要とされている。その他に専門医筆記試験の合格、規定の論文数、学会報告（発表）数、必要経験症例数が満たされ審査に合格すれば小児外科専門医の資格が得られる。本コースでは1～2年間の小児病院を中心とした認定・関連施設での研修を行い、その後は大学病院での小児外科研修を引き続き行い最短での専門医取得を目指せるように配慮している。

(2) コースの概要

コース名：小児外科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	小児外科	小児外科	2	小児外科の専門的診療能力の修得	2	3年間
都立大塚病院	外科	一般外科 小児外科	2 2	一般外科および小児外科とくに新生児外科対応能力を修得する	2	1年間
千葉県こども病院	外科	小児外科	2	小児外科の専門的能力を修得し、規定の主要疾患症例の経験をする	1	1年間
沼津市立病院	外科 小児外科	外科 小児外科	2 1	一般外科および小児外科とくに新生児外科対応能力を修得	2	1年間

埼玉県立小児医療センター	外科 泌尿器科	小児外科 泌尿器科	2 1	小児外科・小児泌尿器疾患の専門的能力を修得する	1	1年間
春日部市立病院	外科	一般外科	4	一般外科の診療能力を修得	1	1年間
阿伎留医療センター	外科	一般外科	2	一般外科の診療能力を修得	1	1年間
				受入人数	2	

(3) コースの実績

1. 小児外科外来総患者数（年間） 5,864 人
2. 小児外科病棟入院総数（年間） 522 人
3. 手術件数（年間） 391 件
4. 主要手術：鼠径ヘルニア類縁疾患 153 件、鏡視下手術 51 件、新生児手術 17 件、消化管 70 件、腫瘍 12 件、肝胆道系 6 件、泌尿器 16 件。
5. 日本外科学会指導医 3 名、専門医 13 名
日本小児外科指導医 2 名、専門医 6 名

(4) コースの指導状況

板橋病院においては、日本外科学会指導医 3 名および専門医 9 名、日本小児外科指導医 2 名、専門医 5 名で専門的診療指導を行っている。診療部長および医長による各々週一回の回診ならびに症例検討会と指導を行っている。また術前症例検討会と術後症例検討会、新生児外科カンファレンスをそれぞれ週一回行い、周産期カンファレンスと小児腫瘍ボードカンファレンスを月一回行っている。そのほか研究報告会と抄読会も週一回開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院とも連携を計り、都立大塚病院では月一回の症例検討会と手術指導も行っている。千葉県こども病院や埼玉県立小児医療センターにおいては学会規定の検討会、勉強会が開催されている。

(5-1) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	概要 (1) 修練開始登録後満 4 年以上経た段階で予備試験（筆記試験）が受験できる。 (2) 予備試験に合格後、修練開始後満 5 年以上経て、規定の修練をすべて経験した段階で認定試験（面接試験）が受験できる。 (3) 認定試験合格後、外科専門医として認定される。

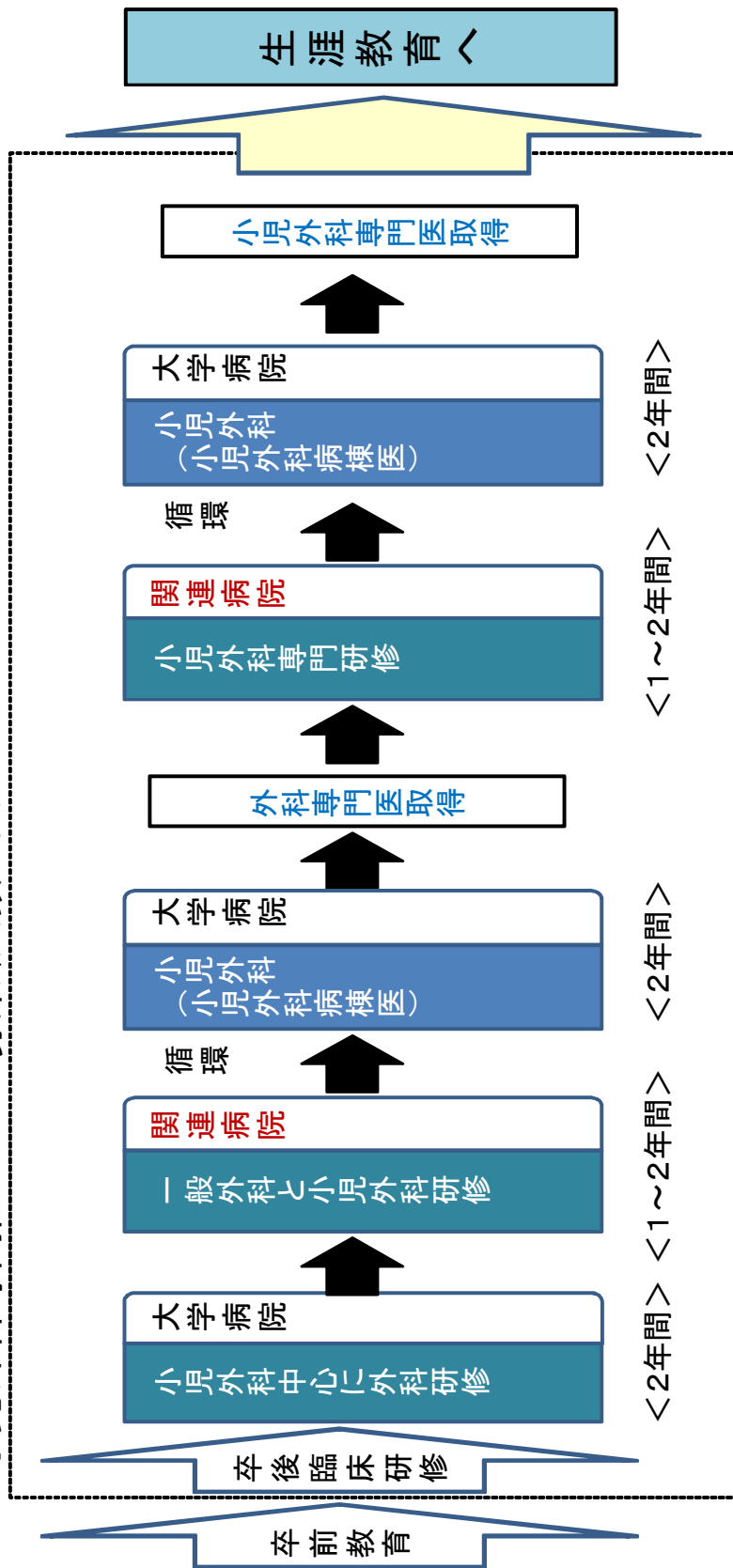
	<p>修練概要</p> <p>(1) 修練実績</p> <p>修練実施計画に則り、本会指定施設または関連施設において、以下の手術を行っていること。最低手術件数 350 例（以下の手術件数を含む、消化管及び腹部内臓 50 例、乳腺 10 例、呼吸器 10 例、心臓・大血管 10 例、末梢血管 10 例、頭頸部・体表・内分泌外科 10 例、小児外科 10 例、各臓器の外傷 10 例、鏡視下手術 10 例）以上の手術に従事し、術者として 120 例以上の手術を行っていること。</p> <p>(2) 業績</p> <p>筆頭者として、相当と認められた学術集会または学術刊行物に、研究発表または論文発表をしていること。</p>
<p>学会の連携等の概要</p>	

(5-2) 専門医の取得等

学会等名	日本小児外科学会
資格名	小児外科専門医
資格要件	申請条件 1. 日本国の医籍を有すること。 2. 認定施設において、小児外科の研修を通算3年以上行なっていること。 3. 外科医として7年以上（うち5年以上は臨床研修とする）の経験を有すること。 4. 外科専門医あるいは日本外科学会の認定医の資格を持つこと。 5. 小児外科に関する筆頭者としての研究論文および症例報告を、それぞれ1篇以上、およびその他の論文を3篇以上発表していること。 6. 学会、地方会または研究会において、小児外科に関する発表を、演者として3回以上行なっていること。 7. 別に定める臨床経験および研修指数を持っていること。 8. 申請の時点で、引き続いて3年以上本学会々員であること。 9. 本学会の行なう筆答試験に合格していること。
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

小児外科専門医コース 募集(人数2名)



20 乳腺専門医コース

(1) コースの全体像

乳腺専門医の取得には外科専門医、内科認定医、放射線認定医のいずれかを先行して取得する必要がある。

外科専門医をまず取得し、乳腺専門医を取得するコースの場合には初期研修終了後、1年間（3年目）は乳腺内分泌外科で研修をし、その後、1年間（4年目）乳腺内分泌外科にて病棟医を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて、外科疾患の入院診療の基本を学ぶ。5年目は外科専門医試験の準備期間で関連病院にて外科専門医取得のために不足していた手術経験を充足し、かつ予備試験の申請を行う。また、サブスペシャリティの手術経験が不足している場合には、大学病院あるいは他の関連病院にて充足する。その後の2年間は主として大学病院において、乳腺の手術経験を増やし、腫瘍内科、緩和医療を経験。

(2) コースの概要

コース名：乳腺専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	乳腺内分泌・小児外科	乳腺外科	4	乳腺疾患の専門的診療能力の修得	4	2年間
				受入人数	4	

(3) コースの実績

1. 乳腺内分泌外科入院病床数：約 15 床
2. 乳腺外科専門外来担当指導医および専門医数：4 名
外来患者数：約 450 名/週
3. 乳腺内分泌外科手術診療実績（最近3年間、重複例あり）
 - i) 乳腺疾患：800 名
 - ii) 甲状腺疾患：200 名
 - iii) 副甲状腺疾患・高カルシウム血症 35 名
 - iv) その他（体表）：200 名

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院においては、外科学会指導医 3 名および乳腺専門医 3 名、乳癌学会認定医 4 名の計 6 名（重複有）で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長・科長による週一回の回診ならびに週一回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本乳癌学会
資格名	乳腺専門医
資格要件	<p>(1) 申請時において、乳癌学会の認定医であること。継続5年以上日本乳癌学会の会員であること。(休会期間は会員歴には含まれません。)</p> <p>(2) 申請時において、基幹学会の認定医(または専門医)として認められている者。内科系にあつては日本内科学会認定医、放射線系にあつては日本放射線医学学会の認定医として認められている者。</p> <p>(3) 臨床研修医終了後、認定施設(関連施設を含む)において所定の修練カリキュラムにしたがい通算5年以上の修練を行っていること。ただし、平成15年迄の医師免許取得者は、医師免許取得後7年以上修練し、そのうち5年以上は認定施設において所定の修練カリキュラムに従い修練を行っていること。</p> <p>(4) 別に定める研究および研修業績を有すること。</p> <p>(5) 別に定める診療経験を有すること。</p>
学会の連携等の概要	

21 心臓血管外科専門医コース

(1) コースの全体像

初期臨床研修終了後、最初の3年間は外科専門医の取得を目指す。この3年間の最初の1～2年間は、心臓外科、血管外科もしくは呼吸器・総合外科の病棟医を担当する。この期間に各診療グループ専門医より直接の指導に加え、週1回の教授回診およびカンファレンスを通じて、外科の基礎的手技や手術適応、周術期管理などの基本を学ぶ。

その後の大学病院において初期臨床研修中に研修できなかった専門外科（消化器外科、乳腺内分泌外科、呼吸器外科、小児外科）、麻酔科で研修を積み、外科の基礎的な手技や周術期管理などの入院診療の基本を学びながら、外科学会専門医を取得する。

その後、関連病院に出向し地域医療に貢献すると共に、心臓血管外科手術やICU管理などに研修を継続し、心臓血管外科専門医取得を目指す。

(2) コースの概要

コース名：心臓血管外科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	心臓外科	心臓血管外科	4	心臓外科疾患の専門的診断能力、手術手技、周術期管理の修得	4	1～2年間
日本大学医学部附属板橋病院	血管外科	心臓血管外科	4	血管外科疾患の専門的診断能力、手術手技、周術期管理の修得	4	1～2年間
日本大学医学部附属板橋病院	呼吸器・総合外科	呼吸器・総合外科	4	呼吸器外科疾患の専門的診療能力の修得	4	半年～1年間
日本大学医学部附属板橋病院	専門外科、麻酔科、救命科			外科専門医取得のため、必要な各専門外科にて研修を行う	4	半年～1年間
関連病院	心臓血管外科	心臓血管外科	1	心臓血管外科の診断能力、手術手技、周術期管理の修得	1	半年～1年間
				受入人数	4	

(3) コースの実績

1. 心臓血管外科入院病床数：約40床
2. 心臓血管外科専門医数：12人
3. 心臓血管外科年間手術症例数

- 1) 冠動脈バイパス術 130 例
- 2) 弁膜症手術 90 例
- 3) 胸部大動脈手術 50 例
- 4) 腹部大動脈瘤手術 60 例
- 5) 血管内治療 90 例 など

(4) コースの指導状況

- 1) 毎週月曜日に心臓血管外科全員参加の症例検討会を行っている。
- 2) 火曜日～金曜日の毎朝 8 時から心臓外科は、グループミーティングを行い診療状況の確認を行う。
- 3) 毎週月曜、金曜の午後に循環器内科・心臓外科合同症例検討会を行っている。
- 4) 血管外科は、毎週火曜日に外来症例を中心とした症例カンファレンスを行っている。
- 5) 予定手術は、心臓外科（火、木、金）、血管外科（火、木）血管内治療（月、水、金）。その他緊急手術は 24 時間体制で随時対応している。

- 1) 毎週月曜日に心臓血管外科全員参加の症例検討会を行っている。
- 2) 火曜日～金曜日の毎朝 8 時から心臓外科は、グループミーティングを行い診療状況の確認を行う。
- 3) 毎週月曜、金曜の午後に循環器内科・心臓外科合同症例検討会を行っている。
- 4) 血管外科は、毎週火曜日に外来症例を中心とした症例カンファレンスを行っている。
- 5) 予定手術は、心臓外科（火、木、金）、血管外科（火、木）血管内治療（月、水、金）。その他緊急手術は 24 時間体制で随時対応している。

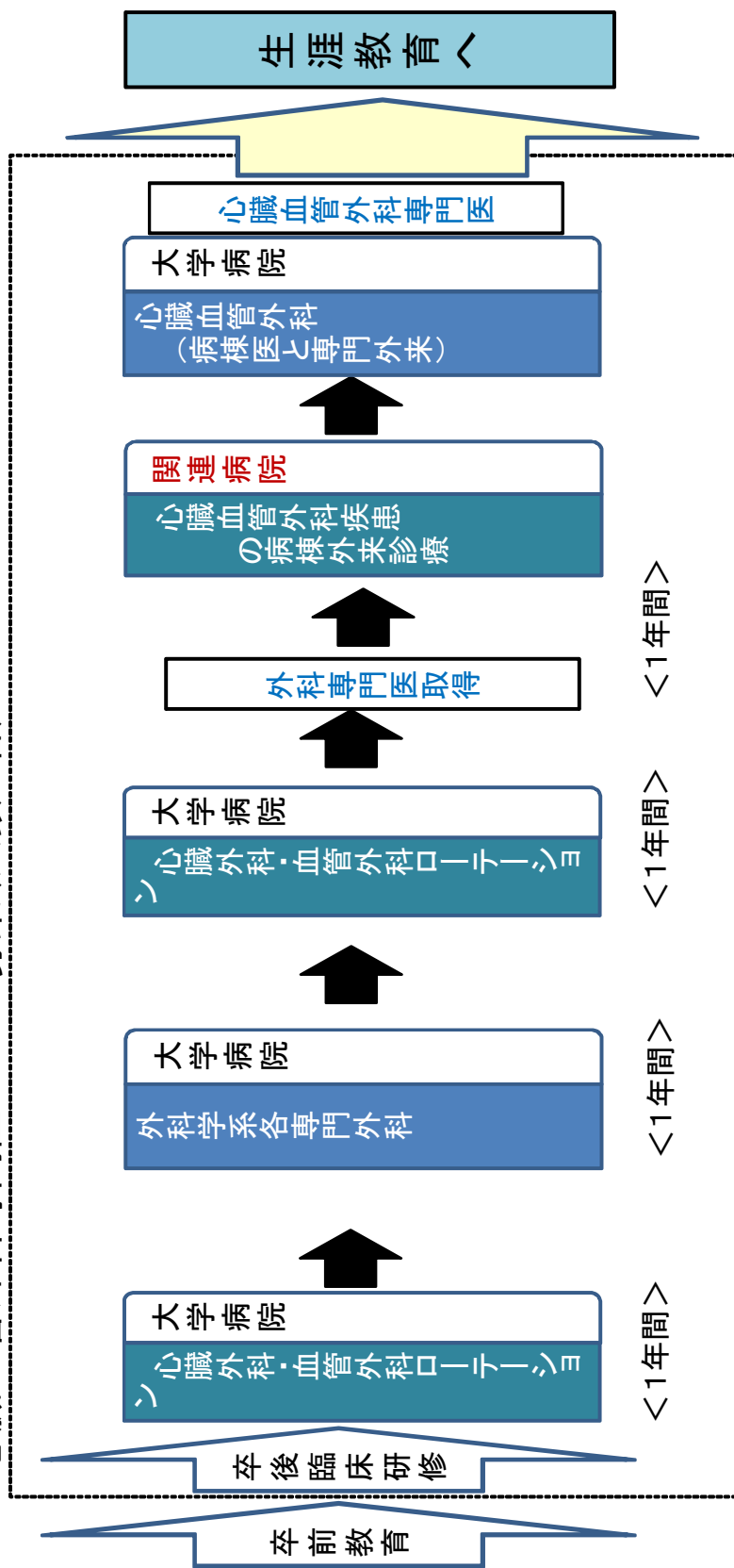
(5) 専門医の取得等

学会等名	日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会
資格名	心臓血管外科専門医
資格要件	<ul style="list-style-type: none"> 1) 日本国の医師免許証を有すること。 2) 日本外科学会認定医、あるいは外科専門医または外科専門医筆記試験合格者であること。 3) 卒後修練期間 7 年以上を有すること。 4) 認定修練施設において 3 年以上の修練期間を有すること。 5) 修練期間中に別に定める手術経験を有すること。（心臓血管外科専門医認定のための臨床経験評価方式） 6) 心臓血管外科学に関する別に定める一定の業績（学会発表、論文発表）および研修実績（学会参加）を有すること。（申請に必要な業績と研修実績） 7) 日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会のうちの少なくとも 2 学会の会員であり、3 年以上の会員歴を有

	すること。 8) 主たる認定修練施設の指導責任者からの申請者の評価を含めた推薦状を添付すること。推薦状には指導責任者の自筆署名と署名日を付けること。
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

心臓血管外科専門医コース 募集(人数4名)



22 呼吸器外科専門医コース

(1) コースの全体像

初期臨床研修終了後、1年間は総合・乳腺・呼吸器外科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門外科で研修を積み、その後、1年間呼吸器外科にて、呼吸器外科グループの病棟医を担当する。この期間に、指導医による直接の指導に加え、週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて、呼吸器外科疾患の入院診療の基本を学ぶ。その後1年間は、関連病院に於いて、一般外科医として地域医療に貢献すると共に、救急疾患患者を中心に診療を行う。その後外科認定医を取得する。その後2年間は、大学病院において、呼吸器外科病棟と専門外来を担当する。この2年間の研修期間に、呼吸器外科臨床に関する学会発表を少なくとも5回および論文発表を少なくとも3編行い、呼吸器外科専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：呼吸器外科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	呼吸器外科	呼吸器外科学	4	呼吸器外科疾患の専門的診療能力の修得	3	2～3年間
日本大学医学部附属板橋病院	心臓血管外科	心臓血管外科学	8	心臓血管外科疾患の専門的診断能力、手術手技、周術期管理の修得	4	半年～1年間
日本大学医学部附属板橋病院	専門外科、麻酔科、救命科			外科専門医取得のため、必要な各専門外科にて研修を行う	4	半年～1年間
関連病院	外科	外科	1	一般外科医・救急疾患患者を中心に診療を行う	2	半年～1年間
				受入人数	2	

(3) コースの実績

1. 呼吸器外科入院病床数：約 20 床
2. 呼吸器外科指導医および専門医数：4 名
外来患者数：約 100 名/週
3. 呼吸器外科手術実績（最近 5 年間）
 - i) 肺癌：約 70 例 ii) 気胸：約 100 例
 - iii) 縦隔腫瘍：約 20 例 iv) 転移性肺腫瘍：約 20 例
 - vi) 良性腫瘍：約 20 例 v) その他：約 20 名

(4) コースの指導状況

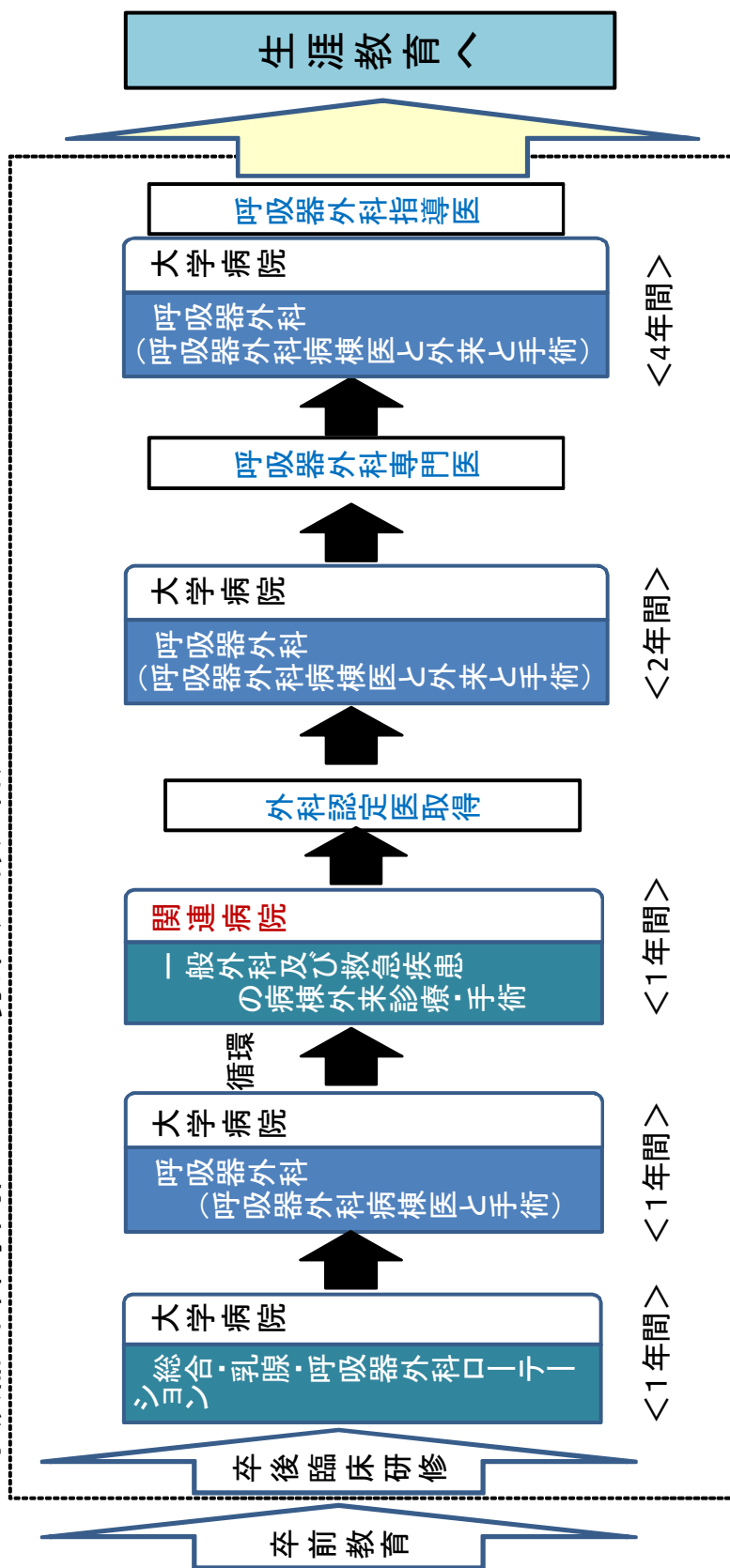
日本大学医学部附属板橋病院においては、呼吸器外科指導医 2 名および専門医 2 名の計 4 名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長・科長による週一回の回診ならびに週 2 回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院である武蔵野総合病院には、指導医・専門医が週 2 回出張診療を行い、外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本呼吸器外科学会
資格名	呼吸器外科専門医
資格要件	(1) 申請時において、継続 7 年以上日本呼吸器外科学会の会員であること。 (2) 申請時において、外科専門医あるいは日本外科学会認定医であること (3) 医療安全などに関する研修を 2 回以上受けていること (この研修は学会、医師会あるいは各施設などの主催であってもよいが参加を証明できる書類が必要である) (4) 日本呼吸器外科学会総会又は日本胸部外科学会学術集会に計 5 回以上参加していること (5) 日本呼吸器外科学会呼吸器外科セミナー、あるいは日本胸部外科学会 Postgraduate Course (旧 卒後教育セミナー) に計 2 回以上参加していること (6) 日本呼吸器外科学会の認める全国あるいは地方開催の胸腔鏡セミナーないし講習会に 2 回以上参加している (7) 呼吸器外科に関する全国規模の学会において筆頭で 5 回以上の学会発表があること。 (8) 査読制度のある論文発表が 3 編以上あり、少なくとも 1 編は筆頭者であること。 (9) 術者として 50 例以上、助手として 100 例以上の手術経験があること。
学会の連携等の概要	外科専門医ならびに呼吸器外科認定医試験資格においてはある程度の学会入会年数が必要のため初期臨床研修医時早期に入会することが望ましい。

専門研修による医師キャリア形成システム

呼吸器外科専門医コース 募集 (人数2名)



23 外科専門医・指導医コース

(1) コースの全体像

本コースは、各種専門医の申請条件の一つである外科専門医の取得を目標とする。初期臨床研修終了後、2年間は総合外科に属し初期臨床研修中に研修できなかった専門外科の研修を積む。この期間に、各科の指導医による直接の指導に加え、週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて、外科疾患の入院診療の基本と手術経験を学ぶ。その後1年間は、関連病院に於いて、一般外科医として地域医療に貢献すると共に、救急疾患患者を中心に診療を行う。その後外科認定医を取得する。その後5年間は、大学病院において、外科病棟と専門外来を担当する。この3年間の研修期間に、外科臨床に関する学会発表を少なくとも1回および論文発表を少なくとも1編行い、外科専門医の受験資格を得る。また、指導医の場合は専門医合格後、5年間に5篇以上の外科学に関する研究論文を発表する。

(2) コースの概要

コース名：外科専門医・指導医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
板橋病院	総合外科	総合外科	4	外科系1次・2次救急疾患対応能力を修得する	2	6ヶ月
板橋病院	消化器外科	消化器外科	4	専門的診療能力の修得	2	6ヶ月
板橋病院	心臓血管外科	心臓血管外科	4	専門的診療能力の修得	2	3ヶ月
板橋病院	乳腺外科	乳腺外科	4	専門的診療能力の修得	2	3ヶ月
板橋病院	小児外科	小児外科	4	専門的診療能力の修得	2	3ヶ月
板橋病院	呼吸器外科	呼吸器外科	4	専門的診療能力の修得	2	3ヶ月
板橋病院	救命科	救命科	4	専門的診療能力の修得	2	3ヶ月
板橋病院	麻酔科	麻酔科	4	専門的診療能力の修得	2	3ヶ月
武蔵野総合病院	外科	外科	2	一般外科医・救急疾患患者を中心に診療を行う	2	1年間
				受入人数	2	

(3) コースの実績

1. 各外科入院病床数：約 20 床～30 床
2. 各外科指導医および専門医数：4 名～6 名
外来患者数：約 100 名～200 名/週
3. 外科手術実績（最近 5 年間）
 - i) 消化器外科：約 600 例
 - ii) 小児外科：約 380 例
 - iii) 乳腺外科：約 200 例
 - iv) 心臓・血管外科：約 300 例
 - vi) 呼吸器外科：約 250 例

(4) コースの指導状況

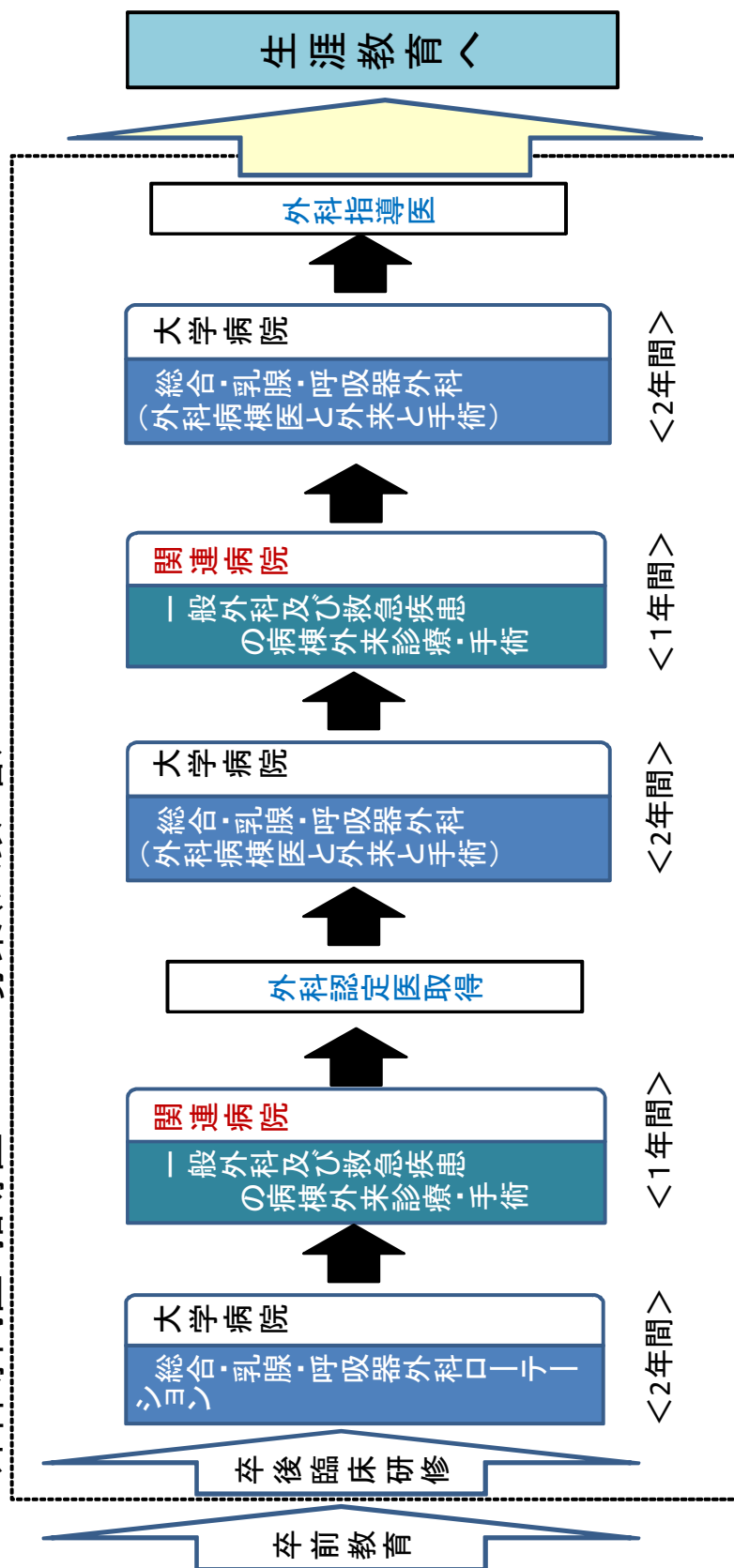
日本大学医学部附属板橋病院においては、外科指導医 2 名～4 名および専門医 2 名～6 名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長・科長による週一回の回診ならびに週 2 回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院である武蔵野総合病院には、指導医・専門医が週 2 回出張診療を行い、外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	呼吸器外科専門医・指導医
資格要件	専門医 (1) 申請時において、継続5年以上日本外科学会の会員であること。 (2) 筆頭者として、適当と認められた学術集会または学術刊行物に、研究発表または論文発表をしていること (3) 最低手術件数350例で術者として120例でかつ以下の手術に参加していること（消化器50例、乳腺10例、呼吸器10例、心臓・大血管10例、末梢血管10例、頭頸部・体表10例、小児外科10、各臓器の外傷10、鏡視下手術10例） 指導医 (1) 申請時において、継続10年以上日本外科学会の会員であること。 (2) 外科専門医を所有していること (3) 日本外科学会定期学術集会に、5回以上の出席 (4) 査読制度のある論文の筆頭論文5篇以上
学会の連携等の概要	外科専門医・指導医においてはある程度の学会入会年数が必要なため初期臨床研修医時早期に入会することが望ましい。

専門研修による医師キャリア形成システム

外科専門医・指導医コース 募集(人数2名)



24 消化器外科専門医コース

(1) コースの全体像

初期臨床研修終了後、外科専門医取得(卒後5年)までを第一期、消化器外科専門医取得(卒後8年)までを第二期とする。

第一期では外科医として必要な知識や手技を幅広く学びます。大学病院・関連病院(板橋医師会病院)では外科専門医受験に必須である消化器・心臓・血管・乳腺・呼吸器・小児の各外科をローテーションして様々な症例を経験します。卒後4年で外科専門医予備試験(筆記)、5年で認定試験(面接)の受験資格を獲得します。

第二期では、消化器外科の中でも専門的知識を習得するために臓器別の研究班に属し、より高度な知識、技術を研鑽します。さらに獨協医科大学第2外科(消化器・移植外科)に国内留学し幅広い高度医療を学習します。日本大学附属病院では臨床研究について学習し、スタンダードな医療の礎となる「evidence」を生産できるよう指導します。また、病棟班長を経験し多くの手術を術者として経験します。

(2) コースの概要

コース名：消化器外科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	消化器外科	消化器外科	6	消化管外科・肝胆膵外科・移植外科に必要な診断・治療能力の修得	2	1.5年
日本大学医学部附属板橋病院	心臓血管外科	心臓血管外科	2	外科専門医取得に必要な心臓血管外科症例の経験	1	2か月
日本大学医学部附属板橋病院	総合・乳腺内分泌・呼吸器外科	乳腺外科・呼吸器外科	2	外科専門医取得に必要な乳腺外科・内分泌外科・呼吸器外科症例の経験	1	2か月
日本大学医学部附属板橋病院	小児外科	小児外科	2	外科専門医取得に必要な小児外科症例の経験	1	2か月
板橋区医師会病院	外科	外科	1	一般外科・消化器外科・乳腺外科症例の経験	1	1年
独協医科大学病院	第二外科	消化器外科・移植外科	2	消化器外科・移植外科に関する専門医療の学習	1	6か月
日本大学医学部附属板橋病院	消化器外科	消化器外科	4	消化管外科・肝胆膵外科・移植外科の手	2	2.5年

橋病院				術手技の研修、病棟 班長の経験		
				受入人数	2	

(3) コースの実績

1. 消化器外科入院病床数：約 90 床、入院患者数：約 160 人/月
2. 消化器外科専門外来担当指導医数：6 名、同専門医数：15 名
消化器外科外来患者数：約 1800 人/月
3. 手術症例数（2006 年）
日本大学医学部附属板橋病院： 632 件/年

(4) コースの指導状況

板橋病院においては、外科指導医 6 名・専門医 15 名および消化器外科指導医 4 名・専門医 11 名で病棟、外来における専門的診療指導を実施。診療部長による週一回の病棟回診、週 3 回の入院患者検討会を開催。消化器内科と合同症例検討会を隔週、消化器内科・放射線科・病理との合同検討会を 3 か月ごとに開催。板橋区医師会病院、独協医科大学とは消化器症例について学術的交流を行っている。

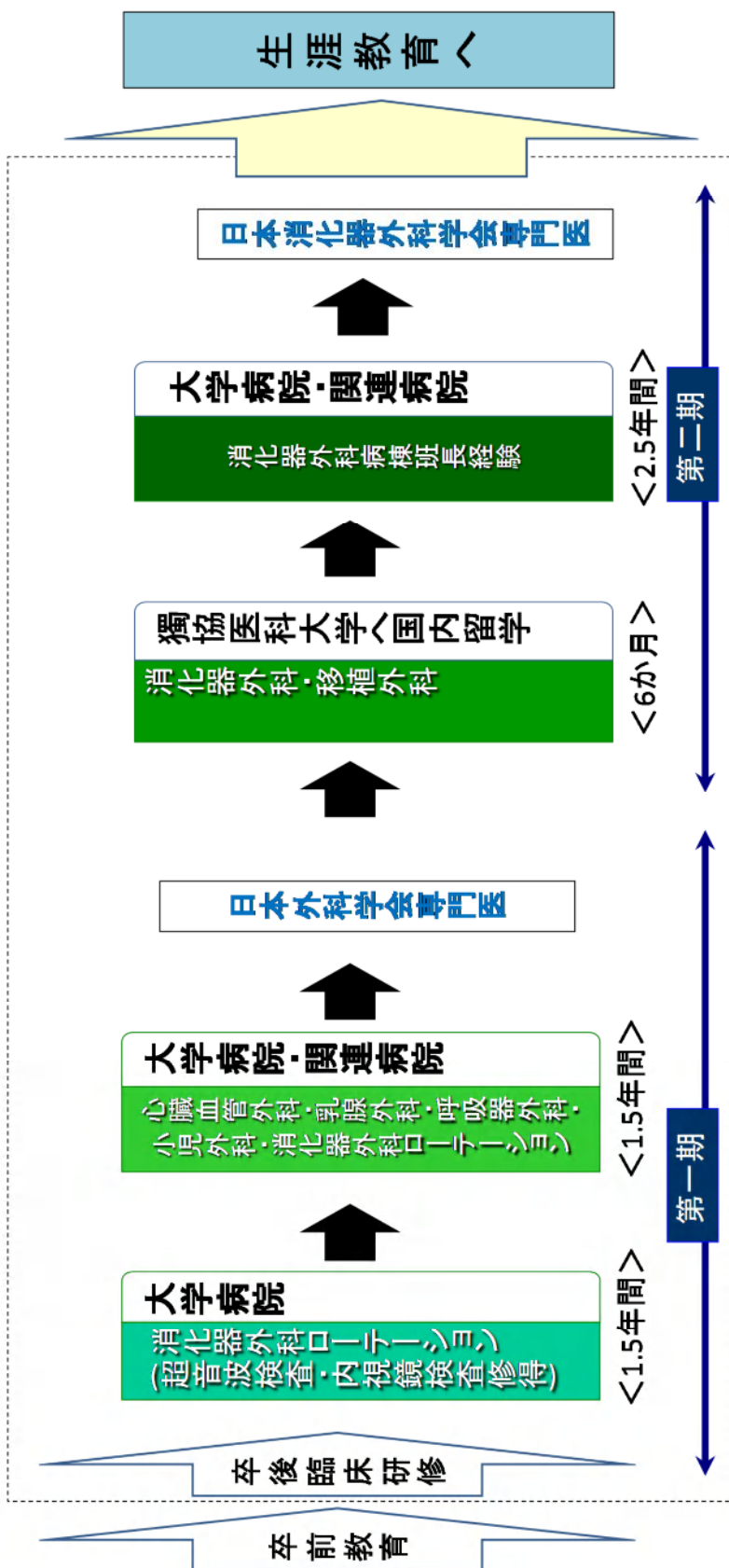
(5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none">1) 修練開始登録後満4年以上経た段階で予備試験（筆記試験）が受験できる。2) 予備試験に合格後、修練開始後満5年以上経て、下記修練を全て経験した段階で認定試験（面接試験）を受験できる。3) 修練実績 以下の手術を行っていること。<ol style="list-style-type: none">a) 最低手術件数 350例b) 術者として 120例c) 消化管及び腹部内臓 50例d) 鏡視下手術 10例e) 乳腺 10例f) 呼吸器 10例g) 心臓・大血管 10例h) 末梢血管 10例i) 頭頸部・体表・内分泌外科 10例j) 小児外科 10例k) 各臓器の外傷 10例4) 業績 筆頭者として、研究発表または論文発表。
学会の連携等の概要 外科専門医は外科系学会の基幹学会であり、消化器外科専門医取得の際に外科専門医であることが必須条件となる。	

学会等名	日本消化器外科学会
資格名	消化器外科専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1) 外科専門医であること。 2) 継続3年以上日本消化器外科学会会員であること。 3) 臨床研修終了後、指定修練施設において所定の修練カリキュラムに従い、通算5年間以上の修練を行っていること。 4) 主要手術の術者としての規定例数を含む450例以上の経験を必要とする。 5) 消化器外科に関する筆頭者としての研究発表を6件以上（論文3編を含む）必要とする。 6) 本会総会に1回以上及び本会教育集会の全6領域に出席が必要。
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

消化器外科専門医コース 募集(人数2名)



25 形成外科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本形成外科学会専門医の取得を目標とする。

初期臨床研修終了後、2年間は大学病院ならびに関連病院にて形成外科医としての基本的知識、技術の習得に努める。基本的知識、手技として、①形成外科の基本手術手技（切開法、縫合法、植皮術）を修得する。②手術創およびその他の創面の局所管理法を習得する。③救命科と共同での重症熱傷や四肢外傷患者の診療を通して全身管理の基礎と救急医療に対する知識と技能を学ぶ。④マイクロサージャリー（微小血管吻合・神経縫合）の基本手技の習得をおこなう。段階に応じて指導医の下に執刀医となる。その後の2年間は、関連病院に於いて、手術研修（段階に応じて指導医の下に執刀医となる）を主体とした臨床修練を実施し、形成外科の専門的知識と技術の獲得に努める。スタッフの指導のもとに外来を担当し臨床経験を積む。当直においても責任者となる。残りの1年間は、大学病院において、チーフレジデントとして病棟のマネジメントを経験する。研修期間には、形成外科臨床に関する学会発表と筆頭論文発表を少なくとも1編行い、日本形成外科学会専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：形成外科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	形成外科	形成外科 再建外科	5	形成外科専門的診療能力の習得	4	2～3年間
川口市立医療センター	形成外科	形成外科	1	形成外科医としての基本的技術の習得と頻度の多い形成外科疾患の診療	1	1年間
東京都立広尾病院	形成外科	形成外科	2	形成外科医としての基本的技術の習得と頻度の多い形成外科疾患の診療	1	1年間
独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	形成外科	形成外科	2	形成外科医としての基本的技術の習得と頻度の多い形成外科疾患の診療	1	1年間
				受入人数	2	

(3) コースの実績

1. 形成外科入院病床数：約10床

2. 形成外科外来担当指導医および専門医数：5名

初診外来患者数：約1,300名/年

3. 形成外科手術実績

年間手術件数：約450件（入院手術：約200件、外来手術：約250件）

マイクロサージャリーを応用した遊離組織移植術：年間30～40件

（4）コースの指導状況

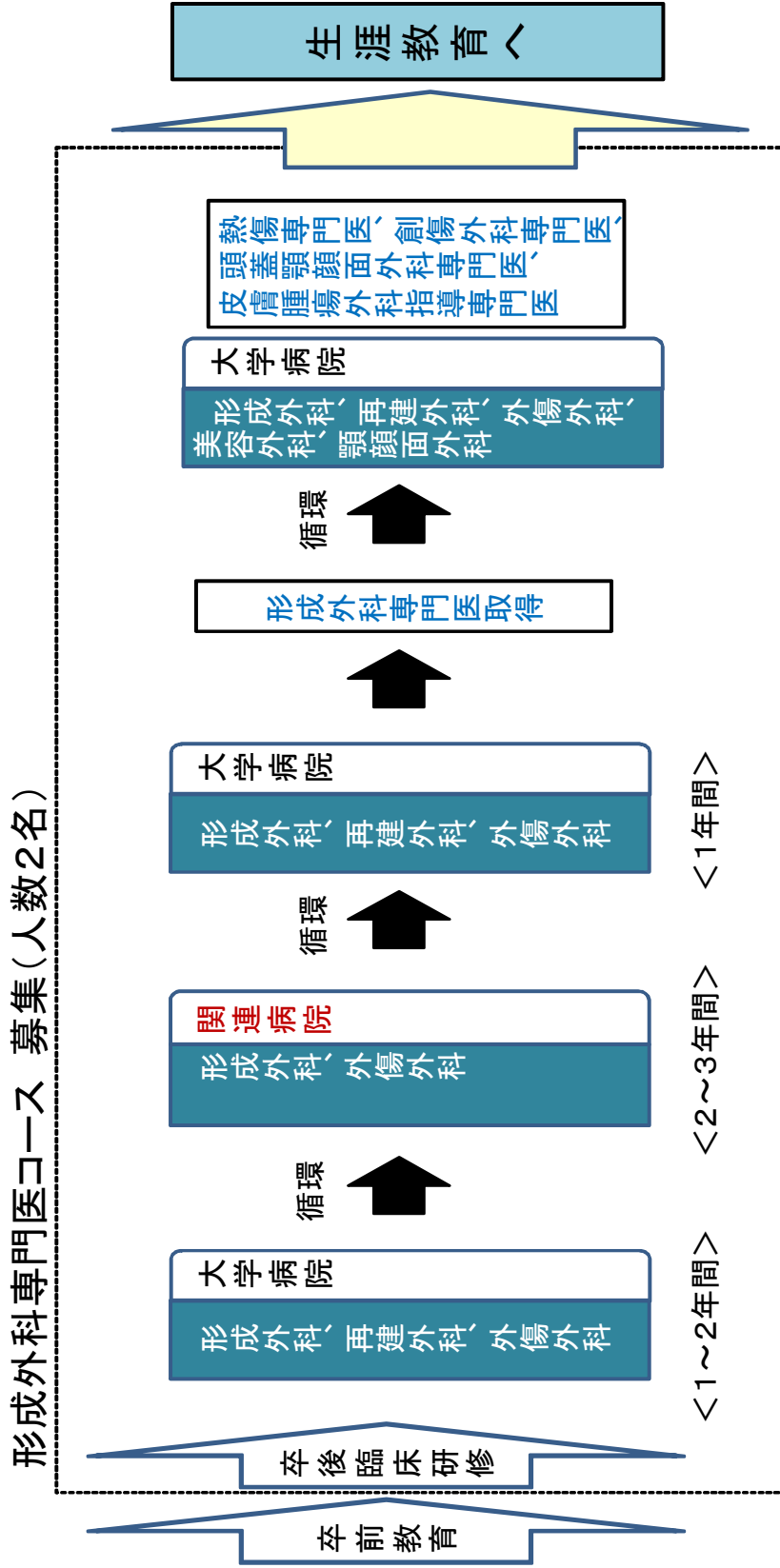
日本大学医学部附属板橋病院においては、形成外科専門医5名で外来、病棟ならびに手術における専門的診療指導を行っている。診療部長による週一回の回診ならびに週一回手術症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院である川口市立医療センター、東京都立広尾病院、災害医療センターには、形成外科専門医が常勤しており、外来診療および手術治療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

（5）専門医の取得等

学会等名	日本形成外科学会
資格名	日本形成外科学会専門医
資格要件	<p>1) 6年以上日本国医師免許証を有するもの</p> <p>2) 臨床研修2年の後、資格を有する研修施設において通算4年以上の形成外科研修を行うこと。4年以上ひきつづいて日本形成外科学会正会員であること。</p> <p>3) 以下に定める研修を終了したもの</p> <p>1. 研修期間 形成外科研修は4年以上とする。但し義務化された臨床研修期間中の形成外科研修は含まない。</p> <p>2. 研修施設 形成外科研修については、学会が認定した研修施設、あるいはこれと同等以上と認めた国外の施設とする。その他の臨床研修については、厚生労働省の定める臨床研修指定病院、またはこれに準ずる病院とする。</p> <p>3. 以下に定める研修記録を有するもの</p> <p>(1) 申請者の受け持った患者で直接手術に関与した60症例の症例一覧表</p> <p>(2) 申請者が術者として手術を行った10症例についての所定の病歴要約</p> <p>(3) 10症例、60症例は、認定施設あるいは教育関連施設で行った症例に限る。</p> <p>(4) 10症例、60症例にはそれぞれ以下の11項目中8項目以上を含まねばならない。</p> <p>①新鮮熱傷（全身管理を要する非手術例を含む）</p> <p>②顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ③唇裂・口蓋裂 ④手，足の先天異常，外傷 ⑤その他の先天異常 ⑥母斑，血管腫，良性腫瘍 ⑦悪性腫瘍およびそれに関連する再建 ⑧瘢痕，瘢痕拘縮，ケロイド ⑨褥瘡，難治性潰瘍 ⑩美容外科 ⑪その他 <p>4) 日本形成外科学会主催の講習会（学術研修会あるいはインストラクショナル・コース）受講証明書を4枚以上有すること。</p> <p>5) 形成外科に関する論文を単独または筆頭著者として1編以上有すること。</p>
<p>学会の連携等の概要</p>	

専門研修による医師キャリア形成システム



26 脳神経外科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本脳神経外科学会専門医の取得を目標とする。

初期臨床研修医終了後、脳神経外科医として4年間主に大学病院の病棟及び外来医を担当する。大学病院では、血管疾患、脳腫瘍、外傷、脊髄疾患及び機能外科疾患等幅広く様々な疾患を経験し診療に従事する。この間専門医による直接的指導に加え、週2回の部長回診及び症例検討会などを通じて、手術手技はもちろんのこと、予防、診断、周術期を含めた全身管理、リハビリテーション、救急医療など専門分野にとらわれない患者を中心に捉えた脳神経疾患領域における総合診療の基本を学ぶ。また、4年間のうち6ヶ月間は、関連病院において先天奇形や小児脳腫瘍など小児特有の神経疾患患者の診療に携わる。本コース期間中に、脳神経外科疾患に関する学会及び論文発表を適宜行う。また専門医の取得以外に、研究面においては初期臨床研修医終了後、各研究グループの指導者のもとで研究を行い、本コースが終了する4年後の学位取得を目指す。

(2) コースの概要

コース名：脳神経外科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	脳神経外科	脳神経外科学	15	脳神経外科疾患の一般的な診療能力の習得	4	3.5年間
埼玉県立小児医療センター	脳神経外科	小児脳神経外科	3	小児脳神経疾患の診療能力の習得	1	6ヶ月
				受入人数	4	

(3) コースの実績

1. 脳神経外科入院病床数：約50床
2. 脳神経外科外来担当専門医数：7名
外来患者数：約400名/週
3. 脳神経外科手術実績（2010年）
脳腫瘍：131例、血管疾患：182例、外傷：119例
機能外科：114例、脊髄疾患：117例、その他：97例

(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院では、脳神経外科専門医15名で外来及び病棟における専門的診療指導をおこなっている。診療部長による週2回の回診および症例検討会を行い専門医習得に必要な教育ならびに指導をおこなっている。関連病院である埼玉県立小児医療セ

ンターでは、専門医3名が小児神経疾患を対象とした臨床的指導・教育を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本脳神経外科学会
資格名	脳神経外科学会 専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経外科を専攻するもの 2. 学会認定の専門医のもとで卒後臨床研修2年を含めて6年以上所定の訓練を経ている 3. 訓練場所は日本脳神経外科学会専門医認定委員会の指定する場所 4. 訓練内容は脳神経外科と関連学科 関連学科とは神経内科学、神経放射線学、神経病理学、神経生理学、神経生化学、神経薬理学、一般外科学、麻酔科学等2項に示す訓練中に3年以上は脳神経外科の臨床に従事している 5. 直接手術に関与した症例は100例以上 6. 4年以上日本脳神経外科学会の正会員である
学会の連携等の概要	

学会等名	日本脳卒中学会
資格名	日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本脳神経外科学会専門医を有する 2. 日本脳卒中学会に3年度以上在籍している 3. 日本脳卒中学会認定研修教育病院で、通算3年以上の研修歴があり、現在脳卒中診療に従事していること。 4. 日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会もしくはこれらと同時開催されるスパズムシンポジウムで、1回以上筆頭演者として発表ないし講演していること 5. 本学会機関誌「脳卒中」あるいは日米合同誌「Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases」に1編以上（共著でも可）、または日本脳卒中学会誌以外の学術雑誌に脳卒中に関する原著論文もしくは症例報告等が2編以上（共著でも可）掲載されていること。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本脳神経血管内治療学会
資格名	日本脳神経血管内治療学会専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本脳神経外科学会専門医として5年以上基礎訓練を受けている 2. 日本脳神経血管内治療学会に4年度以上在籍している 3. 脳脊髄血管撮影を300例以上 4. 直接手術に関与した症例は100例以上（うち20例は術者）
学会の連携等の概要	

学会等名	日本脊髄外科学会
資格名	日本脊髄外科学会認定医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本脳神経外科学会専門医であること 2. 日本脊髄外科学会に4年以上在籍していること 3. 認定訓練施設で1年以上の研修経験があること 4. 脊髄外科指導医のもと、認定訓練施設病院の常勤医として過去に総計100件以上 5. 脊髄外科学会あるいは主要学会への発表や脊椎脊髄疾患に関する論文を掲載している
学会の連携等の概要	

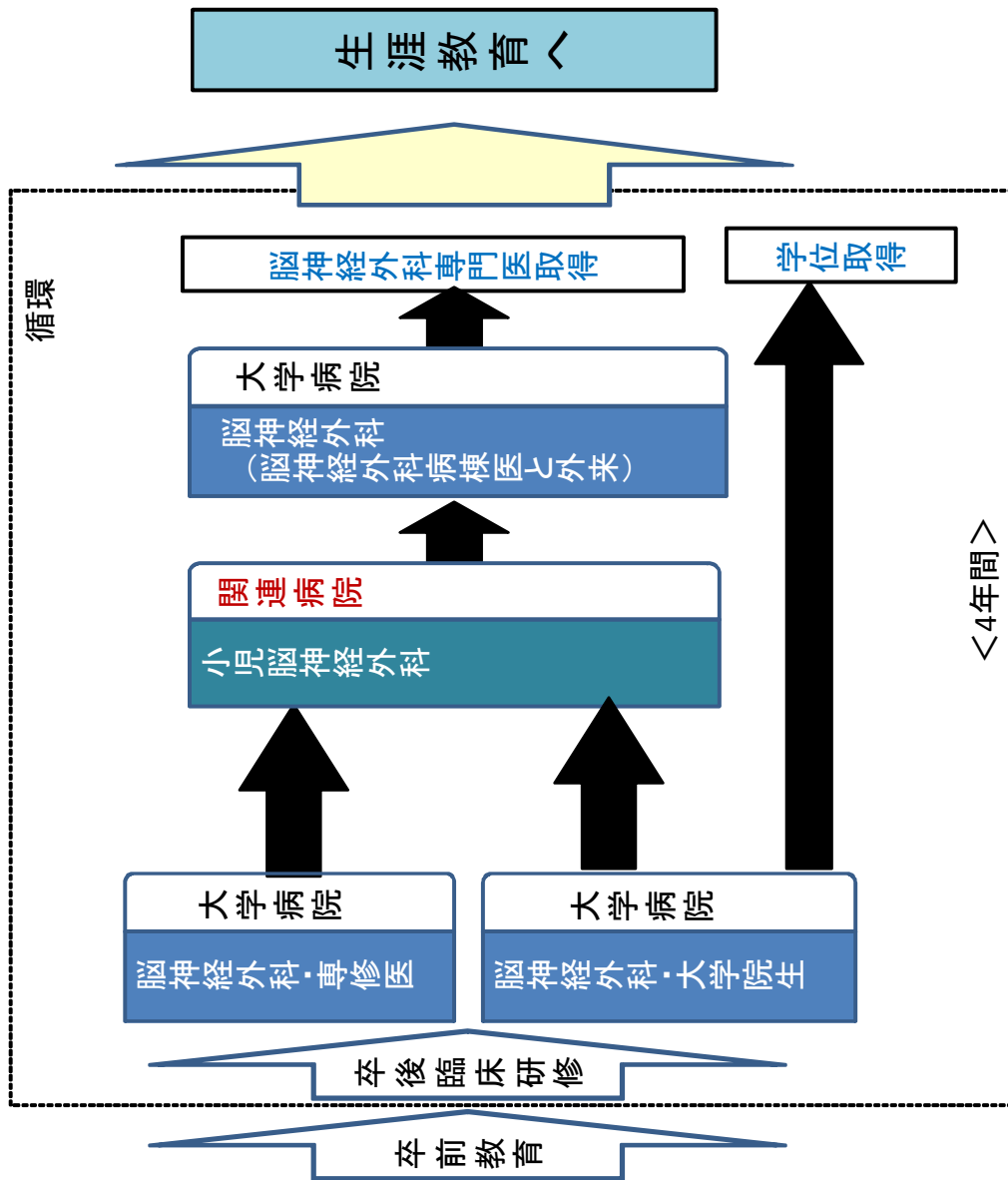
学会等名	日本頭痛学会
資格名	日本頭痛学会専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭痛関連学会（日本脳神経外科学会が該当する）の専門医であること 2. 日本頭痛学会に3年以上在籍していること 3. 頭痛関連学会での専門医認定研修期間中に2年以上の頭痛診療の研修を受けており、さらに、日本頭痛学会認定研修教育施設（別に定める）で3年以上の研修歴があり、この2種類の研修で通算5年以上の研修を必要とする 4. 頭痛に関連する学会で、頭痛関連疾患に関する発表ないし講演をしていること 5. 日本頭痛学会誌、または本学会誌以外の学術雑誌に頭痛関連疾患に関する原著論文もしくは症例報告等を発表していること
学会の連携等の概要	

学会等名	日本定位・機能神経外科学会
資格名	日本定位・機能神経外科学会技術認定医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経外科専門医である 2. 日本定位・機能神経外科学会会員である 3. 認定施設にて5症例以上の手術を経験している
学会の連携等の概要	

学会等名	日本臨床神経生理学会
資格名	日本臨床神経生理学会認定医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本臨床神経生理学会に3年間以上在籍している 2. 脳波あるいは筋電図・神経伝導の臨床的検査・所見診断に3年間以上従事した経験を有する 3. 学会主催の学術集会，技術講習会および関連講習会への参加が，3年以内に2回以上あること。ただし，少なくとも1回は本学会主催の学術集会あるいは講習会であること 4. 認定研修施設における1年以上の研修歴を有すること。
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

脳神経外科専門医コース 募集(人数4名)



日本大学医学部附属病院

27 整形外科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本整形外科学会整形外科専門医の取得を目標とする。コースは、初期臨床研修終了後の4年間のプログラムからなり、医学部附属病院と日本整形外科学会認定病院である関連病院にて整形外科専門医に必要な基本知識、技術、態度の修得を目的とした研修を行う。原則として医学部附属病院勤務2年間、関連病院勤務2年間の計4年間で6ヵ月～1年のローテーションにて行う。最初の3年間は整形外科専門医取得目的で、特定分野に限られることなく、オールラウンドに最先端、最良の整形外科研修を最優先とする。以後4年目より、脊椎班、関節班、腫瘍班、スポーツ班、手外科班の各研究班のいずれかに所属し、学位取得目的の研究に着手する。大学院も整形外科専門医取得コースがあり、在学しながらの研修も可。整形外科専門医取得後も希望によりさらなる高度の整形外科専門医療の研修・研究のコース継続をはかれる。

(2) コースの概要

コース名：整形外科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 関節外科 腫瘍外科 スポーツ整形 手の外科	13	整形外科一般と各専門分野研修 研究、学位取得	8	2年間
駿河台日本大学病院	整形外科	整形外科一般 手の外科 スポーツ外科 関節外科 脊椎外科	11	整形外科一般と各専門分野研修 研究、学位取得	6	2年間
日本大学医学部附属練馬光が丘病院	整形外科	整形外科一般 腫瘍外科 脊椎外科 関節外科	7	整形外科一般と各専門分野研修 研究、学位取得	4	2年間
春日部市立病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科	2	整形外科一般と地域医療研修	2	1年間
川口市立医療センター	整形外科	整形外科一般 関節外科 脊椎外科 3次救急医療	5	整形外科一般と地域医療研修 3次救急医療研修	2	1年間
埼玉県立小児医療センター	整形外科	小児整形外科	2	小児整形外科研修	2	1年間

東松山市立市民病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科	1	整形外科一般と地域 医療研修	2	1年間
国立病院東京 災害医療センター	整形外科	整形外科一般 救急医療 災害外科	3	整形外科一般と地域 医療研修 災害医療研修	3	1年間
公立阿伎留病院	整形外科	整形外科一般 関節外科	2	整形外科一般と地域 医療研修	2	1年間
社会保険横浜 中央病院	整形外科	整形外科一般 救急医療 脊椎外科	3	整形外科一般と地域 医療研修	3	1年間
板橋区医師会 病院	整形外科	整形外科一般 関節外科	2	整形外科一般と地域 医療研修	1	1年間
はぎわら病院	整形外科	整形外科一般 救急医療	2	整形外科一般と地域 医療研修	1	1年間
小石川東京病 院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科	1	整形外科一般と地域 医療研修	1	1年間
本庄総合病院	整形外科	整形外科一般 スポーツ整形	1	整形外科一般と地域 医療研修	1	1年間
東京病院	整形外科	整形外科一般 関節外科	2	整形外科一般と地域 医療研修	1	1年間
苑田第3病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科	3	整形外科一般と地域 医療研修	1	6カ月
				受入人数	15	

(3) コースの実績

年間手術件数とその内容は病院により異なるが、年間100件～900件であり、経験手術数は配慮して4年間にほぼ同様数になるように出向病院を配慮してきた。日本整形外科学会専門医は教室の医学部卒業後7年以降はほぼ全員が取得してきた。2006年度6名、2007年度6名、2008年度9名、2009年度7名が新たに専門医を取得した。さらに彼らはこの3年間にスポーツ認定医、リウマチ認定医、脊椎脊髄病認定医、運動器リハビリテーション医を1～2種類取得した。

(4) コースの指導状況

各病院指導医の基で整形外科専門医に必要な基本知識、技術、態度の修得をはかってきた。さらに各病院指導医の基で学会、研究会にて研究発表と論文作成を行っている。年4回、大学病院勤務の役職者15名からなる教育委員会でプログラムの実施状況報告と評価を行い、必要な計画と修正を行ってきた。また、年2回の運営委員会にて関連病院指導医により出向研修医の研修状況の確認を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本整形外科学会
資格名	日本整形外科学会専門医
資格要件	1) 4年間の認定施設での整形外科研修歴とその内容を証明する資格（10症例のレポート、学術論文筆頭1編以上、その他）と定められた教育研修講演受講により専門医試験受験の申請ができる。 2) 日本整形外科学会が施行する専門医試験（筆答、口答）に合格すること
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本整形外科学会が資格認定、資格継続目的の教育研修会、学会参加単位を一括して管理している。また、教育目的の教科書発行、学術集会開催も行っている。</p>	

学会等名	日本リハビリテーション医学会
資格名	日本リハビリテーション医学会専門医（日本リハビリテーション医学会臨床認定医、日本リハビリテーション医学会専門医の2種類あり）
資格要件	前者は医師免許取得4年以上、日本リハビリテーション医学会加入後4年以上、後者は医師免許取得5年以上、日本リハビリテーション医学会加入後5年以上でかつ日本リハビリテーション医学会臨床認定医を有することが必要。各々必要な研修は認定施設研修が前者は1年以上、後者は3年以上（なお日本大学医学部附属板橋病院は認定施設）である。申請に必要な学会発表は前者が筆頭1回以上の発表または筆頭1編以上の論文、後者が筆頭2回以上の発表とさらに筆頭1編以上の論文である。申請に必要な臨床経験は各々リハビリ担当50例、100例である。いずれも申請資格者に対して定められた認定試験がある。
<p>学会の連携等の概要（100字以内）</p> <p>日本リハビリテーション医学会が資格認定、資格継続目的の教育研修会、学会参加単位を一括して管理している。また、教育目的の教科書発行、学術集会開催も行っている。</p>	

学会等名	日本リウマチ学会
資格名	日本リウマチ学会専門医
資格要件	日本リウマチ学会専門医は、筆記試験とリウマチに関する論文公表が必要。
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本リウマチ学会が資格認定、資格継続目的の教育研修会、学会参加単位を一括して管理している。また、教育目的の教科書発行、学術集会開催も行っている。</p>	

学会等名	日本整形外科学会
資格名	日本整形外科学会認定スポーツ医
資格要件	日本整形外科学会専門医取得が必要条件で、日整会が主催するスポーツ医研修会に出席し所定の受講単位を修得し、かつ過去5年間にスポーツ医学に関する論文3篇以上を有する日整会専門医に対し、書類審査で決定される。
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本整形外科学会が資格認定、資格継続目的の教育研修会、学会参加単位を一括して管理している。また、教育目的の教科書発行、学術集会開催も行っている。</p>	

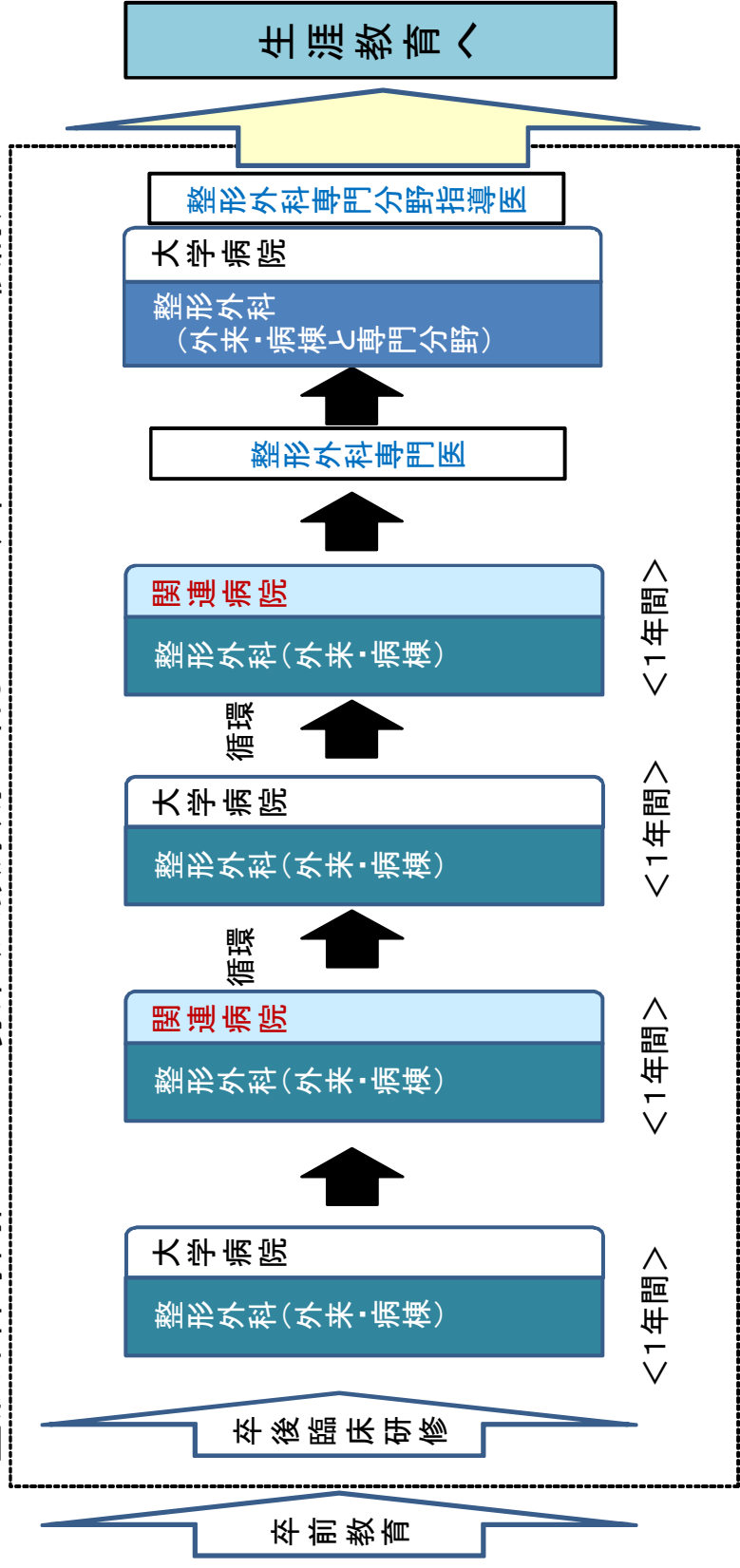
学会等名	日本整形外科学会
資格名	日本整形外科学会認定リウマチ医
資格要件	日本整形外科学会専門医取得が必要条件で、日整会が主催するリウマチ医研修会に出席し所定の受講単位を修得し、かつ論文審査、書類審査で決定される。
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本整形外科学会が資格認定、資格継続目的の教育研修会、学会参加単位を一括して管理している。また、教育目的の教科書発行、学術集会開催も行っている。</p>	

学会等名	日本整形外科学会
資格名	日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
資格要件	日本整形外科学会専門医取得が必要条件で、日整会が主催する脊椎脊髄病医研修会に出席し所定の受講単位を修得し、かつ論文審査、書類審査で決定される。
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本整形外科学会が資格認定、資格継続目的の教育研修会、学会参加単位を一括して管理している。また、教育目的の教科書発行、学術集会開催も行っている。</p>	

学会等名	日本整形外科学会
資格名	日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
資格要件	日本整形外科学会専門医取得が必要条件で、日整会が主催する運動器リハビリテーション研修会の完全受講および終了（試験合格）を要する。
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本整形外科学会が資格認定、資格継続目的の教育研修会、学会参加単位を一括して管理している。また、教育目的の教科書発行、学術集会開催も行っている。</p>	

専門研修による医師キャリア形成システム

整形外科専門医コース 募集(人数原則15名までだが、希望に応じて検討)



28 産婦人科専門医コース

(1) コースの全体像

産婦人科研修コースは、日本産科婦人科学会認定の産婦人科専門医を取得するのを目標としています。初期臨床研修終了後、3年間で産婦人科研修を行います。板橋病院は産科病棟と婦人科病棟が分かれているため病棟勤務では一定の期間どちらかに集中して研修することになりますが、午後5時以降の当直時間帯では産科と婦人科を合わせて3人で夜勤を行います。なお、産科病棟に総合周産期センターが併設され、地域の母体搬送を引き受け、婦人科病棟では婦人科救急のほかに悪性腫瘍に対して地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たしています。また、平成21年3月から東京都母体救命搬送システム(通称:スーパー周産期センター)が開始し、都内3施設の一施設として、救命センター、脳外科と緊密な連携を構築維持しています。産科、婦人科を3ヶ月~1年で研修することを繰り返し、勤務が変わるごとに受け持つ疾患や経験する手術内容がステップアップしていき、専門医試験受験資格に必要な症例数を経験します。

(2) コースの概要

コース名：産婦人科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	産婦人科	産婦人科	13	産婦人科疾患の診断と治療能力の取得	6人(毎年)	3年間
				受入人数	6	

(3) コースの実績

- 1 婦人科病棟 35床、産科病棟 45床、総合周産期センターMFICU 10床
- 2 外来患者数 100~170人/日(新患 10~15人/日)
- 3 婦人科手術(流産・産科手術を除く) 530~550例
 良性腫瘍 子宮筋腫・卵巣腫瘍手術 250~300例
 腹腔鏡手術 30~70例
 悪性腫瘍(新規登録) 110~130例
 手術 90~100例 放射線 10~20例 化学療法 600コース
産科 分娩数 700~800例 帝王切開 300~380例 母体搬送 70~100件

(4) コースの指導状況

板橋病院産婦人科には、
日本産科婦人科学会認定 産婦人科専門医 10人
日本周産期・新生児学会認定 母体・胎児暫定指導医(代表) 1人、周産期専門医 1人

日本婦人科腫瘍学会認定 婦人科腫瘍専門医 2人
 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 3人
 日本がん治療認定医機構 がん治療暫定教育医 2人
 日本臨床腫瘍学会認定 暫定指導医 2人

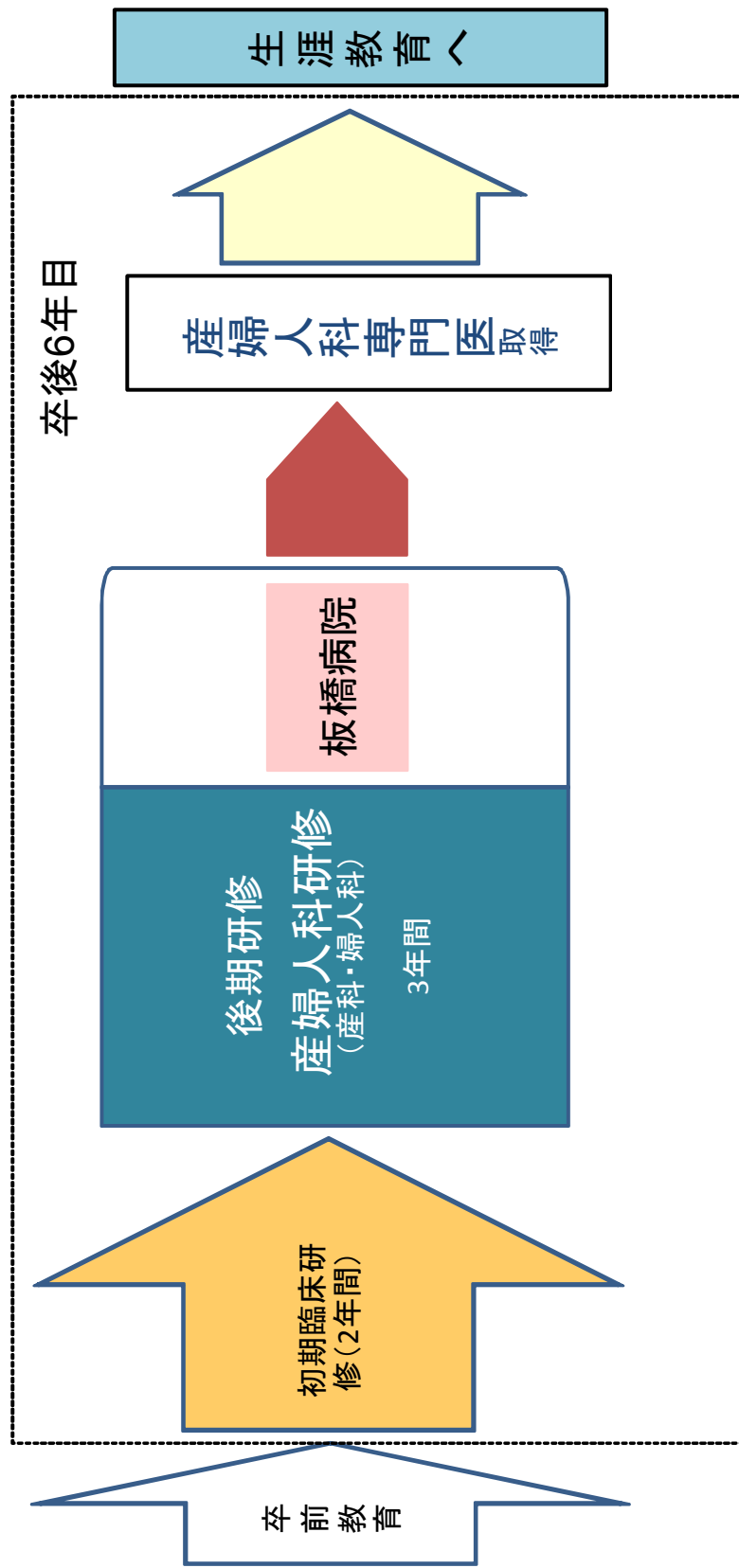
がおり、外来診療ならびに入院診療を行いつつ、後期研修医に指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本産科婦人科学会
資格名	日本産科婦人科学会認定 産婦人科専門医
資格要件	<p>3年以上（初期研修を含めて5年以上）の産婦人科専攻医研修期間内に以下の要件を満たすこと：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 6カ月以上の期間、大学病院もしくは産婦人科専門医が4名以上いる施設で研修すること。その期間は、周産期、婦人科腫瘍、生殖・内分泌、女性のヘルケアの4つの領域のうち、少なくとも周産期医療を含む2つ以上の領域を研修していること。 2) 日本産科婦人科学会（日産婦）総会・学術講演会に1回以上出席していること（30点シール1枚以上）。 3) 日産婦の10単位以上のシールが発行される学会・研究会で筆頭者として1回以上発表していること。 4) 筆頭著者として論文1編以上発表していること。
学会の連携等の概要	<p>後期研修医は平成27年に専門医試験を受けることになる。この場合、後期研修医として産婦人科研修を開始した卒後3年目から日本産科婦人科学会に入会しても、初期研修2年間で最初の2年間の研修に相当するとみなされる。したがって、学会に通算3年以上、後期研修の3年間で上記受験資格を満たすと解釈されている。</p>

専門研修による医師キャリア形成システム

産婦人科専門医コース 募集(人数毎年6名)



29 泌尿器科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本泌尿器科学会専門医の取得を目標とする。

4年間で日本泌尿器科学会専門医の取得を目指し、専門医取得に必要な研修を行う。最初の2年間は大学病院で泌尿器科の外来及び病棟を担当し、泌尿器科疾患に対する診断・治療の基本を学び、段階的に手術助手及び手刃医を経験し手術の技術習得を行う。さらに指導医による直接指導、週一回の部長回診および症例検討会等を通じて研鑽を積む。その後1年間は、関連病院に於いて、泌尿器科疾患患者を中心に診療を行いながら地域医療に貢献すると共に、数多くの手刃医を経験し手術の技術習得の向上を図る。残りの1年間は、大学病院において、泌尿器科疾患の診療を行いながら専門医取得の申請及び準備をする。この4年間の研修期間に、泌尿器科疾患臨床に関する学会発表を少なくとも3回および筆頭論文発表を少なくとも1編行う。

(2) コースの概要

コース名：泌尿器科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	泌尿器科	泌尿器科学	6	泌尿器科疾患の専門的診療能力の修得	2	3年間
関連病院 (川口、東京臨海、春日部など)	泌尿器科	泌尿器科学	4～6	一般泌尿器科医として基本的能力の修得と向上	2	1年間
				受入人数	2	

(3) コースの実績

1. 泌尿器科入院病床数：約40床
2. 泌尿器科外来担当指導医および専門医数：8名
外来患者数：約500名/週
3. 泌尿器科疾患手術実績（2009年：全手術件数406例）
 - ①腎癌：18例（うち腹腔鏡手術13例）
 - ②腎盂・尿管癌：7例（うち腹腔鏡手術4例）
 - ③膀胱癌：88例（全摘6例、TUR-Bt 82例）
 - ④前立腺癌：61例（全摘除術13例、密封小線源療法28例、三次元原体照射20例）
 - ⑤精巣癌：11例
 - ⑥女性泌尿器科疾患：77例（うちTVM58例）
 - ⑦副腎腫瘍：9例（うち腹腔鏡手術8例）
 - ⑧尿路結石：22例（ESWL6例、TUL16例）

- ⑨前立腺肥大症 : 20例 (TUEB 17例、TUR-P 3例)
 ⑩その他 : 93例

(4) コースの指導状況

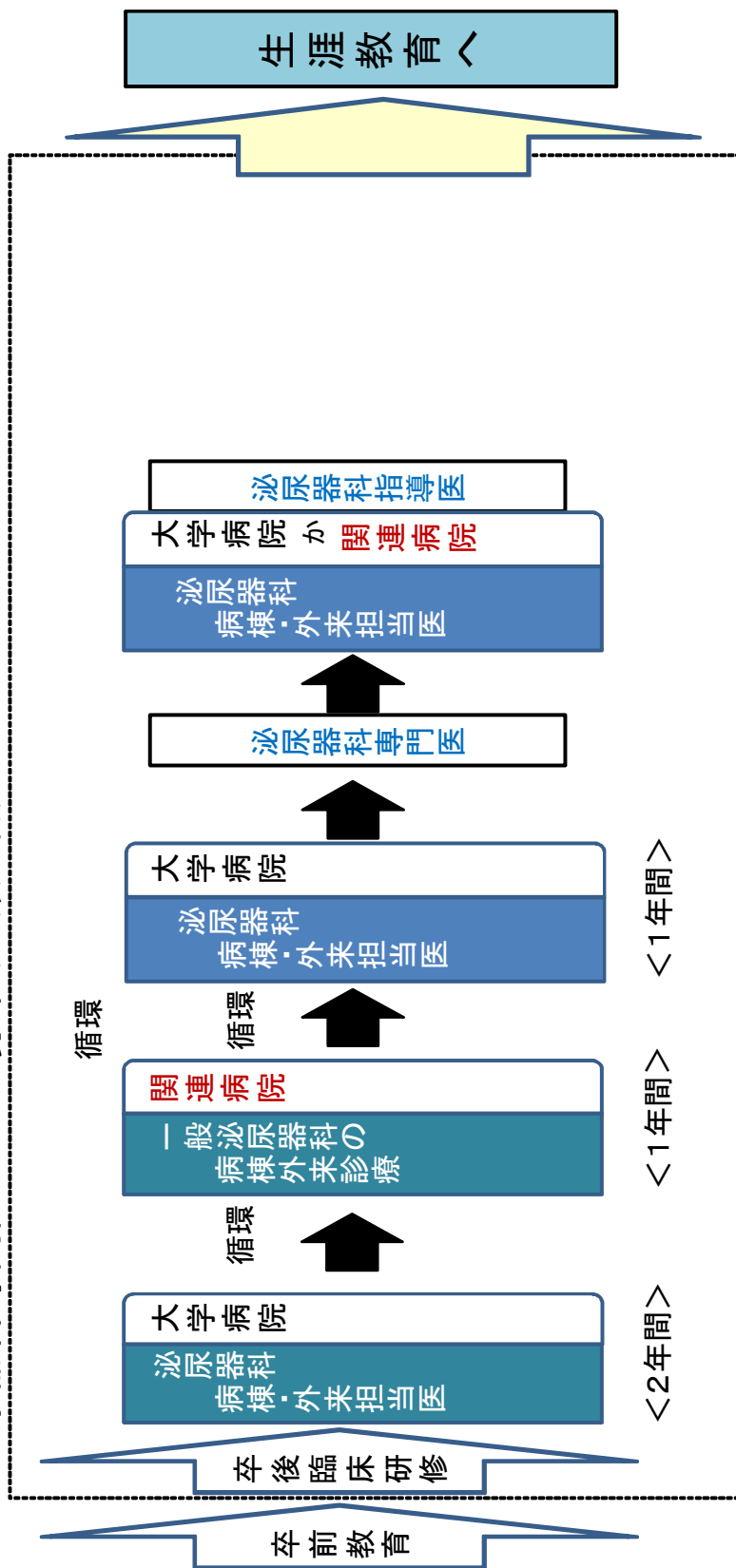
日本大学医学部附属板橋病院においては、泌尿器科指導医6名および専門医2名の計8名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長による週一回の回診ならびに週一回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連病院では、指導医4～6名、専門医1～2名で外来診療を行うとともに外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本泌尿器科学会
資格名	日本泌尿器科学会専門医
資格要件	<p>2. 専門医（初回）の認定基準について（細則第10条）</p> <p>◆研修開始宣言から申請までに研修単位100単位以上の取得が必要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学会参加、学術発表により100単位以上を取得すること。 2. 日本泌尿器科学会総会または東部・中部・西日本総会に1回以上出席すること。 3. 卒後・生涯教育プログラムを1コース以上受講すること。 4. 学会発表または論文発表（筆頭）が1編以上あること。 5. 海外留学中でも研修開始宣言後であれば研修単位を取得できる。 <p>◆専門医資格試験に合格していなくてはならない。（細則第11条）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 泌尿器科専門研修3年終了時の春、専門医資格試験申請資格が得られる。 2. 専門医資格試験申請時には学会会員であること²⁾。（規則第7条） <p>◆手術など経験した代表的症例をまとめた診療実績記録の提出、学会参加や</p> <p>卒後・生涯教育プログラム受講を証明した教育研修記録の提出 旧制度と同じ。（規則第9条、10条）</p> <p>詳細は日本泌尿器科学会ホームページ：専門医制度規則・施行細則を参照 (http://www.urol.or.jp/menu.html)</p>
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム

泌尿器科専門医コース 募集（人数2名）



30 眼科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、優れた技量と豊かな人間性を兼ね備えた眼科臨床医を育成すること、そして日本眼科学会が認定する眼科専門医認定試験の受験資格を取得することを目的とする。初期臨床研修医を終了後4年間で眼科専門医を取得する。初年度は本学附属3病院をすべてローテートし、外来・病棟において眼科診療に要求される基礎的な知識、技術、態度について臨床実務を通して研修する。また部長、科長回診および症例検討会などを通して、多彩な眼科疾患の診断プロセスの基本を学ぶ。次の1年半では関連病院において一般眼科勤務医として地域医療に貢献するとともに眼科の幅広い臨床を経験する。最後の1年半は大学附属の3病院いずれかにおいて高度な眼科医療に参画するとともに執刀医として多数の症例を経験する。またこの時期に学会報告を演者として2回、単独または筆頭論文発表を1編以上行い、日本眼科学会認定眼科専門医試験の受験資格を取得する。

(2) コースの概要

コース名：眼科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間(年)
日本大学医学部附属板橋病院	眼科	眼科	10	眼科疾患の基本的および専門的診療能力の修得	6	2.5
駿河台日本大学病院	眼科	眼科	7	眼科疾患の基本的および専門的診療能力の修得	5	2.5
日本大学医学部付属練馬光が丘病院	眼科	眼科	2	眼科疾患の基本的および専門的診療能力の修得	1	2.5
春日部市立病院	眼科	眼科	1	一般眼科勤務医として幅広い臨床技能の修得	1	1.5
東松山市立市民病院	眼科	眼科	1	一般眼科勤務医として幅広い臨床技能の修得	1	1.5
小川赤十字病院	眼科	眼科	1	一般眼科勤務医として幅広い臨床技能の修得	1	1.5
国立病院機構・災害医療センター	眼科	眼科	1	一般眼科勤務医として幅広い臨床技能の修得	1	1.5

明海大学歯学部附属病院	眼科	眼科	1	一般眼科勤務医として幅広い臨床技能の修得	1	1
自治医科大学附属病院	眼科	眼科	1	一般眼科勤務医として幅広い臨床技能の修得	1	1
				受入人数	10	

(3) コースの実績

1. 眼科入院病床数（板28、駿30、光12） カッコ内は各附属病院での数
2. 指導医数（板10、駿7、光2）
3. 外来患者数/週（板880、駿1012、光410）
4. 主な眼科疾患入院診療実績（昨年度）
 - a 白内障（板800、駿973、光418）
 - b 網膜硝子体（板428、駿875）
 - c 緑内障（板56、駿30、光6）
 - d 角膜（板34）
 - e その他
光線力学療法（駿974）、眼窩・涙道（光72）、その他（板47）

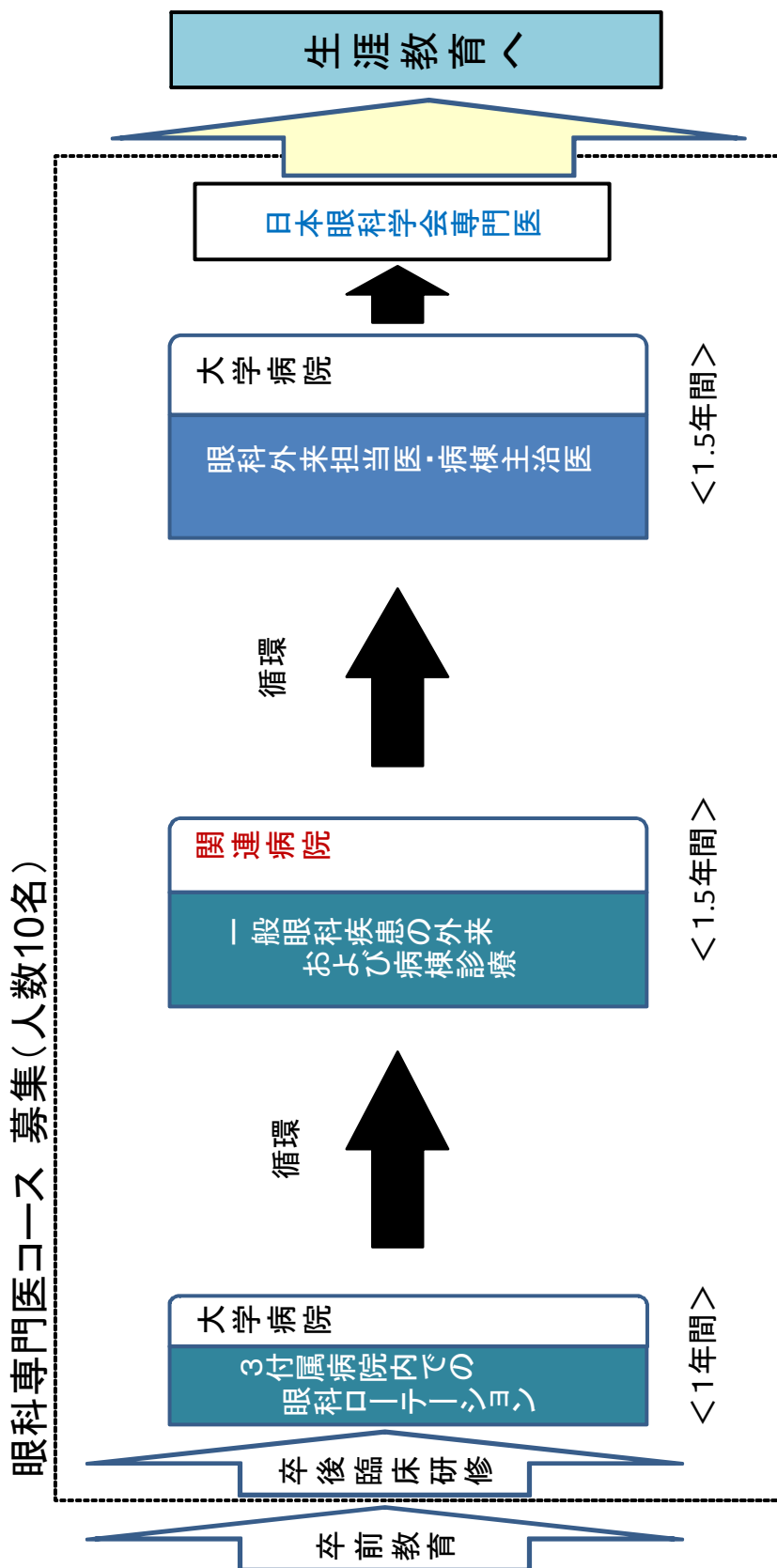
(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院、駿河台日本大学病院、付属練馬光が丘病院においてはそれぞれ指導医10名、7名、2名で病棟、外来にて専門的指導を行っている。診療部長、科長による週1回の回診、症例検討を週1回開催して臨床指導の充実を図っている。各関連病院においては部長、医長の指導のもとで外来、病棟診療を担当する。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本眼科学会
資格名	日本眼科学会専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1) 初期臨床研修終了後眼科研修病院にて4年以上規定の眼科臨床を研修した者。 2) 4年以上日本眼科学会会員であり、受験時に日本眼科医会会員であること。 3) 単独または筆頭著者としての論文が1篇以上あること。 4) 単独または筆頭演者としての学会報告が2報以上あること。 5) 眼科手術については、執刀者、助手を合わせて総数100例以上、そのうち、外眼手術、内眼手術、およびレーザー手術が、執刀者としてそれぞれ20例以上あること。
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム



3 1 耳鼻咽喉科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本耳鼻咽喉科学会専門医の取得を目標とする。初期臨床研修終了後、2年間は板橋病院、駿河台病院、練馬光が丘病院のローテーションを行い、耳鼻咽喉科診療の基礎を習得するとともに、耳鼻咽喉科の専門分野、すなわち耳科学、鼻科学、喉頭科学、頭頸部外科学、気管食道科学における高度医療の補助および研究について携わる。この期間には、各週一回の部長回診、頭頸部腫瘍回診、症例検討会と専門外来の助手として、耳鼻咽喉科の入院および外来診療の基礎を学ぶ。その後の3年間は日本大学附属3病院を中心に1年ずつのローテーションをおこない、その病院の特徴に応じた診療実績を積む。専門医試験を控えた5年目には板橋病院主催の専門医受験者を対象とした勉強会に1～2週に1回参加する。この間3～4回の学会発表を行い、1編以上の論文作成を行う。

(2) コースの概要

コース名：耳鼻咽喉科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	6	耳鼻咽喉科専門的診療能力の修得	4	2年間
駿河台日本大学病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	2	耳鼻咽喉科専門的診療能力の修得	2	1年間
日本大学医学部付属練馬光が丘病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1	耳鼻咽喉科一般の診療能力の習得 1次・2次救急疾患対応能力を修得	1	1年間
川口市立医療センター	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1	耳鼻咽喉科一般の診療能力の習得	1	1年間
				受入人数	4	

(3) コースの実績

1. 耳鼻咽喉科入院病床数：約 40 床
2. 耳鼻咽喉科専門外来担当指導医および専門医数：10 名
外来患者数：約 600 名/週
3. 耳鼻咽喉科疾患手術実績（平成 18 年 計 606 件）
 - i) 耳科領域手術：105 件
 - ii) 鼻科領域手術：126 件
 - iii) 口腔・咽頭領域手術：65 件
 - iv) 頭頸部腫瘍領域：188 件
 - v) 喉頭・気管食道領域：122 件

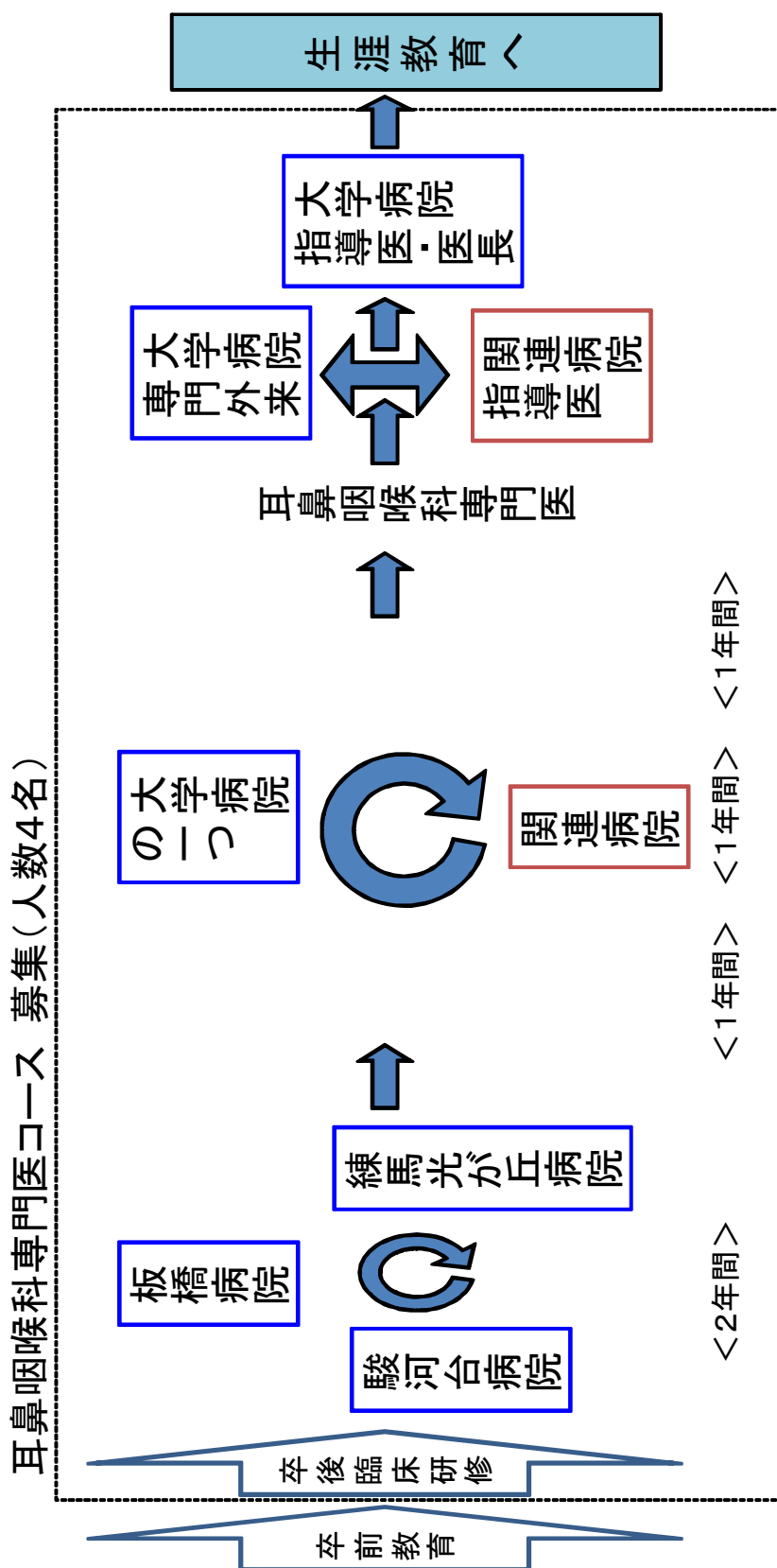
(4) コースの指導状況

日本大学医学部附属板橋病院においては、耳鼻咽喉科専門医 10 名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。週一回部長による回診、腫瘍専門回診ならびに入院・手術症例の症例検討会を開催しており、また抄読会も週一回ある。その他各専門外来で、耳鼻科の各専門領域を学ぶことができる。関連病院である川口市立医療センターでは専門医である部長、医長が専門的指導をしている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科専門医
資格要件	(1) 日本の医師免許を有する者 (2) 専門医認定申請時において、引き続き 3 年以上学会正会員である者 (3) 認可された耳鼻咽喉科専門医研修施設において、定められた研修カリキュラムに従い、4 年以上の研修を終了した者
学会の連携等の概要	

専門研修による医師キャリア形成システム



32 放射線診断専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本医学放射線学会放射線診断専門医の取得を目標とする。

初期臨床研修終了後、3年間は放射線科専門医の要件である画像診断、I V R及び放射線治療を修得し、放射線科専門医試験を経て専門医を取得する。その後の2年間のうち1年は関連病院において放射線科医として指導医のもと画像診断、I V Rを行う。残りの1年は、大学病院において研修をおこなう。後期2年の研修により、放射線診断専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：放射線診断専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	放射線科	放射線診断学	7	放射線診断の専門的診療能力の修得	3	4年間
川口市立医療センター	放射線科	放射線診断学	3	I V Rを主とした放射線診療の修得	1	1
				受入人数	4	

(3) コースの実績

1. 画像診断読影件数：X線CT 60件/日、MRI 50件/日、RI 25件/日等
2. I V R 2件/週
3. 画像診断カンファレンス 1回/週（毎週木曜日午前8時より）

(4) コースの指導状況

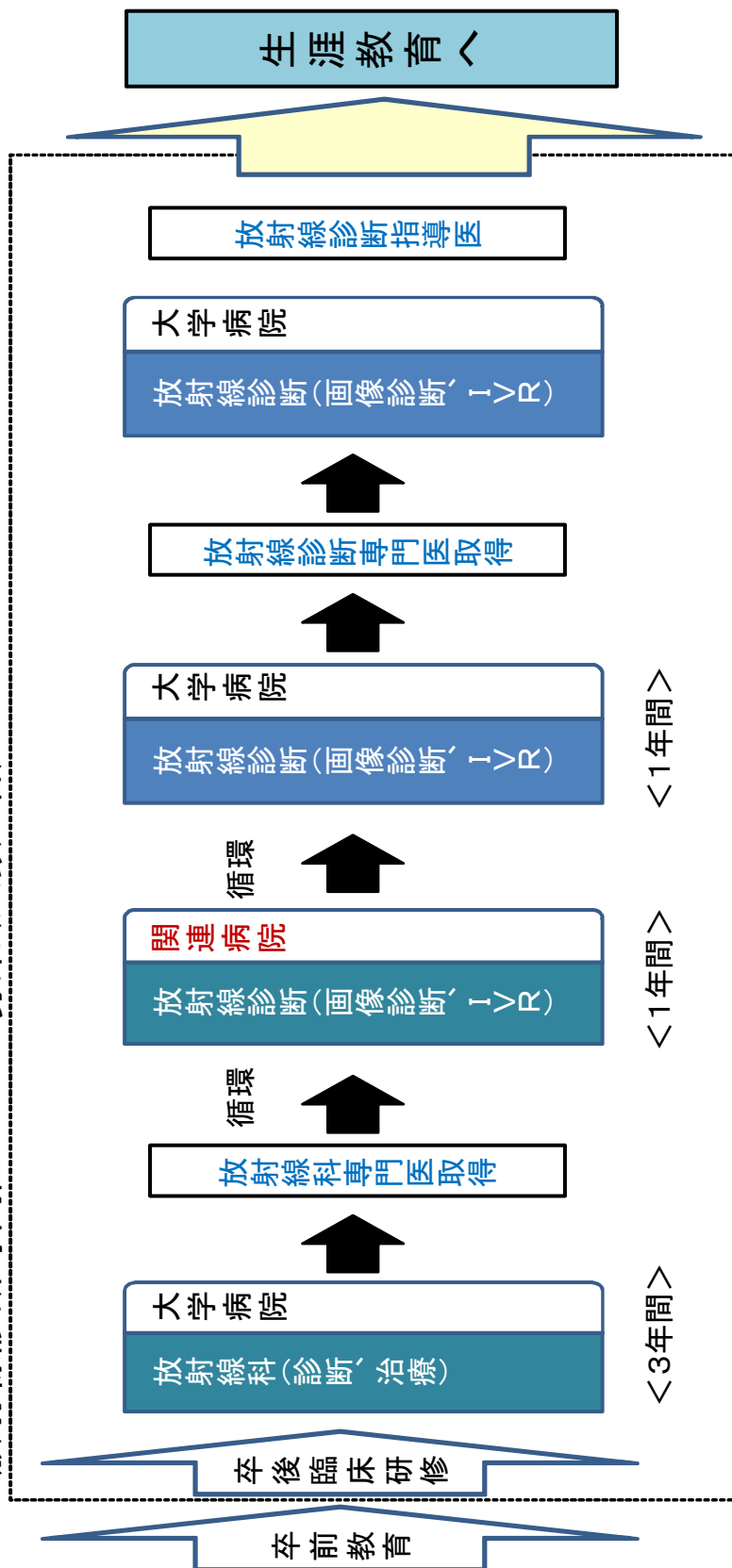
日本大学医学部附属板橋病院においては、放射線科指導医2名及び専門医5名の計7名で専門的放射線診断を行っている。画像診断については、読影レポートシステムを用い、研修医が一次診断レポートを作成し指導医専門医がチェックしてフィードバックしている。I V Rについては指導医のもと助手として技術修得にあわせて、検査を施行する。症例報告等の学会発表を指導している。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本医学放射線学会
資格名	放射線診断専門医
資格要件	(1) 放射線科専門医は、初期臨床研修終了後、本学会正会員となつて3年以上で、その間3年以上は学会が認定した修練機関において画像診断、I V R、放射線治療を研修し、専門医試験に合格したもの。 (2) 放射線診断専門医は、専門医試験合格後、2年以上学会が認定した修練機関において画像診断、I V Rを研修し、診断専門医試験に合格したもの
学会の連携等の概要 修練機関及び専門医について定期的な審査更新制度を有する。	

専門研修による医師キャリア形成システム

放射線診断専門コース 募集(人数2名)



33 放射線治療専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、日本医学放射線学会放射線治療専門医の取得を目標とする。

初期臨床研修終了後、3年間は放射線科専門医の要件である放射線治療、画像診断、及びI V Rを修得し、放射線科専門医試験を経て専門医を取得する。その後の2年間、放射線科医として指導医のもと放射線治療外来及び放射線治療計画を行う。後期2年の研修により、放射線治療専門医の受験資格を得る。

(2) コースの概要

コース名：放射線治療専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	放射線科	放射線治療学	2	放射線治療の専門的診療能力の修得	2/年間	5年間
				受入人数	2	

(3) コースの実績

1. 年間約700の放射線治療を行っている。
2. 通常の外照射に加え、RALS、定位照射、前立腺シード療法などを施行している。
3. 放射線治療のための定期カンファレンスを2回/週行い、治療患者全員を治療計画前に検討している。他科とのカンファレンスは乳腺外科、病理科、小児科、小児外科、血液内科、泌尿器科、耳鼻科と定期的に行っている。

(4) コースの指導状況

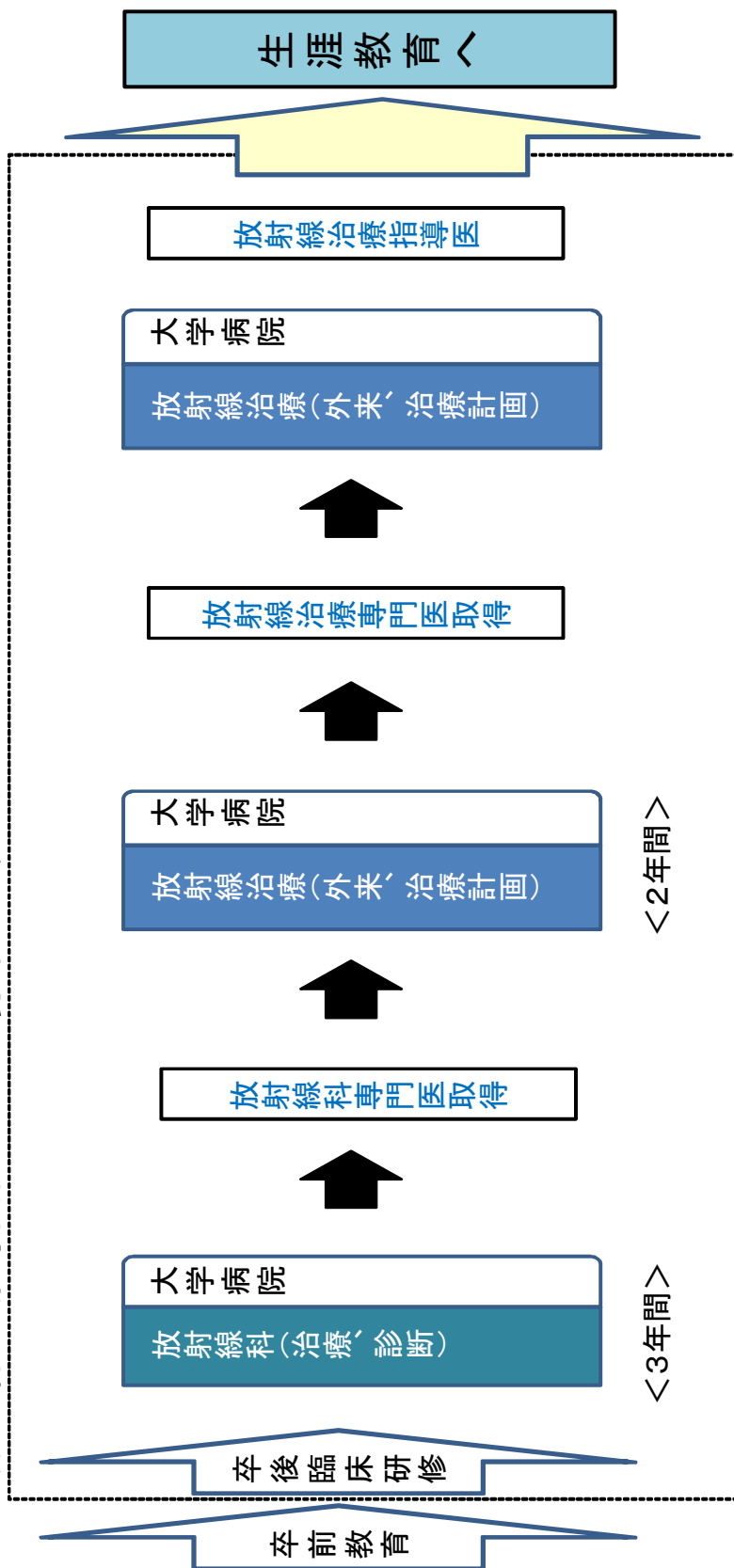
日本大学医学部附属板橋病院においては、日本医学放射線学会放射線治療指導医および日本放射線腫瘍学会認定医2名で専門的放射線治療を行っている。放射線科認定医取得までの2年間は画像診断、I V Rに加えて、放射線治療について治療計画、外来診療（陪席）、放射線治療定期カンファレンス等を指導医のもとで研修する。後期2年については、放射線治療を専修する。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本医学放射線学会
資格名	放射線治療専門医
資格要件	(1) 放射線科専門医は、初期臨床研修終了後、本学会正会員となつて3年以上で、その間3年以上は学会が認定した修練機関において画像診断、IVR、放射線治療を研修し、専門医試験に合格したもの。 (2) 放射線治療専門医は、専門医試験合格後、2年以上学会が認定した修練機関において放射線治療を研修し、治療専門医試験に合格したもの。
学会の連携等の概要 修練機関及び専門医について定期的な審査更新制度を有する。	

専門研修による医師キャリア形成システム

放射線治療専門医コース 募集(人数2名)



34 麻酔科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは、麻酔科学会専門医の取得を目標とする。初期臨床研修期間中に経験した麻酔症例の加えて、ガス麻酔器を用いた全身麻酔症例計300例の麻酔管理自験例を獲得するか、研修指定病院（板橋病院、駿河台病院、光が丘病院）における2年間の麻酔臨床研修によって、国が保障する麻酔標榜医とともに日本麻酔科学会が認定する麻酔学会認定医を取得する。麻酔症例の内容は特定の科に偏らないことが求められるが、3病院とも複数の臨床科の手術症例があるので問題はない。この間、週1回の症例検討会、勉強会を通して各種麻酔法に関する知識を深める。また附属3病院のローテーションを行い、板橋病院における極小小児麻酔、心臓麻酔、呼吸器外科など、駿河台病院におけるペインクリニック、緩和医療、光が丘病院における地域医療などを経験する。これらのローテーションは初期臨床研修語3年間を通して行い、日本麻酔科学会の専門医試験を受験する。

(2) コースの概要

コース名：麻酔科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
駿河台日本大学病院、板橋病院、または練馬光が丘病院	麻酔科	麻酔科学 疼痛管理学	20	全科にまたがる豊富な麻酔能力の習得	4	5年間
				受入人数	4	

(3) コースの実績

1. 年間麻酔件数（最近の5年間の平均）：①板橋病院：約6000症例、②駿河台病院：約2200症例、③練馬光が丘病院：約1800症例
2. 麻酔科専門医数・計20名
3. ペインクリニック外来患者数：約300名
4. がん疼痛管理入院患者数：約100名

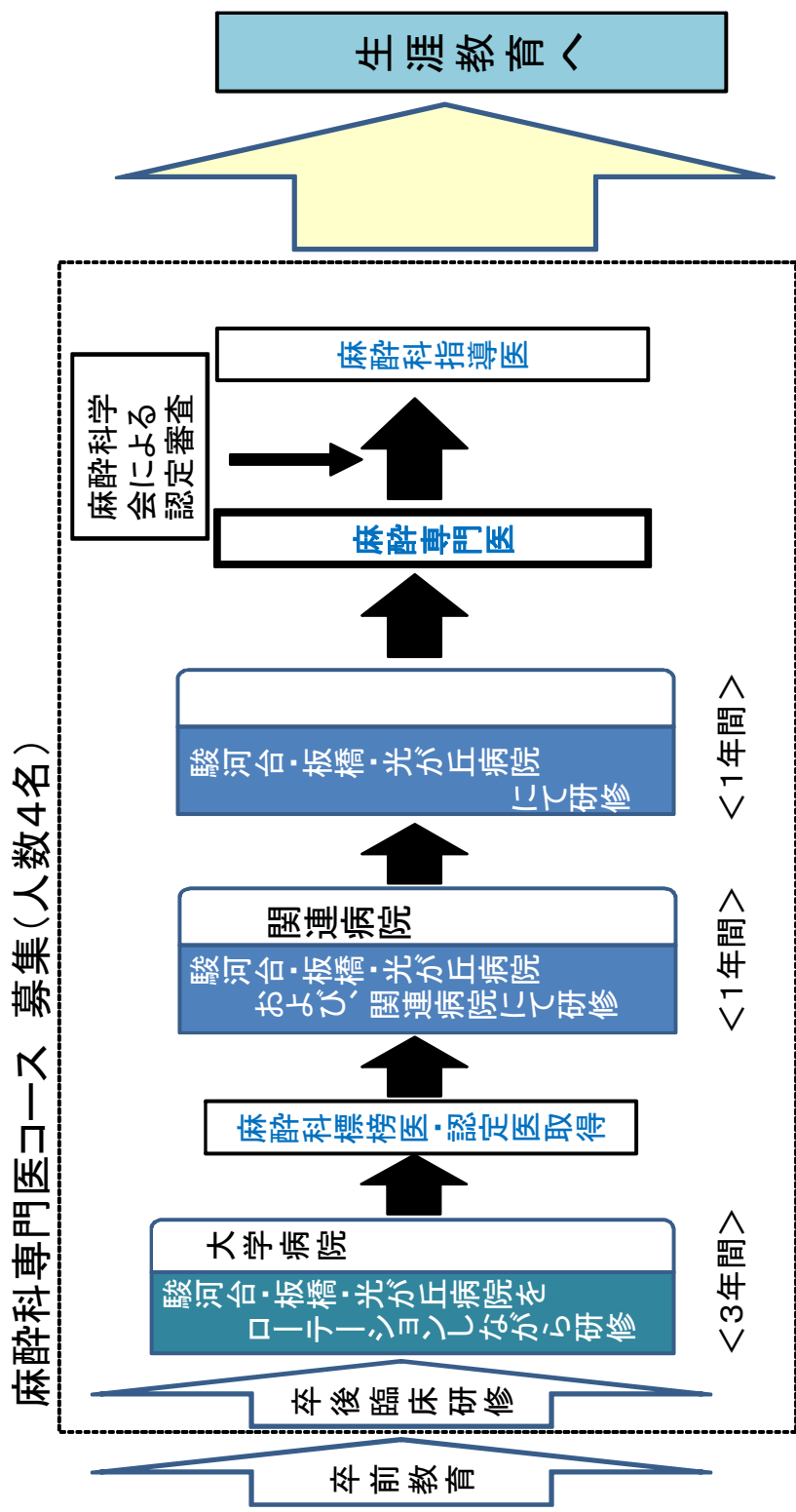
(4) コースの指導状況

3附属病院、関連病院において、多くの麻酔専門医が手厚い指導に当たっている。術前診察、コンサルテーション、重症例における各科との綿密な検討会を開催し、麻酔の実施に当たってもマンツーマンの指導を行っている。ペインクリニック診療を通して各種疼痛管理を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本麻酔科学会
資格名	日本麻酔科学会認定 麻酔専門医
資格要件	(1) 申請時において、継続5年以上の日本麻酔科学会会員であること。 (2) 麻酔認定医(すなわち麻酔標榜医)であること。 (3) 麻酔学会員として3年以上経過した時点で、筆記試験の受験資格が得られる。 (4) その後の口答試験、実技試験は会員として5年以上を経過したもので、所定の麻酔科関連学会における発表、学術論文による研究業績を有し、偏らない麻酔症例を経験したものに對し、口答試験、実技試験の受験資格が与えられる。 (5) 上記、実技試験を行うことが本学会の特徴である。
学会の連携等の概要 日本麻酔科学会は6つの地方会支部のほか、以下の関連学会と連携している。日本臨床麻酔学、日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本ペインクリニック学会、日本疼痛学会、など。	

専門研修による医師キャリア形成システム



35 救急科専門医コース

(1) コースの全体像

日本救急医学会救急科専門医資格を取得することを目標とした救急集中治療医学の修学である。救命救急センターの初療室 (emergency room: ER), 集中治療室(intensive care unit:ICU), 冠動脈疾患集中治療室 (coronary care unit:CCU), 脳卒中集中治療室 (stroke care unit: SCU), 熱傷治療室(burn care unit:BCU)における診療を担当し, 救急医療, 集中治療における重要な手技, 評価法, 治療法を修得する。この期間は, 指導医による直接の指導に加え, 週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて治療の基本を学ぶ。当センターは東京都23区内に3カ所しかない正式なアメリカ心臓協会(AHA)トレーニングサイトの1つであり, 救急心血管治療, 救命処置 (ACLS, BLS) 研修コースを行っている。また外傷研修コース, 災害研修コース, 不整脈研修コースを行っている。これらのコースに参加し, ACLS・BLSインストラクターの資格を取得する。この研修期間に, 救急・集中治療医学に関する学会発表 (海外での学会発表を含む) を少なくとも5回および筆頭論文を少なくとも2編行う。

(2) コースの概要

コース名：救急科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	救命救急センター	救急医学系 救急集中治療医学分野	8	救急(2~3次)疾患対応能力を修得する。 高度救命処置, 外傷初期診療, 集中治療を修得する。	4	3年間
				受入人数	4	

(3) コースの実績

- 救命救急センター入院病棟数：36床 (ICU 23床 CCU 6床 SCU 6床 BCU 1床)
- 救急医学担当指導医および専門医：8名
- 年間患者数(3次救急)：平成22年2,461名, 平成21年2,155名, 平成20年1,970名, 平成19年1,570名, 平成18年1,472名
- 3次救急患者診療実績 (最近3年間)

心肺停止	約25%
急性心筋梗塞・心不全	約20%
多発外傷・外傷	約10%
重症脳血管障害	約10%
急性呼吸不全	約5-10%
急性中毒	約10%
重症急性膵炎	約5%
急性腹症	約5%

重篤代謝性障害	約2-5%
重症熱傷	約1%

(4) コースの指導状況

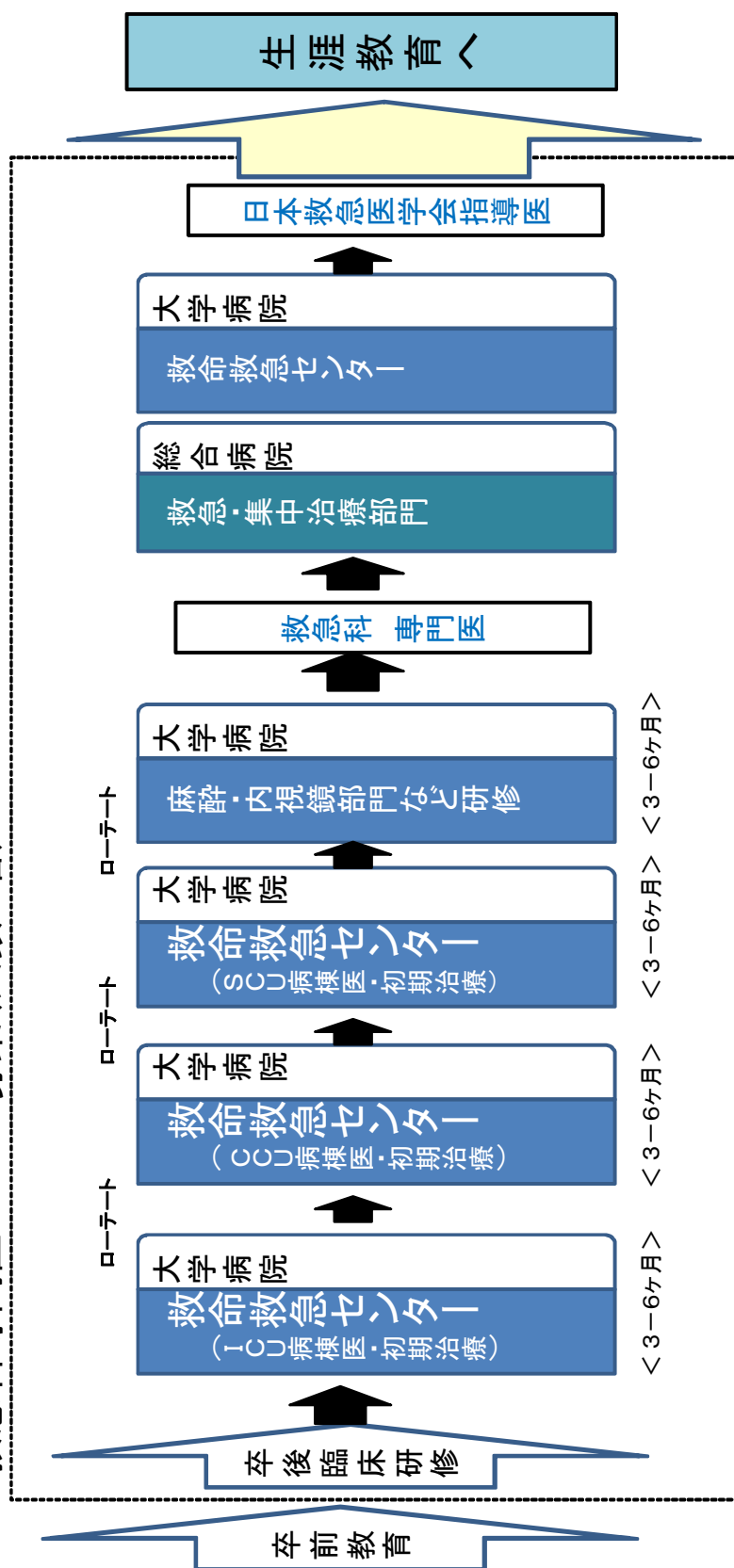
診療は班単位で行っている。各班に所属し指導医が直接指導する。指導医のほとんどは、日本救急医学会認定 ACLS, 外傷初期診療 (JATEC), アメリカ心臓協会公認 BLS・ACLS インストラクターおよび救急科専門医であり、公的な教育資格を有している。また CCU 指導医は循環器科専門医であり、SCU 指導医は脳卒中専門医・脳外科専門医である。定期的に、症例検討会、教育セミナー、ACLS コース、外傷研修コース、不整脈研修コースを行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本救急医学会
資格名	救急科専門医
資格要件	<p>(1) 申請時において、継続して3年以上本学会の会員であること。 5年以上の臨床経験を有すること。</p> <p>(2) 研修施設は救急医学会専門医が指導的立場で勤務し、重症患者を中心に十分な救急活動が行われている総合病院および救急専門施設であり、専門医の修練の場としての設備、人数および教育的スタッフを含めた救急医療体制が整っていることが条件である。</p> <p>(3) 救急医療の教育に関する適切な指導者のいる専門医指定施設に3年以上勤務し、一専門分野に偏らず、十分な救急医療の実績を有する者である。</p> <p>(4) 必要な診療実績は、下記からなっている。 A: 必要な手技29項目 (心肺蘇生法、気管挿管、直流除細動、胸腔ドレーン挿入、胃洗浄、創傷処置、骨折整復・牽引・固定、中心静脈カテーテル挿入、人工呼吸管理、超音波検査、気管切開、全身麻酔、血液浄化法、内視鏡検査など) B: 必要な知識31項目 (緊急画像検査、緊急心電図の解説、緊急検査データの評価、緊急手術の適応、緊急薬剤の使用法、ショックの診断と治療、意識障害の診断と治療、不整脈の診断と治療など) C: 必要な症例(病態を含む)24項目 (中枢神経疾患、循環器疾患、胸部外傷、腹部外傷、多発外傷、心肺停止、熱傷、中毒、異物など)</p>
学会の連携等の概要	<p>5年以上の専従もしくは指定する専門医(あるいは認定医等)の資格を有し通算2-3年以上の勤務経験のある場合、日本集中治療医学会の認定する集中治療専門医の修得が可能である。(日本集中治療医学会専門医コース参照)</p>

専門研修による医師キャリア形成システム

救急科専門医コース 募集(人数4名)



36 集中治療専門医コース

(1) コースの全体像

日本集中治療医学会専門医資格を取得することを目標とした集中治療医学の修学である。救命救急センターの初療室 (emergency room: ER), 集中治療室(intensive care unit: ICU), 冠動脈疾患集中治療室 (coronary care unit: CCU), 脳卒中集中治療室 (stroke care unit: SCU), 熱傷治療室(burn care unit: BCU)における診療を担当し, 集中治療における重要な手技, 評価法, 治療法を修得する。この期間は, 指導医による直接の指導に加え, 週一回の部長・科長回診および症例検討会等を通じて治療の基本を学ぶ。

日本集中治療医学会に所属し5年間, もしくは日本集中治療医学会の指定する専門医の資格を有する場合は, 通算2-3年以上の後期研修(既存の専門医資格により異なる)を終了すれば集中治療専門医の取得が可能である。

通常の縦割りの臓器別診療科では救命困難な多発外傷患者管理, 最重症の敗血症や急性膵炎に対し人工臓器(人工呼吸器や血液浄化装置)を用いた管理, 心肺停止患者に対し体外循環を使用した管理など, 重症患者に対する集中治療を実践する。

大学院への進学を希望する場合は一学年あたり最大4名まで受け入れ可能である。最短で4年次までに博士論文を製作し博士課程を修了する。大学院へ進学しない場合は9年次までに博士論文を作成し学位(医学博士)の取得が可能である。この研修期間に, 救急・集中治療医学に関する学会発表(海外での学会発表を含む)を少なくとも5回および筆頭論文を少なくとも2編行う。

(2) コースの概要

コース名：集中治療専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	救急救命センター	救急医学系救急集中治療医学分野	8	重症患者(多発外傷患者, 敗血症・心肺停止蘇生後・重症脳損傷など)の病態解析能力と集中治療法を修得する。	4	3-5年間(既存の資格により異なる)以上
				受入人数	4	

(3) コースの実績

- 救命救急センター入院病棟数：36床(ICU 23床 CCU 6床 SCU 6床 BCU 1床)
- 救急医学担当指導医および専門医：8名
- 年間患者数(3次救急)：平成22年2,461名, 平成21年2,155名, 平成20年1,970名, 平成19年1,570名, 平成18年1,472名
- 3次救急患者診療実績(最近3年間)

心肺停止	約25%
急性心筋梗塞・心不全	約20%
多発外傷・外傷	約10%

重症脳血管障害	約10%
急性呼吸不全	約5-10%
急性中毒	約10%
重症急性膵炎	約5%
急性腹症	約5%
重篤代謝性障害	約2-5%
重症熱傷	約1%

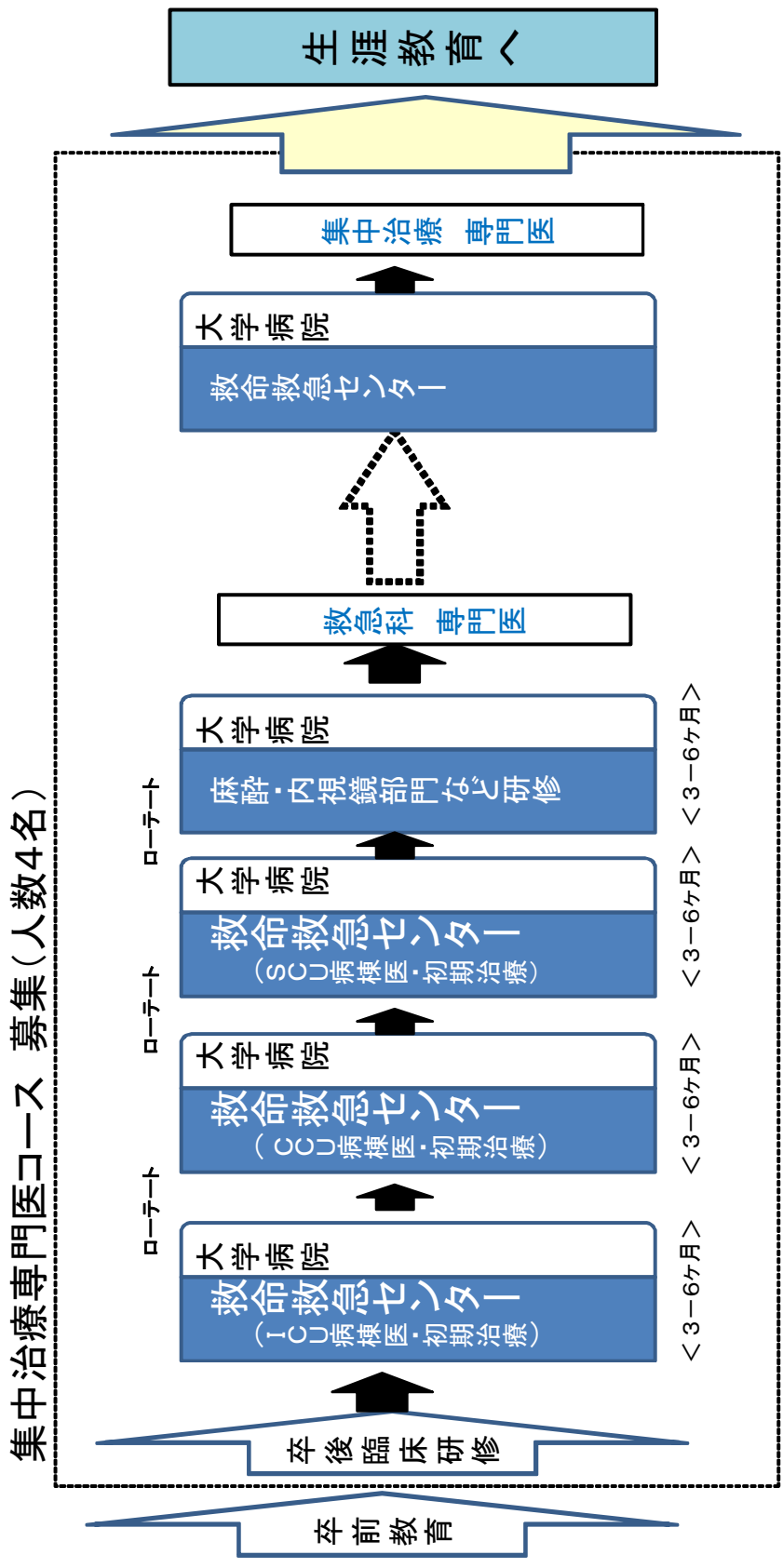
(4) コースの指導状況

重症外傷，脳卒中，急性冠症候群，急性腹症，急性中毒，重症熱傷，心肺停止，急性心不全，急性呼吸不全などの重症患者に対する集中治療管理を行う。集中治療室はICU，CCU，SCU，BCUを擁する。診療は班単位で行っている。各班に所属し指導医が直接指導する。集中治療専門医以外に，救急科専門医，麻酔科，外科，循環器科，脳卒中専門医・脳外科専門医などが指導にあたる。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本集中治療医学会
資格名	集中治療専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医師免許証取得後5年以上の臨床経験者で，集中治療に関して深い知識と経験を有すること。 2. 申請時に連続して5年以上，日本集中治療医学会会員の経歴を有すること。 3. 指定する専門医（あるいは認定医等）の資格を有し，日本集中治療医学会の認定する集中治療専門医研修施設において通算2-3年以上の勤務経験（既存の専門医資格により異なる）を有すること。 4. 学術論文については，集中治療に関する論文であること。申請者が筆頭者であるもの（原著，総説あるいは症例報告，短報）を1編以上含めて，主な論文3編以上を記載する。なお，記載論文のうち主な3編については別刷りを添付すること。 5. 学術集会発表については，集中治療に関する内容であり，申請者が筆頭者として発表したもの3題以上を記載する。なお，そのうち1題以上は日本集中治療医学会学術集会において発表したものとする。学術集会発表証明は学術集会抄録をもって行う。 6. 学術集会出席については，日本集中治療医学会学術集会2回以上と地方会2回以上の出席が必要である。また，学術集会出席証明は出席証明書をもって行う。 7. その他
学会の連携等の概要	<p>当救命救急センターで5年以上の専従もしくは指定する専門医（あるいは認定医等）の資格を有し通算2-3年以上の勤務経験のある場合，日本集中治療医学会の認定する集中治療専門医以外に日本救急医学会救急科専門医の修得が可能である。（日本救急医学会救急科専門医コース参照）</p>

専門研修による医師キャリア形成システム



救急科専門医修得後に集中治療専門医を取得した場合の1例

37 病理専門医コース

(1) コースの全体像

(社) 日本病理学会認定病理専門医資格の取得を目標とするコースである。初期研修終了後、病理学会専門医制度運営委員会作成の研修要綱にそった研修を行う。初年度は人体病理学の基礎である病理形態学について剖検（病理解剖）を通じて学び、2年目終了まで死体解剖資格認定（厚労省）を得るのに必要な剖検体数（20体）を経験する。これと併行して生検ならびに手術検体を通して診断病理学の基礎（病理組織診断、細胞診、術中迅速診断）を修得する。加えて、免疫組織化学、電子顕微鏡、分子生物学的手法について知識と技術を修得する。3年目は2年目に引続き本院および研修協力施設（分院ならびに関連病院病理部）において上記研修内容についての研鑽を積む。また、研究会、学会ならびに講習会等へ積極的に参加し、専門知識の修得に努め、自らも学会発表や論文発表を目指す。4年目終了までに専門医受験資格に必要な研修要綱を満たすことを目指す。

(2) コースの概要

コース名：病理専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	病理診断科	病理学	10	診断病理学に関する専門的診断・診療能力を修得、遺伝子診断に関する基礎的診断能力の修得	3	2年6ヶ月間
駿河台日本大学病院	病理診断科 /病理部	病理学	2	施設特性を活かした診断病理学に関する専門的診断能力を修得	1	6ヶ月
日本大学医学部附属練馬光が丘病院	病理診断科 /病理部	病理学	1	施設特性を活かした診断病理学に関する専門的診断能力を修得	1	6ヶ月
* 関連病院	病理診断科 /病理部	病理学	1	施設特性を活かした診断病理学に関する専門的診断能力を修得	1	6ヶ月
				受入人数	4	

* 関連病院については病理専門医・指導医の常勤する施設とし、コース専攻者が選択できるものとする。

(3) コースの実績

1. 病理専門医・指導医 11名、口腔病理専門医・指導医 1名
2. 剖検数 (約 170 体、3 病院合計)
3. 病理件数 (組織診約 20,000 件、術中迅速診断約 1000 件、細胞診約 22,000 件)
4. カンファレンス等 (病院 CPC、乳癌カンファレンス、駿河台/光が丘病院 MC、肝胆膵カンファレンス、細胞診講習会)

(4) コースの指導状況

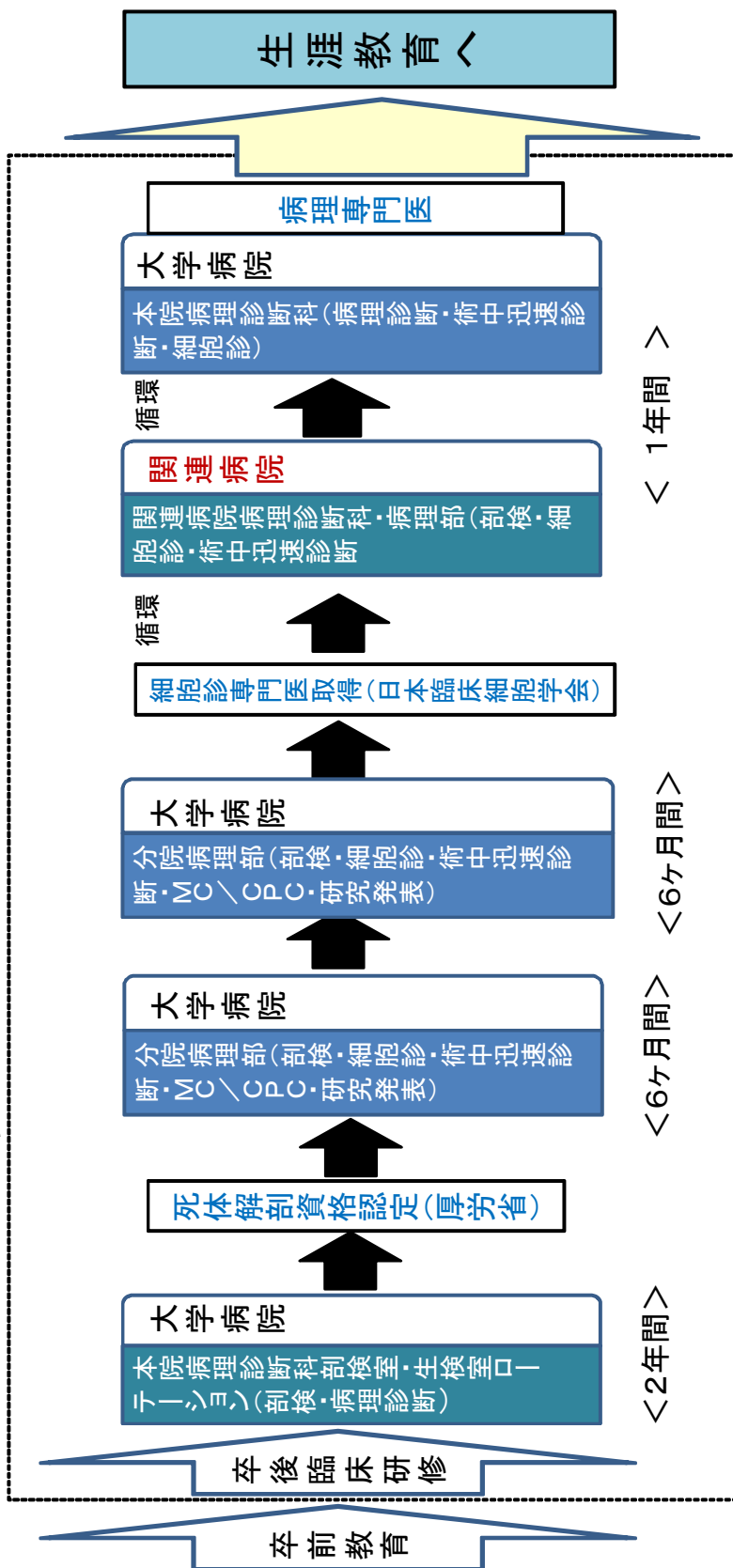
板橋病院においては 9 名の病理専門医・指導医と 1 名の口腔病理専門医・指導によって病理組織診断、術中迅速診断、細胞診および剖検診断が行われている。駿河台病院ならびに練馬光が丘病院においてはそれぞれ 2 名および 1 名の病理専門医・指導医による診断体制が敷かれているが、状況により随時病理専門医を派遣し診療にあたっている。各病院における CPC、カンファレンスは担当の病理専門医ないし口腔病理専門医がこれに対応している。

(5) 専門医の取得等

学会等名	(社) 日本病理学会
資格名	(社) 日本病理学会認定 病理専門医/口腔病理専門医・指導医
資格要件	
学会の連携等の概要 日本病理学会は専門医受験のための系統的病理診断シリーズ、細胞診講習会、病理技術講習会を行っている。関東支部では年 4 回の学術集会と 1 回の夏期診断学講座を開催し、専門医育成と病理医の生涯教育を行っている。	

専門研修による医師キャリア形成システム

病理専門医コース 募集(人数4名)



38 臨床検査専門医コース

(1) コースの全体像

臨床検査が日常の医療に不可欠なものである事は異論のないところだが現在の日本では臨床検査の評価については必ずしも高いとは言えない。特に検査実施料の引き下げがここ10年以上続いている。その中で臨床検査が予防医学上重要であることの認識や、遺伝子関連検査などの拡大で徐所に長所が認知されつつある。そうした医療状況で臨床検査専門医は日本専門医制度評価・認定機構 (<http://www.japan-senmon-i.jp/number/index.html>) によって基本領域学会（現在18学会）の専門医と定められている。つまり外科専門医、小児科専門医などと同じように、次のステップであるSubspecialtyの学会、多領域に横断的に関連する学会などの専門医を取得するのになくてはならない資格として認識されている。平成20年3月現在605名はもっとも基本領域学会専門医のうちもっとも少なく希少価値がたいへんある。

(2) コースの概要

コース名：臨床検査専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	臨床検査医学科	病態病理学系臨床検査医学分野	3	臨床検査医学に関する基本的知識・技術の修得	2	1年
駿河台日本大学病院	臨床検査医学科	病態病理学系臨床検査医学分野	2	臨床検査医学に関する基本的知識・技術の修得	2	1年
日本大学医学部附属板橋病院および練馬光が丘病院	臨床検査医学科	病態病理学系臨床検査医学分野	3	臨床検査医学に関する基本的知識・技術の修得	2	2年
				受入人数	2	

(3) コースの実績

コース教員が過去に指導した学位、論文実績は医学博士課程大学院学生では5名の指導論文がImpact Factor (IF) 付きの国際学術雑誌に掲載された(1学生あたり1-4論文の計10件で)。大学院以外の医師を1名指導しIF論文1件で医学博士学位授与に、4年制他大学学生では3名についてIF論文で工学修士取得にかかわった。すべての論文でcorresponding authorである。これら学問的実績を本コースにも生かしていく。

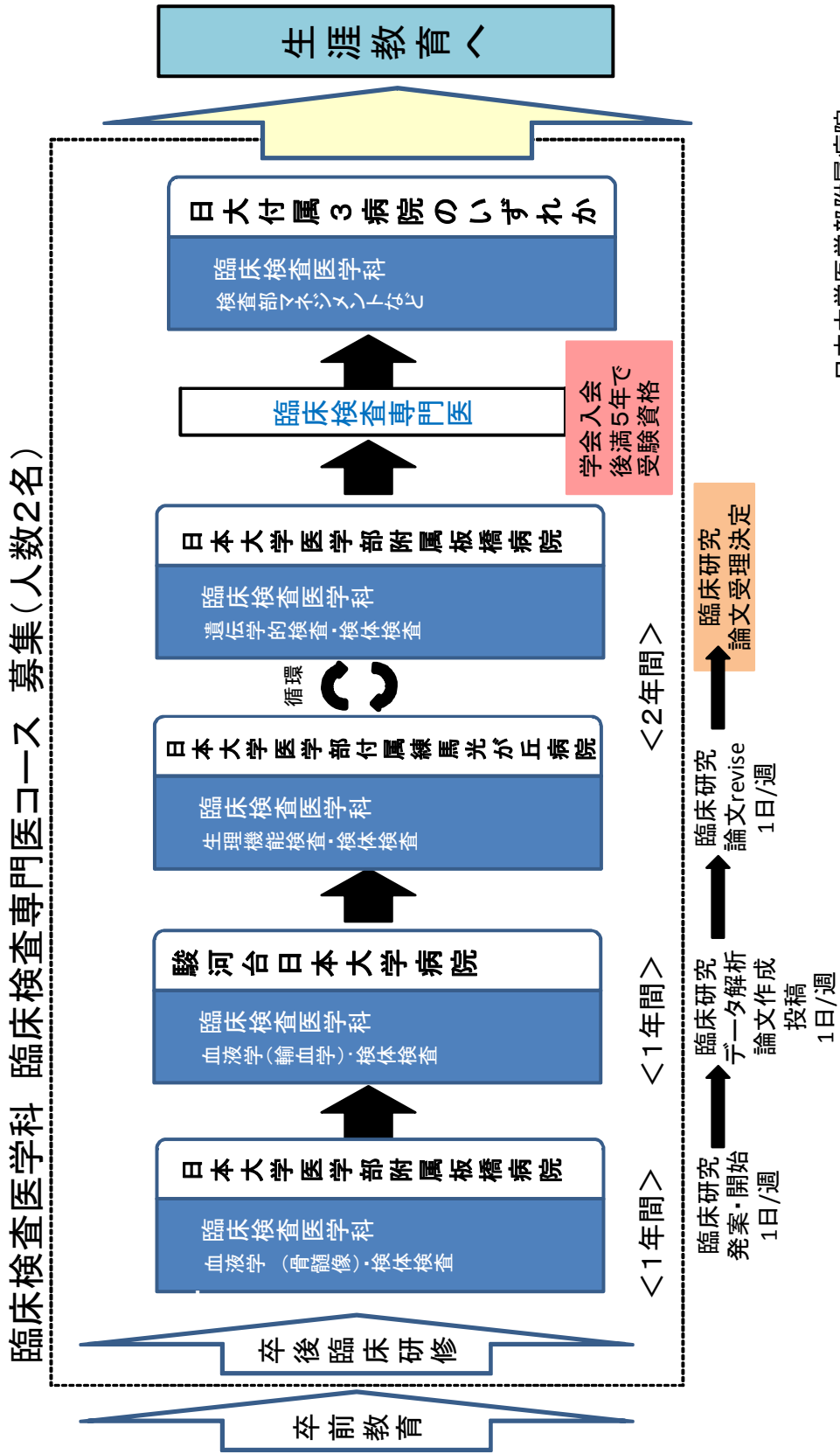
(4) コースの指導状況

臨床検査専門医、臨床検査管理医が病院内で実際の診療・検査室の場で日常必要な知識・技術に肌で触れることによって吸収できるようにする。また医学部教室内でカンファレンスなどを通して丁寧に進捗状況を把握して個々に必要なアドバイスをしている。また学会が主催する学術集会やセミナーに積極的に参加することによって各自の知識レベルを確認するとともに、より高いレベルを修得できるように努めている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本臨床検査医学会
資格名	日本臨床検査医学会認定 臨床検査専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none">1) 日本国の医師免許証を有し、医師としてふさわしい人格・識見を持つこと。2) 出願時満5年以上継続して日本臨床検査医学会の会員であること。 ただし日本専門医制評価・認定機構の定める基本領域の学会の専門医(内科は認定医でもよい)取得後(2005年以前に取得)に、臨床検査専門医を志向し研修を開始した者は、選択科目の試験が免除され、必要な会員歴は3～5年とする(現在、移行中)。3) 日本臨床検査医学会の定める研修プログラムにより、5年間の研修を修了していること ただしこの研修歴の年数も2)に準ずる。4) 日本臨床検査医学会の認定する認定研修施設において以下の内容の全てを含む研修を、2年以上終えていること。a) 臨床検査医学(臨床病理学)総論(医療倫理、医療安全も含む)、b) 一般臨床検査学、c) 臨床血液学、d) 臨床化学、e) 臨床微生物学(感染症学を含む)、f) 臨床免疫学、g) 輸血学5) 臨床検査室等での日常業務内容を証明する、各種のコンサルテーション記録、骨髄像報告書、免疫電気泳動報告書、染色体分析報告書、その他の臨床検査医による解釈・コメント付き検査報告書、On-Call カンファレンス記録等20編を提出すること。6) 臨床検査医学(臨床病理学)に関する筆頭者としての原著論文、または学会報告が3編以上あること。
学会の連携等の概要	本学の臨床検査医学講座(分野)出身者は、日本臨床検査医学会の会長(理事長)及び理事経験者も多く、日本臨床検査医学会に対する貢献度は高い。

専門研修による医師キャリア形成システム



39 臨床遺伝専門医コース

(1) コースの全体像

遺伝子診療は今後の医学・医療の将来を担う領域と考えられ、社会のニーズが年々高まっているのは明らかである。最近、遺伝病 15 疾患が保険診療として算定が認可され、また遺伝学的検査に引き続いて実施する遺伝カウンセリングについても同時に保険診療として算定可能となった。しかし、遺伝子診療や遺伝カウンセリングを担うべき医師の遺伝学教育はいまだ旧態然としており、その育成が急務である。日本人類遺伝学会と日本遺伝カウンセリング学会が認定する臨床遺伝専門医はこの数年、受験者・認定者が伸びており、今後の遺伝子診療の担い手になるのは間違いない。

(2) コースの概要

コース名：臨床遺伝専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
日本大学医学部附属板橋病院	臨床検査医学科	病態病理学系臨床検査医学分野	1	臨床遺伝学に関する基本的知識・技術の修得	1	1年
日本大学医学部附属板橋病院および練馬光が丘病院	臨床検査医学科	病態病理学系臨床検査医学分野	1	臨床遺伝学に関する基本的知識・技術の修得	1	1年
日本大学医学部附属板橋病院および千葉大学医学部附属病院	臨床検査医学科および遺伝子診療部	病態病理学系臨床検査医学分野	6	臨床遺伝学に関する基本的知識・技術の修得	1	3年
				受入人数	1	

(3) コースの実績

コース教員が過去に指導した学位、論文実績は医学博士課程大学院学生では 5 名の指導論文が Impact Factor(IF) 付きの国際学術雑誌に掲載された(1 学生あたり 1-4 論文の計 10 件で)。大学院以外の医師を 1 名指導し IF 論文 1 件で医学博士学位授与に、4 年制他大学学生では 3 名について IF 論文で工学修士取得にかかわった。すべての論文で corresponding author である。これら学問的実績を本コースにも生かしていく。

(4) コースの指導状況

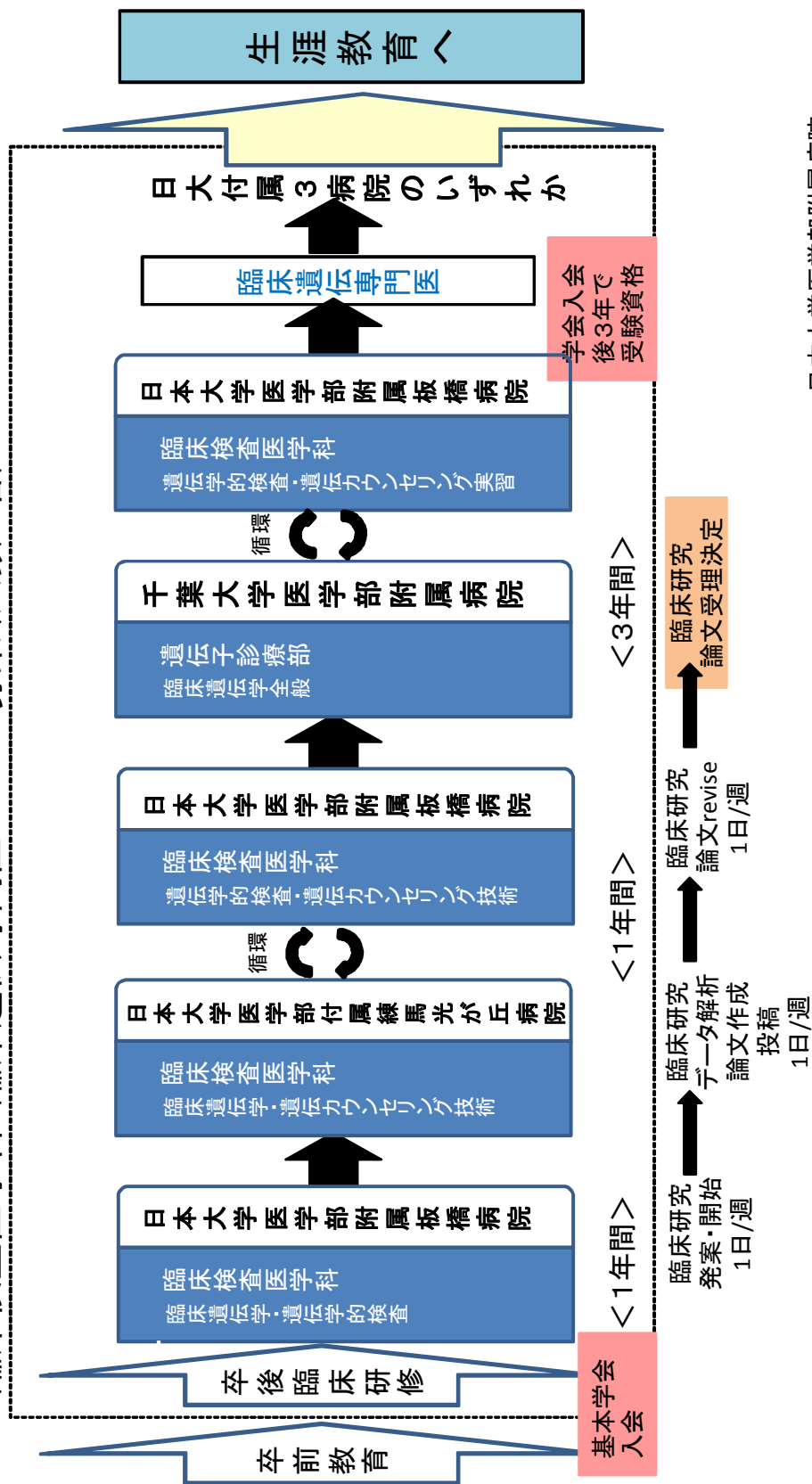
臨床遺伝専門医が病院内で実際の診療・検査室の場で日常必要な知識・技術に肌で触れることによって吸収できるようにする。また医学部教室内でカンファレンスなどを通して丁寧に進捗状況を把握して個々に必要なアドバイスをしている。また学会が主催する学術集会やセミナーに積極的に参加することによって各自の知識レベルを確認するとともに、より高いレベルを修得できるように努めている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会
資格名	臨床遺伝専門医
資格要件	(1) 専門医制度委員会が認定した研修施設において、臨床遺伝学の研修を3年以上行い、認定研修施設に所属する指導医の指導を受けながら、遺伝カウンセリングを含む遺伝医療を実践した者。申請に必要な症例数については別に定める。研修開始届けの受付をもって研修開始とする。認定研修施設以外の施設に在籍する医師の研修については別に定める。 (2) 継続して3年以上、日本人類遺伝学会あるいは日本遺伝カウンセリング学会の会員である者。 (3) 遺伝医学に関係した学術活動（論文発表、学会発表等）を行っている者。詳細については別に定める。 (4) 臨床遺伝専門医到達目標（以下到達目標という）に記載されている能力を有する者。到達目標については別に定める。 (5) 社団法人日本専門医制評価・認定機構の定める基本的領域の学会の専門医（認定医）、あるいは専門医制度委員会が認める専門医（認定医）である者。専門医制度委員会が認める専門医（認定医）については別に定める（2011年度から2013年度まで暫定制度施行中）。
学会の連携等の概要	指導者である中山智祥は日本遺伝カウンセリング学会の遺伝教育委員会委員であり、日本の遺伝教育発展のため尽力している。

専門研修による医師キャリア形成システム

臨床検査医学科 臨床遺伝専門医コース 募集(人数1名)



日本大学医学部附属病院

日本大学医学部関連病院一覧

平成23年7月1日現在

No.	病 院 名	〒	所 在 地	電 話
1	川口市立医療センター	〒333-0833	埼玉県川口市西新井宿180	048-287-2525
2	社会保険横浜中央病院	〒231-8553	神奈川県横浜市中区山下町268	045-641-1921
3	春日部市立病院	〒344-8588	埼玉県春日部市中央7-2-1	048-735-1261
4	公立阿伎留医療センター	〒197-0834	東京都あきる野市引田78-1	042-558-0321
5	板橋区医師会病院	〒175-0082	東京都板橋区高島平3-12-6	03-3975-8151
6	独立行政法人国立病院機構 甲府病院	〒400-8533	山梨県甲府市天神町11-35	055-253-6131
7	静岡県立こども病院	〒420-0953	静岡県静岡市漆山860	0542-47-6251
8	あしかがの森足利病院	〒326-0011	栃木県足利市大沼田町615	0284-91-0611
9	医療法人財団さいたま市民医療センター	〒331-0054	埼玉県さいたま市西区島根299-1	048-626-0011
10	東松山市立市民病院	〒355-0005	埼玉県東松山市大字松山2392	0493-24-6111
11	相模原協同病院	〒252-5188	神奈川県相模原市緑区橋本2-8-18	042-772-4291
12	東京都立広尾病院	〒150-0013	東京都渋谷区恵比寿2-34-10	03-3444-1181
13	小川赤十字病院	〒355-0321	埼玉県比企郡小川町小川1525	0493-72-2333
14	大森赤十字病院	〒143-8527	東京都大田区中央4-30-11	03-3775-3111
15	埼玉県立小児医療センター	〒339-8551	埼玉県さいたま市岩槻区馬込2100	048-758-1811
16	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	〒190-0014	東京都立川市緑町3256	042-526-5511
17	医療法人社団青鷺会 鷺谷健診センター	〒110-0003	東京都台東区根岸2-19-19	03-3873-9161
18	さいたま赤十字病院	〒338-8553	埼玉県さいたま市中央区上落合8-3-33	048-852-1111
19	東京都立大塚病院	〒170-8476	東京都豊島区南大塚2-8-1	03-3941-3211
20	公立福生病院	〒197-8511	東京都福生市加美平1-6-1	042-551-1111
21	本庄総合病院	〒367-0031	埼玉県本庄市北堀1780	0495-22-6111
22	小張総合病院	〒278-8501	千葉県野田市横内29-1	04-7124-6666
23	財団法人河野臨牀医学研究所附属病院	〒140-0001	東京都品川区北品川3-4-4(法人住所)	03-3474-1831
24	財団法人東京都保健医療公社東部地域病院	〒125-8512	東京都葛飾区亀有5-14-1	03-5682-5111
25	埼玉県立精神医療センター	〒362-0806	埼玉県北足立郡伊奈町大字小室818-2	048-723-1111
26	医療法人社団永生会永生病院	〒193-0942	東京都八王子市櫛田町583-15	0426-61-4108
27	長岡西病院	〒940-2081	新潟県長岡市三ツ郷屋町371-1	0258-27-8500
28	取手北相馬保健医療センター医師会病院	〒302-0032	茨城県取手市野々井1926	0297-78-6111
29	社会福祉法人信愛報恩会信愛病院	〒204-0024	東京都清瀬市梅園2-5-9	0424-91-3211
30	医療法人仁愛会茅根病院	〒319-1221	茨城県日立市大みか町2-22-30	0294-52-4455
31	みつわ台総合病院	〒264-0021	千葉県千葉市若葉区若松町531-486	043-251-3030
32	新座志木中央総合病院	〒352-0001	埼玉県新座市東北1-7-2	048-474-7211
33	医療法人社団誠和会白鬚橋病院	〒131-0032	東京都墨田区東向島4-2-10	03-3611-6363
34	癌研有明病院	〒135-8550	東京都江東区有明3-10-6	03-3520-0111
35	医療法人社団一条会一条会病院	〒272-0836	千葉県市川市北国分4-26-1	047-372-5111
36	佐々木研究所附属杏雲堂病院	〒101-0062	東京都千代田区神田駿河台1-8	03-3292-2051
37	財団法人東京都保健医療公社豊島病院	〒173-0015	東京都板橋区栄町33-1	03-5375-1234
38	総合病院厚生中央病院	〒153-8581	東京都目黒区三田1-11-7	03-3713-2141
39	上尾中央総合病院	〒362-8588	埼玉県上尾市柏座1-10-10	048-773-1111
40	東京臨海病院	〒134-0086	東京都江戸川区臨海町1-4-2	03-5605-8811
41	社会福祉法人白十字会 白十字総合病院	〒314-0134	茨城県神栖市賀2148	0299-92-3311
42	医療法人社団良知会 共立習志野台病院	〒274-0063	千葉県船橋市習志野台4-13-16	047-466-3018
43	医療法人豊仁会 三井病院	〒350-0066	埼玉県川越市連雀町19-3	049-222-5321
44	医療法人社団苑田会 苑田第一病院	〒121-0813	東京都足立区竹ノ塚4-1-12	03-3850-5721
45	医療法人社団博栄会 赤羽中央総合病院	〒115-0044	東京都北区赤羽南2-5-12	03-3902-0348
46	医療法人社団大坪会 小石川東京病院	〒112-0012	東京都文京区大塚4-45-16	03-3946-5151
47	医療法人 武蔵野総合病院	〒350-1167	埼玉県川越市大字大袋新田977-9	049-244-6340
48	医療法人社団 藤崎病院	〒136-0076	東京都江東区南砂1-25-11	03-3648-2111
49	医療法人社団借翔会 豊島中央病院	〒170-0012	東京都豊島区上池袋2-42-21	03-3916-7211
50	社会保険相模野病院	〒252-0206	神奈川県相模原市中央区淵野辺1-2-30	042-752-2025
51	医療法人社団苑田会 苑田第三病院	〒121-0807	東京都足立区伊興本町2-5-10	03-5837-5111
52	医療法人財団 健貢会 南東北 東京病院	〒165-8906	東京都中野区江古田3-15-2	03-3387-5421
53	東京都立墨東病院	〒130-8575	東京都墨田区江東橋4-23-15	03-3633-6151
54	財団法人 化学療法研究会 化学療法研究所付属病院	〒272-0827	千葉県市川市国府台6-1-14	047-375-1111
55	医療法人社団 青燈会 小豆畑病院	〒311-0105	茨城県那珂市菅谷605	029-295-2611
56	医療法人社団 博鳳会 敬愛病院	〒173-0036	東京都板橋区向原3-10-23	03-3973-3811